

元総社蒼海遺跡群 (36)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2011. 3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（36）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2011. 3

前橋市教育委員会



1区2面畠跡全景（西から）



2区竈構築材採掘坑跡（南から）



3区調査区全景（下が北）



4区西側調査区全景（西から）（右）W-1号溝跡、（左）W-2号溝跡（堀跡）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳、天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群(36)は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかありませんでしたが、平安時代の竅穴住居跡、中世の掘跡等を検出しました。

今是一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員みなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成23年3月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例 言

- 1 本書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区画整理事業に伴って実施した元総社蒼海遺跡群(36)の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市元総社町1914ほか、総社町総社3136ほか。
- 3 調査は、前橋市教育委員会の指導のもとに委託者 前橋市長 高木政夫(都市計画部地区画整理第二課)の委託を受け、スナガ環境測設株式会社(代表取締役 須永眞弘)が実施した。
調査担当者 神宮 聡(前橋市教育委員会)
 荻野博巳・金子正人(スナガ環境測設株式会社)
- 4 発掘調査期間 平成22年9月9日～平成22年12月10日
 整 理 期 間 平成22年12月11日～平成23年3月11日
- 5 調査面積 1,640㎡
- 6 出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永(眞)、調査助言…金子、調査担当…荻野、測量調査…荻野・須永嘉明・樋口晋悟・瀧澤典雄・中川嗣子・細井美佐子、安全管理…金子、重機オペレーター…金子、作業事務…須永 豊が担当した。
- 8 本書は、前橋市教育委員会の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…Ⅰについては神宮 聡(前橋市教育委員会)、Ⅱ～Ⅵは荻野、遺物観察は瀧澤典雄が担当した。編集・校正…須永(眞)・金子、実測図の整理ほか…須永(嘉)・瀧澤、遺構・遺物のトレース…板垣 宏・須永萬子・瀧澤・五位野 歩美、遺物の整理・実測…佐々木智恵子・星野陽子、遺物洗浄…品川浪江、写真整理・内業事務…須永(豊)・五位野が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々(敬称略・順不同)
長澤俊男 武井知司 北爪一郎 菊川 毅 中村昌博 吉田宣政 品川浪江 岩井十四夫
松井道雄 小林隆一 田所保彦 長岡 保 関口勝司 湯浅覚哉 萩原順一 反町健一郎

凡 例

- 1 遺跡の略称は、22A130-36である。
- 2 調査委託箇所は5箇所、北から南へ順に1区～3区、西から東へ順に4・5区と呼称した。
- 3 遺構名の略称および遺構実測図中の記号は下記のとおりである。
住居跡…H 溝跡…W 土坑…D ビット(柱穴)…P 井戸跡…I 土器…P 石…S
- 4 実測図の縮尺は、下記のとおりである。
遺構 住居跡…1/60 竈…1/30 溝跡・堀跡・畚跡…1/60・1/80・1/100 土坑…1/60
ビット…1/60 井戸跡…1/60 電機架材採掘坑跡…1/40・1/60
全体図…1/80・1/100・1/150・1/200・1/300・1/1000
遺物 土 器…1/3・1/10 瓦…1/6 石製品…1/3・1/6 鉄製品…1/3 埴輪…1/3
- 5 遺構名に(東)・(西)と付したものは、同一調査区内の複数掘削箇所を方位で表した。
- 6 本文中の数値で、()は推定値、[]は現存値を表した。
- 7 土層断面の土色名及び土器類の色調名は、『新版標準土色帖』(農林省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修)2000によった。
- 8 遺物実測図中のスクリーントーンは下記のとおりである。
須恵器の断面… 黒色土器… 施釉部分… 煤附着部分…
- 9 各遺構の面積は、平面図をもとに座標面積計算により算出した。
- 10 土層注記及び本文中には、天仁元年(西暦1108年)降下の浅間山給源テフラの略称をAs-B、6世紀中葉降下の榛名山給源テフラの略称をHr-FP、6世紀初頭降下の榛名山給源テフラの略称をHr-FA、3世紀末葉降下の浅間山給源テフラの略称をAs-Cとして使用した。
- 11 挿図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 12 第1図中の番号は、第1表と対照する。
- 13 第5図中の()番号は畦畔番号を表し、第3表と対照する。
- 14 第7図中の()番号はサク間番号を、それ以外の番号はサク番号を表し、第8表と対照する。

目 次

はじめに	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	1
1 遺跡の位置	1
2 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過	3
1 調査方針	3
2 調査経過	3
IV 層 序	4
V 検出された遺構と遺物	5
1 全調査区の概要	5
2 1区1面の概要	5
(1) As-B 軽石層下水田跡	5
(2) 溝 跡	6
(3) 土 坑	7
3 1区2面の概要	7
(1) 溝 跡	7
(2) 畝 跡	7
4 2区の概要	9
(1) 電構築材採掘坑跡	9
(2) 溝 跡	9
5 3区の概要	9
(1) 住 居 跡	9
(2) 溝 跡	14
(3) 土 坑	14
(4) 井 戸 跡	15
6 4区の概要	15
(1) 電構築材採掘坑跡	15
(2) 溝 跡	16
(3) 土 坑	16
7 5区の概要	17
(1) 溝 跡	17
VI ま と め	17
1 1区1面 As-B 軽石層下水田跡について	17
2 1区2面の畝跡について	18
3 2区・4区電構築材採掘坑跡について	18
4 4・5区の溝跡(堀跡)について	19
5 住居跡の時期と分類	20

挿図目次

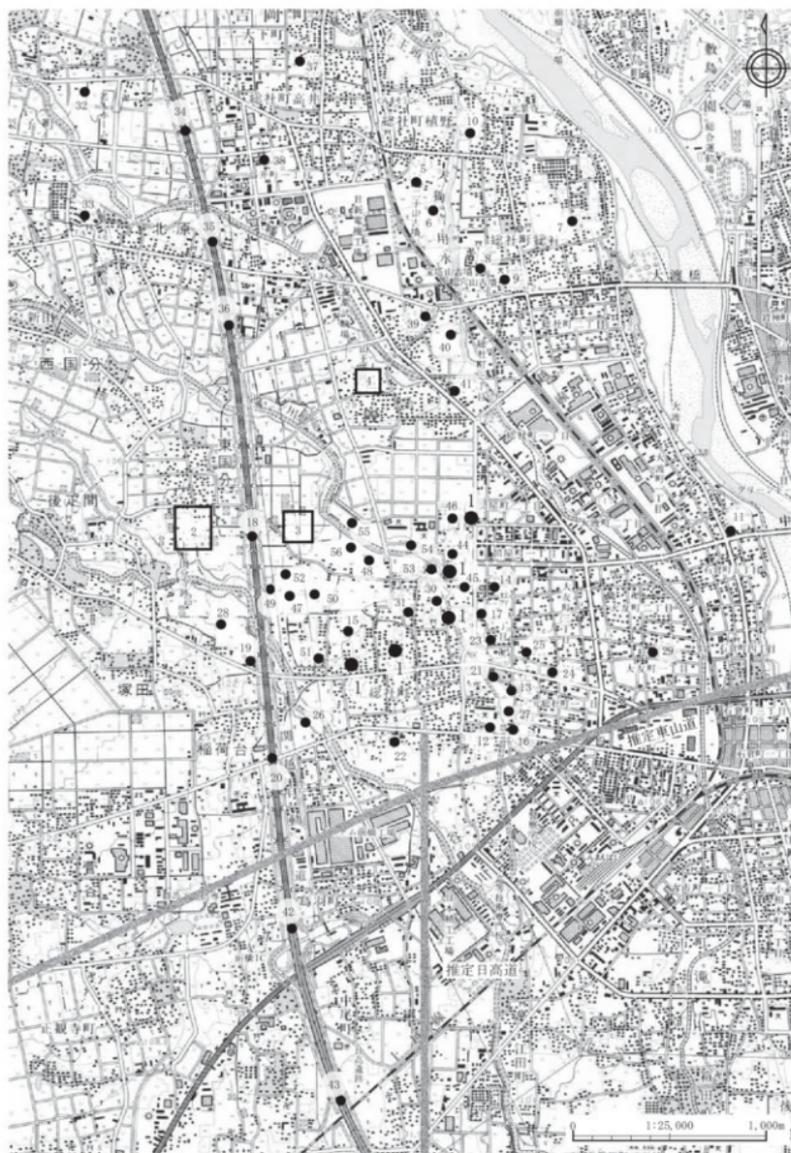
第1図	周辺道跡図	
第2図	元総社蒼海道跡群位置図・グリッド設定図	
第3図	元総社蒼海道跡群 (36) 1～5区基本土層断面図	4
第4図	3区住居跡主軸方向グラフ	20
第5図	1区1面全体図	28
第6図	1区1面As-B軽石層下水田跡、1～3号水口、W-1～5号溝跡、1号凹み跡、 D-1号土坑実測図	29
第7図	1区2面全体図	30
第8図	1区2面晶跡、W-1～3号溝跡実測図	31
第9図	2区全体図	32
第10図	2区竈構築材採掘坑跡、W-1号溝跡実測図	33
第11図	3区全体図	34
第12図	3区H-1～4・6号住居跡、W-1号溝跡実測図	35
第13図	3区H-2～4・6号住居跡、W-1号溝跡実測図	36
第14図	3区H-4～7号住居跡、D-9・10号土坑実測図	37
第15図	3区H-8～10・12・15・16号住居跡実測図	38
第16図	3区H-10～13・15～17号住居跡、D-13～15号土坑実測図	39
第17図	3区H-10・11・13・15号住居跡、D-13号土坑実測図	40
第18図	3区H-10・12・13号住居跡電実測図	41
第19図	3区H-11・13・16・17号住居跡実測図	42
第20図	3区H-14号住居跡、I-1・2号井戸跡実測図	43
第21図	3区D-1～8・11・12号土坑実測図	44
第22図	4区全体図	45
第23図	4区W-1号溝跡、W-2号溝跡(堀跡)実測図	46
第24図	4区W-3号溝跡(堀跡)、D-1号土坑、竈構築材採掘坑跡実測図	47
第25図	5区全体図及び蒼海城旧状想定図	48
第26図	5区W-1・2号溝跡(堀跡)実測図	49
第27図	3区H-1・3～5・8～10号住居跡出土遺物実測図	50
第28図	3区H-9～12号住居跡出土遺物実測図	51
第29図	3区H-12・13号住居跡出土遺物実測図	52
第30図	3区H-13・15号住居跡出土遺物実測図	53
第31図	3区H-13・15～17号住居跡、I-1・2号井戸跡、W-1号溝跡出土遺物実測図	54
第32図	3区D-3・10・11号土坑、I-2号井戸跡、グリッド、4区W-1～3号溝跡、 5区W-1号溝跡出土遺物実測図	55
第33図	4区W-3号溝跡、5区W-1・2号溝跡出土遺物実測図	56

表目次

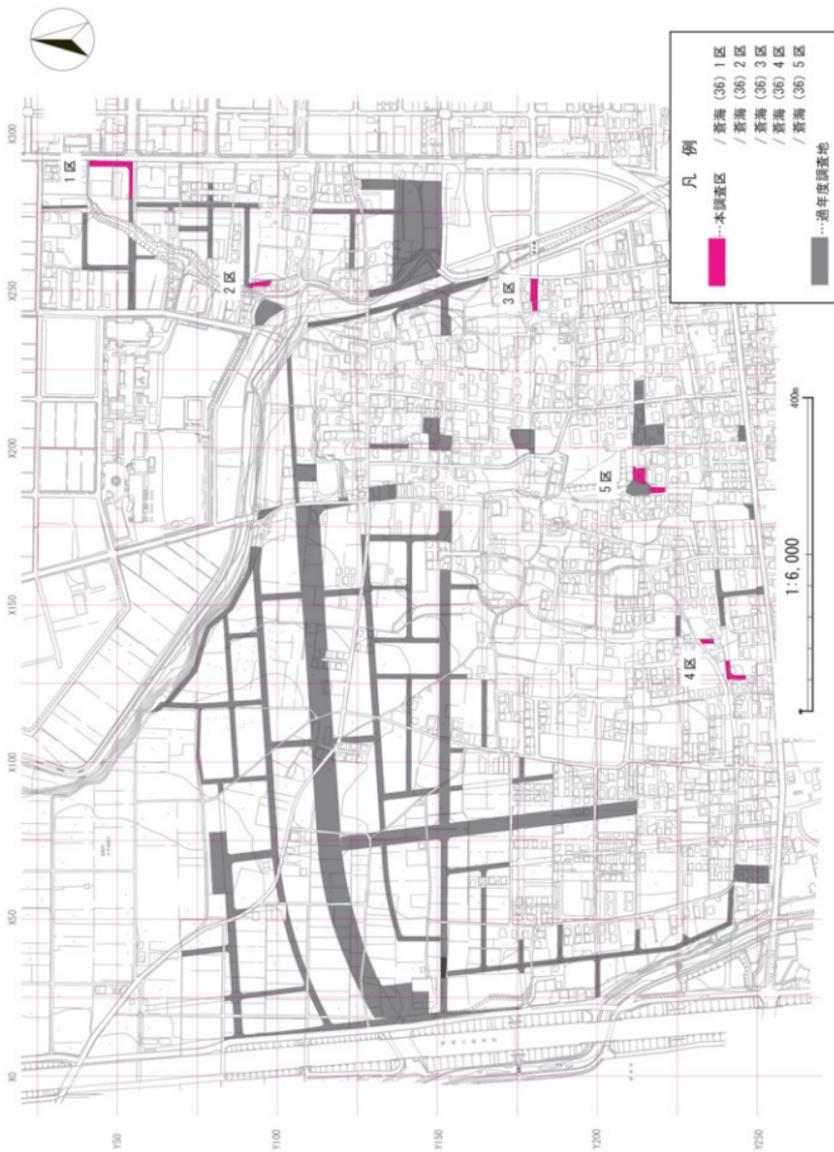
第1表	周辺道跡概要一覧表	2
第2表	1区1面水田跡計測表	5
第3表	1区1面畦畔計測表	6
第4表	1区1面水口計測表	6
第5表	1区1面凹み跡計測表	6
第6表	1区1面溝跡計測表	6
第7表	1区2面溝跡計測表	7
第8表	1区2面晶のサク跡計測表	8
第9表	3区土坑計測表	14
第10表	3区住居跡一覧表	22
第11表	出土遺物観察表	23

写真図版目次

- 口絵 1** 1区2面轟跡全景(西から)
2区電機構架材探掘坑跡全景(南から)
- 口絵 2** 3区調査区全景(下が北)
4区西側調査区全景(西から)
- 図版 1** 1区1面調査区全景(南西から)
1区1面Aa-B榎石層下木田跡全景(北から)
1区1面Aa-B榎石層下木田跡全景(西から)
1区1面Aa-B榎石層下木田跡全景(南から)
1区1面W-3号溝跡、4・5号地群全景(東から)
1区1面1・2号水口全景(南から)
1区1面W-1号溝跡全景(東から)
1区1面W-2号溝跡、3号水口全景(南から)
- 図版 2** 1区1面W-3号溝跡、4・5号地群全景(北から)
1区1面W-4号溝跡全景(南から)
1区1面W-5号溝跡全景(南から)
1区1面東側地群セクション(西から)
1区1面1・2号凹み跡全景(南から)
1区1面D-1号土坑全景(東から)
1区2面調査区全景(南西から)
1区2面轟跡、W-1号溝跡全景(南から)
- 図版 3** 1区2面轟跡確認面(北東から)
1区2面轟跡全景(西から)
1区2面轟跡全景(南西から)
1区2面轟跡セクション(東から)
1区2面轟跡、W-3号溝跡全景(北から)
1区2面轟跡、W-1号溝跡全景(北西から)
1区2面W-2号溝跡全景(北から)
1区1・2面東側セクション(西から)
- 図版 4** 2区調査区全景(南から)
2区W-1号溝跡全景(北から)
2区電機構架材探掘坑跡全景(北西から)
2区電機構架材探掘坑跡全景(南西から)
2区電機構架材探掘坑跡(南東から)
2区東壁セクション(西から)
3区調査区全景(上が北)
3区調査区西側(上が西)
- 図版 5** 3区調査区中央(上が西)
3区H-1号住居跡全景(西から)
3区H-1~4・6号住居跡全景(南から)
3区H-2号住居跡・貼り床南壁セクション全景(北から)
3区H-4号住居跡南東壁セクション全景(北から)
3区H-4号住居跡南東壁遺物出土状況(北から)
3区H-4・6号住居跡掘り方、D-9号土坑全景(南西から)
3区D-9号土坑全景(西から)
- 図版 6** 3区D-9号土坑遺物出土状況(西から)
3区H-5・7号住居跡全景(南から)
3区H-8・9号住居跡全景(西から)
3区H-8号住居跡電線全景(西から)
3区H-8号住居跡掘り方全景(西から)
3区H-10・12・15・16号住居跡全景(西から)
3区H-10号住居跡電線全景(南から)
3区H-12号住居跡電線全景(北西から)
- 図版 7** 3区H-12号住居跡掘り方全景(北西から)
3区H-12号住居跡遺物出土状況(北西から)
3区H-11・13号住居跡全景(西から)
3区H-13号住居跡全景(西から)
3区H-13号住居跡遺物出土状況全景(西から)
3区H-13号住居跡電線全景(西から)
3区H-13号住居跡遺物出土状況(北から)
3区H-13号住居跡掘り方セクション(西から)
3区H-14号住居跡電線全景(西から)
3区H-10・15・16号住居跡全景(西から)
3区H-15号住居跡遺物出土状況全景(西から)
3区H-10・16号住居跡全景(西から)
3区H-16号住居跡遺物出土状況全景(西から)
- 図版 8** 3区H-16号住居跡電線全景(西から)
3区H-17号住居跡電線全景(西から)
3区H-17号住居跡掘り方全景(西から)
3区I-1・2号井戸跡全景(北から)
3区I-1・2号井戸跡遺物出土状況(東から)
3区W-1号溝跡全景(南から)
3区W-1号溝跡遺物出土状況(東から)
3区D-1号土坑全景(南から)
3区D-3号土坑全景(西から)
- 図版 9** 3区D-5~8号土坑全景(東から)
3区D-8号土坑全景(北から)
3区D-10号土坑全景(南から)
3区D-13号土坑全景(北から)
3区D-14号土坑全景(西から)
3区D-15号土坑全景(西から)
3区南壁セクション(北から)
- 図版 10** 4区東側調査区全景(南から)
4区東側調査区W-3号溝跡(照跡)全景(東から)
4区東側調査区W-3号溝跡(照跡)全景(西から)
4区西側調査区全景(西から)
4区西側調査区W-1号溝跡セクション(西から)
4区西側調査区遺物出土状況(東から)
4区西側調査区電機構架材探掘坑跡全景(南から)
4区西側調査区電機構架材探掘坑跡立壁(東から)
- 図版 11** 4区西側調査区W-2号溝跡(照跡)全景(西から)
4区西側調査区W-2号溝跡(照跡)全景(東から)
4区西側調査区W-2号溝跡(照跡)西壁セクション(東から)
4区西側調査区D-1号土坑全景(南から)
5区東側調査区W-1号溝跡(照跡)全景(西から)
5区東側調査区W-1号溝跡(照跡)東壁セクション(西から)
5区西側調査区W-2号溝跡(照跡)全景(北から)
5区西側調査区W-2号溝跡(照跡)全景(南から)
- 図版 12** 3区出土遺物写真
図版 13 3区出土遺物写真
図版 14 3区出土遺物写真
図版 15 3区出土遺物写真
図版 16 3区出土遺物写真
図版 17 4・5区出土遺物写真



第1図 周辺道路図



第2図 元総社蒼海道跡群位置図・グリッド設定図

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、11年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成22年8月16日付けで前橋市長 高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成22年9月7日付けで前橋市と民間調査組織であるスナガ環境調設株式会社 代表取締役 須永眞弘との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（36）」（遺跡コード：22A130-36）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「36」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の位置

元総社蒼海遺跡群（36）は、前橋市元総社町、総社町総社に所在し、前橋市役所の西方約3kmで、JR新前橋駅の北西約1.5～2.0km、また関越自動車道前橋インターチェンジから北へ約1.6～2.5kmに位置する。北東に赤城山、北西に榛名山、西に浅間山・妙義山という上毛の山々を望む集落の広がる地域である。

前橋市の地形は、北東部の赤城山山頂から山麓、東部の広瀬川低地帯、西部の前橋台地とその間に利根川の氾濫原という4地域に大別される。当遺跡群は前橋台地上に立地しており、榛名山の南東麓に広がる相馬ヶ原扇状地の扇端部にあたる。また、榛名山麓を源流として南東方向に流下する河川のうちの、築谷川が、3・4・5調査区の西側に、牛池川がその東側に流れ、牛池川を挟んで左岸に1・2調査区がある。

2 歴史的環境

本遺跡群ではこれまでに土地区画整理事業に伴う発掘調査によって、多くの遺構、遺物が検出されている。また、周辺には多くの遺跡があり、中でも本遺跡群に近接する上野国分僧寺・尼寺中間地域は上野国分僧寺・尼寺跡、推定上野国府跡、山王廃寺等にも近接し、昭和15年から昭和59年にかけて大規模な発掘調査が行われ、縄文時代を始めとして近世までの遺構が数多く検出されている。

縄文時代前期の住居跡は、清里・長久保遺跡、熊野谷遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、元総社小見Ⅶ遺跡、中期後半の住居跡は上野国分僧寺・尼寺中間地域、下東西遺跡、熊野谷遺跡、元総社小見Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ遺跡等で確認されている。

弥生時代では調査例は少なく、中期の環濠集落跡が発見された清里・庚申塚遺跡、後期集落跡では上野国分僧寺・尼寺中間地域の他、日高遺跡、下東西遺跡、元総社小見Ⅲ遺跡等で報告されている。

古墳時代では本遺跡群周辺に5世紀末頃の遠見山古墳から6世紀代には王山古墳、総社二子山古墳、終末期には愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳という首長墓からなる総社古墳群が形成される。その近くには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺があり古墳文化と仏教文化の併存がうかがえる。集落跡は4世紀代の住居跡を初現に、6世紀から7世紀代の遺構を多数検出しており、下東西遺跡、元総社明神Ⅰ～ⅩⅢ遺跡、鳥

羽遺跡、草作遺跡、弥勒Ⅰ・Ⅱ遺跡、大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡、屋敷Ⅰ・Ⅱ遺跡、閑泉桶南遺跡、上野国分寺参道遺跡、元総社宅地遺跡、元総社蒼海道跡群(17)、上野国分僧寺・尼寺中間地域等がある。この時期の生産跡としては、3世紀末葉に降下した浅間山給源の軽石(As-C)により埋没した水田跡や高跡、6世紀代以降下した榛名山給源のテフラ(Hr-FA・FP)により埋没した水田跡や高跡等を検出した元総社明神Ⅷ遺跡、元総社植野北開土遺跡、北原遺跡、総社閑泉明神北遺跡、元総社牛池川遺跡、元総社北川遺跡等がある。

奈良・平安時代に入り調査区周辺に、上野国の国府が造営されたと推測されている。また、天平13年(西暦741年)に、聖武天皇により国分寺建立の詔が発せられ、本遺跡群西方に上野国分僧寺および尼寺が建立された。推定上野国府跡およびその周辺の遺跡は元総社明神Ⅰ～ⅩⅢ遺跡、元総社小学校校庭遺跡、閑泉桶遺跡、鳥羽遺跡、草作遺跡、元総社寺田遺跡、寺田遺跡、大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡、天神Ⅰ・Ⅱ遺跡、屋敷Ⅰ・Ⅱ遺跡、塚越Ⅰ・Ⅱ遺跡、閑泉桶南遺跡、総社閑泉明神北遺跡、弥勒Ⅰ・Ⅱ遺跡、元総社宅地遺跡、大友宅地添遺跡、元総社蒼海道跡群(17)、上野国分寺参道遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域等がある。また、今回調査した1区から南へ約3kmには糸里制水田が検出された日高遺跡があつて、浅間山から噴出した軽石に埋もれた平安時代の水田跡とともに、幅約4.5mの道路状遺構も検出され、東山道駅路から推定上野国府正面へ続く道と考えられ、日高道と呼ばれている。

中世では国府跡を利用しているとされる蒼海城が、上杉氏の重臣総社長尾氏により築かれたが(西暦1429年他、諸説あり)、永禄9年(西暦1566年)ごろ、武田信玄によって攻撃され落城した。

その後、諏訪氏の領有を経て、近世初期には秋元氏による勝山城築城や天狗岩用水、五千石堰などの開発がなされる地域である。

前橋市元総社町の町名由来は、平安時代に上野国総社神社がこの地に創祀された後、総社と呼ばれていたが、秋元氏が新たに植野の地に城を築き、総社の人々を一部移転させ、その城下に佐渡奉行街道の総社宿を整備したため、総社宿のある地が総社と呼ばれ、上野国総社神社のある地は、総社の元地であることから元総社と呼ばれるようになった事による。

第1表 周辺遺跡概要一覧表

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	元総社蒼海道跡群(36)	本報告遺跡(調査区)	29	大友宅地添遺跡	古墳・高跡、平安・水田跡
2	史跡 上野国分寺跡	奈良・寺院跡(国分僧寺跡)	30	総社閑泉明神北遺跡	古墳・水田跡・高跡、中世・講跡
3	上野国分尼寺跡	奈良・寺院跡	31	元総社宅地遺跡Ⅰ～Ⅲトレンチ	古墳・平安・住居跡、近世・講跡、他
4	史跡 山王寺跡	百鳳期一寺院跡(日光寺跡)	32	葉部前遺跡	縄文・ビツト、奈良・平安・住居跡
5	史跡(総社)二子山古墳	前方後円墳(6世紀後半)石室2室	33	熊野谷遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡	縄文・平安・住居跡、平安・講跡
6	総社堂岩山古墳	方墳(7世紀前半)家形石棺	34	下東西遺跡	縄文・埋没、弥生～平安・住居跡、他
7	市史跡 滝見山古墳	前方後円墳(5世紀末)	35	北原遺跡	古墳・水田、奈良・平安・住居跡、他
8	史跡 室所山古墳	方墳(7世紀中葉)家形石棺、載石	36	国分壇遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡	古墳～平安・住居跡、他
9	史跡 蛇ヶ山古墳	方墳(7世紀後半)載石	37	総社植野北開土遺跡	古墳～住居跡、他
10	標榜朝高山古墳	円墳(6世紀代)	38	柳木遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安・住居跡・講跡
11	市史跡 山王古墳	前方後円墳(6世紀前半)	39	村東遺跡	古墳～平安・住居跡、中世・堀跡
12	元総社小学校校庭遺跡	平安～掘立柱建物跡、他	40	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅴ	縄文～平安・住居跡、中世・講跡
13	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	古墳・水田跡・住居跡、他	41	昌泰寺南向遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安・住居跡
14	閑泉桶遺跡	奈良・平安・講跡	42	中尾遺跡	奈良・平安・住居跡
15	草作遺跡	古墳～平安・住居跡、他	43	史跡 日高遺跡	弥生～住居跡・水田跡、平安・水田跡
16	寺田遺跡	平安・講跡	44	総社甲船塚大東西遺跡	平安・住居跡・講跡、他
17	閑泉桶南遺跡	古墳・住居跡、奈良・平安・講跡	45	総社閑泉明神北遺跡	古墳～平安・住居跡、中世・堀跡
18	上野国分僧寺・尼寺中間地域	縄文～平安・住居跡・土坑・中世・堀跡・非母遺跡、他	46	総社甲船塚大東西Ⅱ遺跡	古墳～平安・住居跡・講跡
19	塚田村東遺跡	平安・住居跡	47	元総社小見田遺跡	古墳～平安・住居跡
20	鳥羽遺跡	古墳～平安・住居跡、神社跡、他	48	元総社小見田Ⅱ遺跡	弥生・古墳・平安・住居跡・講跡
21	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	古墳～平安・住居跡、他	49	元総社小見田Ⅲ遺跡	縄文・古墳・平安・住居跡・講跡
22	天神遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安・住居跡	50	元総社小見田Ⅳ遺跡	縄文・古墳・平安・住居跡・講跡
23	塚越遺跡・Ⅱ遺跡	古墳～平安・住居跡、中世・堀跡	51	元総社草作Ⅴ遺跡	古墳～平安・住居跡・講跡
24	電線遺跡	奈良・平安・住居跡・講跡	52	元総社小見田Ⅴ遺跡	縄文・古墳・平安・住居跡・講跡
25	塚越Ⅱ遺跡	平安・住居跡	53	総社閑泉明神北遺跡	古墳・水田跡・高跡
26	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	古墳・平安・住居跡	54	元総社牛池川遺跡	古墳・水田跡
27	元総社寺田遺跡	古墳・水田跡、奈良・平安・住居跡	55	元総社北川遺跡	古墳～平安・水田跡
28	上野国分寺参道遺跡	古墳・平安・住居跡	56	元総社蒼海道跡群(17)	古墳～平安・住居跡、他

III 調査の方針と経過

1 調査方針

調査委託箇所は道路用地内で、5箇所の調査区はすべて距離が離れており、混乱を避けるため、遺構番号は調査区ごとに個別に付番した。

グリッドは公共座標に基づき4×4mで設定し、南北方向をY軸とし北から南へY41、Y42、Y43……、東西方向をX軸とし西から東へX126、X127、X128……と付番した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。各調査区の公共座標（日本測地系 第IX系）は次のとおりである。

1区	X290・Y46	X=43,816m	Y=-71,040m	2区	X253・Y94	X=43,624m	Y=-71,228m
3区	X250・Y180	X=43,280m	Y=-71,200m	4区	X128・Y241	X=43,036m	Y=-71,688m
5区	X191・Y213	X=43,148m	Y=-71,436m				

水準点は公共水準点に基づき1区№1 BM-H=119.00m、1区№2 BM-H=119.50m、2区 BM-H=118.50m、3区 BM-H=115.00m、4区 BM-H=119.10m、5区 BM-H=116.00mを設置した。

調査方法は、表土掘削、遺構確認、杭打ち、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

図面作成は、平板・造り方測量と器械測量を併用し、原則として住居跡・土坑は1/20、竈は1/10、水田跡・畝跡・溝跡等は1/40、全体図を1/100、各断面図は竈を除き1/20の縮尺で作図を行った。遺物については遺物分布平面図を遺構と同縮尺で作成し、遺物台帳に記載し、標高を計測の後、付番処理をして取り上げた。遺構・遺物等出土状況は写真（白黒・リバーサルフィルム・デジタル画像）を撮影した。

2 調査経過

調査は、前橋市教育委員会の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。調査の順序は前橋市区画整理第二課の指示により工事に入る順番に合わせて行う事とした。また各調査区の遺構検出面の確認は、前橋市教育委員会業務監督員とともに行う事とした。

調査は、平成22年9月9日に現地調査事務所を設置し、発掘器材や掘削機械及び資材を搬入した。

1区の表土掘削を同日に掘削機械（バックホウ）で開始した。遺構確認後、発掘作業に入った。1区は1面の調査でAs-B軽石層下水田跡7区画と水田跡に伴う溝跡4条と中近世の溝跡1条、土坑1基を検出した。2面の調査では、Hr-FA層を確認面として調査を行った。古墳時代の溝跡3条と畝のサク跡51列を検出した。遺物は土師器・須恵器片が少量出土した。10月27日に調査を終了した。

2区は9月30日より調査に入った。中世の溝跡1条と平安時代と思われる電構築材採掘坑跡を検出した。遺物は須恵器片が3点出土した。10月8日に調査を終了した。

3区は10月6日より調査に入った。平安時代住居跡17軒、平安時代から中近世の土坑15基、中世の溝跡1条、平安時代から中世の井戸跡2基を検出した。遺物は、平安時代住居跡に伴う土師器壺、坏、須恵器坏、甕、塊、灰軸陶器、瓦、鉄製品などが出土した。12月10日に調査を終了した。

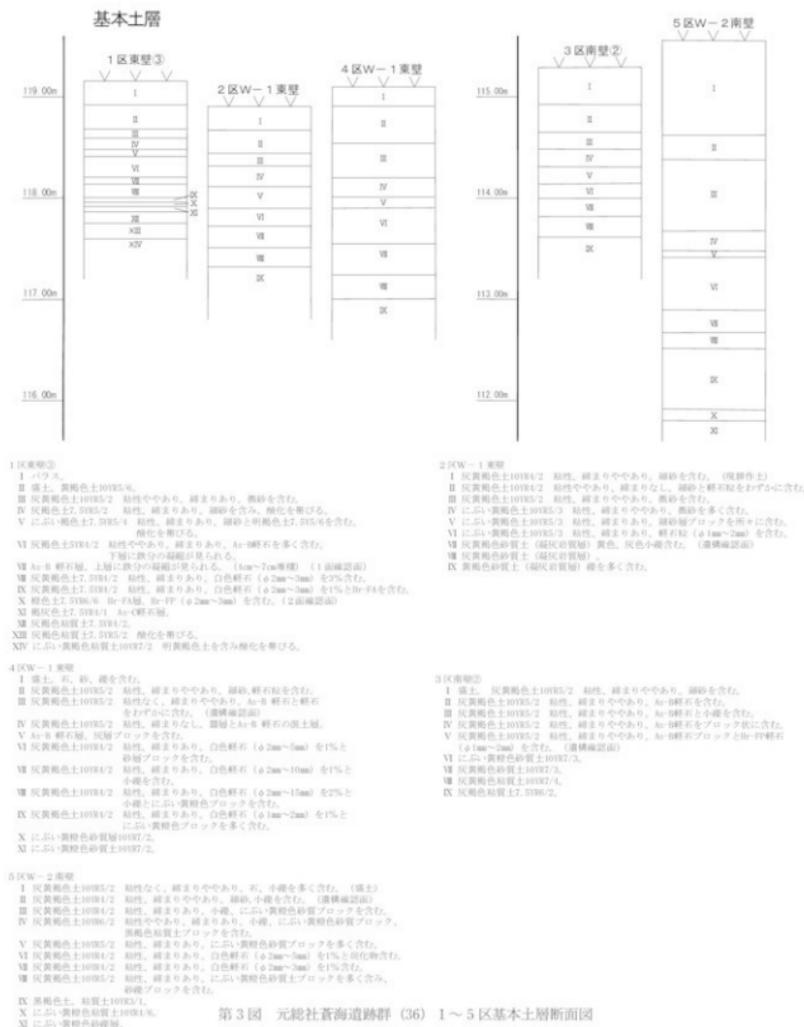
4区は11月9日より調査に入った。平安時代の溝跡1条と電構築材採掘坑跡、中世の溝跡2条（堀跡）を検出した。遺物は石臼、板碑などが出土した。11月20日に調査を終了した。

5区は11月22日より調査に入った。中世の溝跡2条（堀跡）を検出した。溝跡からは、かわらけ、甕、瓦、石臼、内耳土鍋、板碑、陶器などが出土した。12月10日に調査を終了した。

各調査区の測量・記録作業は発掘作業と並行して行い、作業を終了した調査区より随時、業務監督員の検査を受けて埋め戻し作業を行った。平成22年12月10日に現地作業をすべて終了した。

IV 層 序

層序は、各調査区内に入れた深掘りトレンチセクション図をもとに、模式図を作成し、土層説明を下記に掲載した。



第3図 元総社善海道跡群 (36) 1～5区基本土層断面図

V 検出された遺構と遺物

1 全調査区の概要

道路用地の調査で幅が狭く、部分的に検出した遺構が多い。古墳時代後期では、畠のサク跡51列、溝跡3条、平安時代では竪穴住居跡17軒(竈のみの1軒を含む)、As-B 軽石層下水田跡7区画、溝跡5条、As-B 軽石が堆積する凹み跡2箇所、平安時代～中近世の土坑17基、井戸跡2基、竈構築材採掘坑跡2箇所、溝跡7条(その内、蒼海城の堀跡と思われるもの4条)などを検出した。以下、各調査区ごとにまとめて報告する。

2 1区1面の概要

1区1面の調査では、As-B 軽石層を遺構確認面とし、平安時代のAs-B 軽石層下水田跡7区画、水田跡に伴う溝跡4条、As-B 軽石が堆積する凹み跡2箇所、中世の土坑1基、近世の溝跡1条を検出した。

(1) As-B 軽石層下水田跡 [第5・6図、図版1・2]

1面は、表土下90cm前後で水田面を覆うAs-B 軽石層(基本土層VII)が4～8cm堆積するのを確認した。また、調査区西側部分では西方向に向かってAs-B 軽石層が薄くなっていた。全体で水田区画は7区画を検出した。遺存状態は、畦畔と水田面との比高が数cm確認できる程度である。規模は1区画の面積を完全に計測できるものはない。検出した範囲では、[14.57]m²(5号水田跡)～[100.73]m²(2号水田跡)を測る。水田跡を区画する畦畔については7本を検出した。規模は上幅20～62cm、下幅42～100cm、高さ1～8cmを測る。方位は東西南方向N-83°-89°-E、南北方向N-1°-6°-Wと北西方向～南東方向N-34°-35°-Wにとり、東西南方、南北方向に直進性が見られる。北西方向～南東方向の4号畦畔、その北側に直交する3号畦畔と5号畦畔の間にW-3号溝跡があり、3・4号畦畔側に1・2・3号水口が伴う。他の溝跡3条は、いずれも水田跡に伴う。大畦畔は検出されなかった。水田面からは、足跡や株物跡等の痕跡は検出されなかった。2号水田跡にはAs-B 軽石で埋まった長径196cm～[255]cm、短径42cm～60cm、深さ3cm～10cmの楕円形の凹み跡が2箇所検出された。属性は不明である。標高は北側の1号水田跡で118.20m、西側の7号水田跡で118.50m、南東側の3号水田跡で118.05mを測り、標高差から見て北西方向から南東方向へ配水したと考えられる。水田跡からの出土遺物は、土師器や須恵器の小片が数点あったが掲載できなかった。

1区1面As-B 軽石層下水田跡、畦畔、水口、As-B 軽石が堆積する凹み跡の計測値は、第2～5表にまとめた。

第2表 1区1面 水田跡計測表

東・西・南・北畦は長さを、[]は検出値を表す。

水田No	面積(m ²)	東畦(m)	西畦(m)	南畦(m)	北畦(m)	備考
1号水田	[40.35]			[5.5]		1区1面
2号水田	[100.73]			[5.3]	[5.5]	1区1面
3号水田	[86.43]			[5.5]	[5.3]	1区1面
4号水田	[15.45]		5.95		[5.5]	1区1面
5号水田	[14.57]	[6.8]	[4.3]			1区1面
6号水田	[32.84]	[3.9]	[3.1]			1区1面
7号水田	[78.70]	[3.08]				1区1面

第3表 1区1面 畦畔計測表

E・W・S・Nは東西南北を、[]は検出値を表す。

No	グリッド	上端幅	下端幅	畦畔の高さ(cm)				走行方向	備考
		(cm)	(cm)	北側	南側	東側	西側		
1	X290・291, Y42	[24~32]	[42~52]	2~4	3~7			W-E	
2	X289~291, Y47	26~36	55~60	2~6	3~10			W-E	
3	X289~291, Y52・53	20~35	50~60	2~7	2~7			W-E	1・2号水口
4	X289~291, Y53・54	25~60	60~100	1~4	14~17.5			NW-S E	2・3号水口
5	X289・290, Y53・54	22~48	42~72	5~8	1~5			NW-S E	
6	X289, Y53・54	44~62	82~90			2~7	6~10	N-S	
7	X286, Y53・54	50~60	94~100			1~5	1~3	N-S	

第4表 1区1面 水口計測表

[]は検出値を表す。

No	位置(グリッド)	深さ(cm)	底のレベル(m)	水口幅(cm)		備考
				上端	下端	
1	X289・290, Y53	[3]	118.07	[40]	[20]	3号水田跡~3号畦畔~W-3号溝跡へ排水。
2	X290, Y54	2	118.09	104	100	4号水田跡~3・4号畦畔~W-3溝跡へ排水。
3	X290・291, Y54	8	118.02	50	20	4号水田跡~4号畦畔~W-3溝跡へ排水。

第5表 凹み跡計測表

E・W・S・Nは東西南北を、[]は検出値を表す。

No	位置(グリッド)	長さ(m)	深さ(cm)	底のレベル(m)	溝幅(cm)		方向
					上端	下端	
1	X290・291, Y44・45	[2.55]	W4~E10	W118.06~E118.02	44~52	28~35	N-142°E
2	X290, Y44	1.95	W3~E5	W118.05~E118.03	42~60	27~42	N-144°E

(2) 溝跡 [第5・6図、図版1・2]

全体で5条、内、As-B軽石層下の溝跡4条、近世の溝跡1条を検出。W-2・4・5号溝跡は、泥濘が固化したような状況の溝跡で水田面中にある。W-2号溝跡は、3号水口からW-3号溝跡に繋る。北西方向と南東方向の高低差を利用した、As-B軽石層下の溝跡4条は排水目的であろう。W-1号溝跡は近世の遺構で水路としての使用が考えられる。

各溝跡の計測値は、第6表にまとめた。

第6表 1区1面溝跡計測表

E・W・S・Nは東西南北を、[]は検出値を表す。

No	位置(グリッド)	長さ(m)	深さ(cm)	底のレベル(m)	溝幅(cm)		流水方向 底のレベルから
					上端	下端	
W-1	X289~291, Y51	[5.0]	W6~E9.5	W118.00~E117.95	70~84	18~38	W→E
W-2	X290・291, Y53・54	[2.7]	NE6~SW8.5	NE118.04~SW118.03	28~50	12~30	NE→SW
W-3	X289・290, Y53・54	[7.8]	NW13.5~SE11	NW117.96~SE117.99	68~90	26~54	SE→NW
W-4	X287・288, Y53・54	[3.2]	NW9~SE8	NW118.07~SE118.04	84~120	40~70	NW→SE
W-5	X284・285, Y53・54	[5.0]	NW5~SE6	NW118.26~SE118.21	50~74	24~42	NW→SE

(3) 土坑

D-1〔第5・6図、図版2〕

位置 X289・290, Y52グリッド 西側半分は調査区外。形状 平面形状は円形を呈し、断面形状は「U」字状である。規模 長径[92]cm、短径[66]cm、深さ43cm、底面標高は117.67mを測る。覆土 As-B 軽石を含む。遺物 出土しなかった。時期 覆土の状況から中世と考えられる。

3 1区2面の概要

1区2面では、Hr-FA層を遺構確認面とし、古墳時代の溝跡3条、畝のサク跡51列を検出した。

(1) 溝跡〔第7・8図、図版2・3〕

全体で3条検出した。北側に位置するW-1号溝跡は、As-C 軽石で埋まり、北西方向～南東方向に走行し、検出長7.3m、上幅74～118cm、深さ3～5cmと浅い。同じく北側でHr-FA層が堆積するW-2号溝跡は、北西方向から東方向へ緩やかに湾曲し南方向へ延びる。検出長7.9m、上幅42～82cm、深さ4～9cmを測る。西側のW-3号溝跡は、サク列跡を南北方向に掘り込んでいる。検出長3.06m、上幅38～64cm、深さ3～10cmを測る。畝跡の未検出部分での検出が多い様に思われる。部分検出のため他遺構との関係は不明。時期は古墳時代と思われる。

各溝跡の計測値は、第7表にまとめた。

第7表 1区2面溝跡計測表

E・W・S・Nは東西南北を、〔 〕 検出値を表す。

No.	位置(グリッド)	長さ(m)	深さ(cm)	底のレベル(m)	溝幅(cm)		流水方向底
					上端	下端	
W-1	X290・291, Y41・42	[7.30]	N5～S3	N117.15～S117.15	74～118	35～65	不明
W-2	X290・291, Y45～42	[7.90]	N4～S9	N117.83～S117.80	42～82	22～50	N→S
W-3	X282, Y53・54	[3.06]	N10～S3	N118.17～S118.17	38～64	24～45	不明

(2) 畝跡〔第7・8図、図版2・3〕

調査区北側と南側で、Hr-FA層に埋まったり、Hr-FA層を掘り込むサク列跡を検出した。

北西方向～南東方向のサク列跡4列はHr-FA層に埋まり、検出長0.50～2.75m、上幅8～25cm、下幅4～16cm、深さ1～7cm、サク間幅25～55cmを測る。東西方向でHr-FA層を掘り込むサク列跡3列(南側1列を含む)は、検出長1.35～2.95m、上幅12～26cm、下幅4～10cm、深さ1～4cm、サク間幅38～70cmを測る。また、南側の北東方向～南西方向のサク列跡37列はHr-FA層を掘り込み、検出長0.3～6.50m、上幅8～54cm、下幅2～40cm、深さ1～15cm、サク間幅4～74cmを測る。南北方向のサク列跡7列はHr-FA層を掘り込み、検出長0.4～3.00m、上幅8～28cm、下幅2～18cm、深さ1～15cm、サク間幅10～66cmを測る。北東方向～南西方向のサク列跡37列には、耕作痕と思われる凹みが多数見られた。また、サク列跡はHr-FA層に埋まったものと、掘り込まれているものの2種類があり、さらにサク列方向やサク間幅などに違いが見られた。時期は北西方向～南東方向のHr-FA層で埋まった4列はHr-FA層降下前とし、他のHr-FA層を掘り込んでいるものはHr-FA層降下後の耕作跡と考えられる。

各サク列跡計測値は、第8表にまとめた。

第8表 1区2面品のサク跡計測表

E・W・N・Sは東西南北を、()はサク間幅を、[]は検出値を表す。

列 No	グリッド	長さ(m)	サク上幅 (cm)	サク下幅 (cm)	深さ(cm)	サク間幅(cm)	方向	備 考
1	X290, Y54	[1.14]	24~28	16~18	W2 E1	(1) 28~38	NE→SW	N-50°-E
2	X289・290, Y54	[2.10]	24~31	8~18	W4 E3	(2) 14~26	NE→SW	N-53°-E
3	X289・290, Y54	[2.70]	28~54	3~28	W2 E5	(3) 26~32	NE→SW	N-51°-E
4	X289・290, Y54	[3.0]	24	8~18	W5 E4	(4) 6~30	NE→SW	N-53°-E
5	X289, Y54	[3.70]	25~27	8~40	W5 E4	(5) 20~46	NE→SW	N-52°-E
6	X288・289, Y53・54	[4.40]	22~36	6~19	W4 E3	(6) 16~74	NE→SW	N-52°-E
7	X289, Y53・54	2.50	22~38	6~22	W4 E3	(7) 18~30	NE→SW	N-53°-E
8	X288・289, Y53・54	[4.10]	20~28	16~54	W4 E2	(8) 10~46	NE→SW	N-49°-E
9	X288・289, Y53・54	[5.30]	20~50	6~22	W5 E3	(9) 6~28	NE→SW	N-50°-E
10	X288・289, Y53・54	[4.70]	14~52	6~18	W6 E4	(10・11) 4~36	NE→SW	N-52°-E
11	X288, Y54	2.44	12~28	4~18	W5 E6	(12) 24~46	NE→SW	N-51°-E
12	X287・288, Y54	[0.40]	27	10~12	5	(13) 32~34	NE→SW	N-50°-E
13	X287・288, Y54	[3.32]	21~40	6~21	W6 E2	(14) 29~40	NE→SW	N-51°-E
14	X287・288, Y53・54	[5.33]	24~42	2~32	W12 E10	(15) 4~24	NE→SW	N-52°-E
15	X287・288, Y53・54	[4.75]	22~34	9~21	W5 E5	(16) 18~36	NE→SW	N-56°-E
16	X287, Y54	[0.50]	26	18	2	(17) 18~21	NE→SW	N-55°-E
17	X287・288, Y53・54	[4.00]	25~32	8~18	W4 E10	(18) 19~42	NE→SW	N-55°-E
18	X286・287, Y54	[1.00]	18~26	6~18	W6 E2	(19) 26~56	NE→SW	N-54°-E
19	X286・287, Y53・54	[4.70]	18~28	6~16	W5 E13	(20) 26~40	NE→SW	N-58°-E
20	X286, Y54	[0.30]	20	18	3	(21) 26~31	NE→SW	N-60°-E
21	X286・287, Y53・54	[5.80]	22~38	6~18	W6 E4	(22) 10~40	NE→SW	N-59°-E
22	X285~287, Y53・54	[6.45]	26~41	8~28	W9 E4	(23) 26~40	NE→SW	N-63°-E
23	X285~287, Y53・54	[6.50]	20~32	6~21	W6 E8	(24) 20~34	NE→SW	N-63°-E
24	X285~287, Y53・54	6.00	23~46	4~20	W11.5 E8	(25・26)18~44	NE→SW	N-62°-E
25	X285・286, Y53・54	[2.50]	20~35	8~18	W11 E8.5	(27) 21~44	NE→SW	N-62°-E
26	X285, Y54	2.10	18~36	10~18	W7.5 E6	—	NE→SW	N-63°-E
27	X285・286, Y53・54	[2.10]	22~40	12~18	W11 E1.5	(28) 35~40	NE→SW	N-62°-E
28	X285, Y53・54	[2.30]	18~25	8~12	W4.5 E7	(29) 28~30	NE→SW	N-66°-E
29	X285, Y53・54	[1.40]	20~28	10~20	W10 E4	(30) 40	NE→SW	N-63°-E
30	X284・285, Y53・54	[0.56]	14	6	1	(31) [8]	NE→SW	N-69°-E
31	X284, Y53・54	[2.30]	12~14	6~8	N9 S3	(32) 20	N→S	N-8°-E
32	X284, Y53・54	[1.10]	8~19	6~8	N2.5 S3	(33) 10	N→S	N-1°-E
33	X284, Y53・54	0.80	11~12	2~6	N15 S7	—	NW→SE	N-23°-W
34	X283, Y54	[0.40]	17	10	4	—	N→S	N-9°-E
35	X283, Y54	[0.70]	18~24	10~14	2	(34) 66	N→S	N-3°-E
36	X283, Y53・54	[2.90]	22~28	8~18	N4 S4	(35) 50~56	N→S	N-2°-E
37	X283, Y53・54	[3.00]	16~23	8~14	N1 S4	—	N→S	N-2°-E
38	X282, Y54	[0.50]	14~20	4~10	N1 S1	(36) 20~38	NE→SW	N-50°-E
39	X282, Y54	[1.00]	18~28	6~14	W1 E3	(37) 38~42	NE→SW	N-43°-E
40	X282, Y54	[2.20]	18~26	8~14	N3 S2	(38) 35~40	NE→SW	N-40°-E
41	X282, Y54	[2.40]	18~23	4~8	N6 S2	—	NE→SW	N-38°-E
42	X282, Y54	[1.85]	16~26	9~15	N5 S3	(39・40)34~40	NE→SW	N-41°-E
43	X281・282, Y54	[1.75]	18~20	6~12	N2 S2	(41) 45~50	NE→SW	N-40°-E
44	X281・282, Y54	0.90	16~21	9~10	N3 S4	—	NE→SW	N-50°-E
45	X281・282, Y54	[1.35]	20~26	8~10	W4 E4	—	NE→SW	N-92°-E
46	X289, Y41	[0.50]	16~18	6~11	N7 S2	(42) 25~28	NE→SW	N-33°-W
47	X289, Y41	[0.82]	10~15	4~7	N4 S1	—	NE→SW	N-27°-W
48	X289・290, Y41・42	[1.80]	14~25	8~16	N3 S1	(43) 53~55	NE→SW	N-28°-W
49	X289・290, Y41・42	[2.75]	8~15	4~11	N6 S3	—	NE→SW	N-22°-W
50	X290・291, Y42	[2.95]	12~18	4~9	W2 E3	(44) 38~70	E→W	N-95°-E
51	X290・291, Y42	[2.40]	12~15	6~9	W1 E2	—	E→W	N-88°-E

4 2区の概要

2区の調査は、灰黄褐色砂質土層を確認面とした。北東方向から南西方向へ牛池川左岸に向かって、段状に自然傾斜が始まる上面でW-1号溝跡を、傾斜面から竈構築材採掘坑跡を検出した。

(1) 竈構築材採掘坑跡〔第9・10図、図版4〕

位置 X251・252, Y92・93グリッド **規模** 形状が判明する遺構で見ると、長辺45～83cm、短辺14～(38)cm、厚さ15～18cm程の掘り込み跡が検出された。 **特徴** 長方形で上幅が広く、下幅がやや狭い採掘坑跡が多い。各遺構はほぼ同様な規模と見られ規格性を看取り、専門的に採掘を行っている状況が推測される。付近一帯には総社砂層と呼ばれる地層中に凝灰岩質の層があり、この層から採掘した石材は、容易に加工できる石材として古代住居跡の竈構築材などに使用され数多く出土する。 **遺物** 須恵器片が3点出土したが、掲載できるものはなかった。 **時期** 明確にできないが、4区の竈構築材採掘坑跡が検出されたW-1号溝跡では、覆土にAs-B軽石が堆積しており、他の遺跡での検出事例も勘案すると平安時代以前の可能性が高いと思われる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡〔第9・10図、図版4〕

位置 X252・253, Y92～95グリッド **形状** 傾斜面に沿って北西方向から南東方向に走行する。底は平坦で硬く、水に削られたと思われる凹みには砂礫が溜まっていた。 **規模** 全長13.6m、上幅[420]cm、下幅324cm、深さ北西側32cm、南東側70cm、溝底の標高は北西側117.42m、南東側117.15mを測る。 **遺物** 出土しなかった。 **時期** 覆土にAs-B軽石が流れ込んでいることから中世初頭頃と思われるが、4・5区で検出の溝跡よりは浅く、善海城の縄張り図にも該当する堀は確認できず、どのような性格の溝跡か、現時点では不明である。

5 3区の概要

3区は、表土下50～100cm掘削した所を確認面とし、平安時代の住居跡1軒(竈のみの1軒を含む)、平安時代～中近世の土坑15基、平安時代～中世の井戸跡2基、中世の溝跡1条を検出した。全体に西方向から北東方向へ傾斜しており、西側では凝灰岩質の総社砂層を、東側では砂質の総社砂層を地山面としている。このため、東側では住居跡の確認が困難な状況が見られた。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡〔第11・12図、図版4・5〕

位置 X243・244, Y180グリッド **重複** 無し。西、北側は調査区外。 **形状** (隅丸長方形) **規模** 東西[2.00]m、南北[1.57]m、現壁高20cm。 **面積** [3.36]㎡ **主軸方向** (N-84°-E) **床面** 平坦で床面標高は115.40mを測る。堅い凝灰岩質の地山面までを掘り方として、薄く貼り床を施す。 **柱穴** 2基検出。中央部のP₁は長径38cm、短径[25]cm、深さ13cmの円形、南側のP₂は長径34cm、短径29cm、深さ12cmの円形。 **貯蔵穴** 南東隅に設けられ、長径117cm、短径72cm、深さ12cmの長方形。 **竈** 検出されなかった。 **遺物** 掲載したものは須恵器環(1)である。 **時期** 覆土や出土遺物から10世紀後半～11世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡〔第11・12・13図、図版4・5〕

位置 X243・244, Y180・181グリッド **重複** 東側でH-4・6号住居跡と重複。西、南側は調査区外。**形状** (長方形) **規模** 東西[3.90]m、南北[2.40]m、現壁高[4]cm。**面積** [8.64]㎡ **主軸方向** (N-85°-E) **床面** 平坦で、床面標高は115.50mを測る。単独部分では地山面に、重複部分では、H-4・6号住居跡の覆土上に貼り床を施す。**柱穴** 2基検出。P₁は長径24cm、短径23cm、深さ37cmの円形、P₂は長径28cm、短径25cm、深さ25cmの円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**竈** 東壁に検出。トレンチを入れる際に北側を掘り抜いているが、調査区南壁セクションに炭化物を含む土層があり、これにより位置と残存全長を確認。主軸方向不明。全長[140]cm。**遺物** 掲載できるものはなかった。**時期** 重複状況から10世紀代と考えられる。

H-3号住居跡〔第11・12・13図、図版4・5〕

位置 X244・245, Y179・180グリッド **重複** 無し。北側は調査区外。**形状** (長方形) **規模** 東西2.95m、南北[1.75]m、現壁高13cm。**面積** [5.12]㎡ **主軸方向** (N-85°-E) **床面** 平坦で、地山面に貼り床を施す。床面標高は115.30mを測る。**竈** 検出されなかった。**遺物** 掲載したものは須恵器大甕〔確認面覆土出土〕(1)、須恵器高台付甕(2)、須恵器羽釜(3)、須恵器環(4)である。**時期** 覆土や出土遺物から10世紀代と考えられる。

H-4号住居跡〔第11・12・13図、図版4・5〕

位置 X244・245, Y180・181グリッド **重複** H-2・6号住居跡、D-9号土坑、W-1号溝跡と重複。南側は調査区外。**形状** (長方形) **規模** 東西3.20m、南北[3.40]m、現壁高50cm。**面積** [11.20]㎡ **主軸方向** (N-87°-E) **床面** 平坦で堅緻。H-6号住居跡の床面に堆積した土層上に貼り床を施す。床面標高は115.30mを測る。**柱穴** 8基検出(P₁・P₂・P₃)は掘り方で検出し、H-6号住居跡に伴う可能性がある。南壁中央のP₁は長径30cm、短径29cm、深さ18cmの円形。南壁中央のP₂は長径44cm、短径[39]cm、深さ[16]cmの円形。北東隅のP₃は長径44cm、短径42cm、深さ11cmの円形。北西隅のP₄は長径56cm、短径53cm、深さ27cmの円形。西壁中央寄りのP₅は長径[51]cm、短径[20]cm、深さ17cmの円形であるが、試掘調査時に南半分を掘り抜いている。中央部北寄りのP₆は長径51cm、短径43cm、深さ34cmの円形。西側中央のP₇は長径60cm、短径53cm、深さ24cmの円形。西側中央寄りのP₈は長径38cm、短径37cm、深さ[15]cmの円形。**貯蔵穴** 不明。**竈** 東壁の南側に検出。トレンチを入れる際に北半分を掘り抜いているが、調査区南壁セクションに焼土を含む土層があり、これにより位置と残存全長を確認。主軸方向不明。全長[128]cm。**遺物** 掲載したものは須恵器環(1)・(2)・(3)・(4)である。**時期** 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡〔第11・14図、図版4・6〕

位置 X245・246, Y179・180グリッド **重複** 南側でH-7号住居跡と重複。北側は調査区外。**形状** (長方形) **規模** 東西2.95m、南北[2.25]m、現壁高13cm。**面積** [3.86]㎡ **主軸方向** (N-77°-E) **床面** 地山面を掘り込んで床面を構築する。平坦で堅緻。床面標高は115.00mを測る。**柱穴** 2基検出。南西隅のP₁は長径77cm、短径66cm、深さ12cmの円形。南壁中央寄りのP₂は長径60cm、短径50cm、深さ16cmの円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**竈** 検出されなかった。**遺物** 掲載したものは須恵器環(1)である。**時期** 覆土や出土遺物から11世紀代と考えられる。

H-6号住居跡〔第11・12・13・14図、図版4・5〕

位置 X244・245, Y180・181グリッド **重複** H-2・4号住居跡、D-9号土坑、W-1号溝跡と重複。南側は調査区外。**形状** (隅丸方形) **規模** 東西3.85m、南北[2.55]m、現壁高[10]cm。**面積** [8.15]㎡ **主軸方向** (N-98°-E) **床面** 地山に貼り床を施す。床面標高は115.20mを測る。壁周溝有り。**柱穴** 不明(H-4号住居跡P₆・P₇・P₈が該当する可能性を有す)。**貯蔵穴** 検出されなかった。**竈** 検出されなかった。**遺物** 掲載できるものはなかった。**時期** 重複状況より10世紀前半と推測。

H-7号住居跡〔第11・14図、図版4・6〕

位置 X245・246, Y180グリッド **重複** 北側はH-5号住居跡と、中央部はD-10号土坑と重複。**形状** (隅丸方形) **規模** 東西3.20m、南北[2.65]m、現壁高16cm。**面積** [5.13]㎡ **主軸方向** N-88°-E **床面** 平坦で堅緻。地山面を掘り込んで床面を構築する。床面標高は115.00mを測る。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** 検出されなかった。**竈** 検出されなかった。**遺物** 掲載できるものはなかった。**時期** 覆土や重複するH-5号住居跡が11世紀代と考えられるのでそれ以前と推測した。

H-8号住居跡〔第11・15図、図版4・6〕

位置 X246・247, Y179・180グリッド **重複** 南側でH-9号住居跡と、北東側でI-1井戸跡と重複。**形状** (長方形) **規模** 東西3.67m、南北[3.65]m、現壁高31cm。**面積** [11.17]㎡ **主軸方向** N-83°-E **床面** 地山面を粗掘りした後、土を入れて堅緻な平坦面を作る。床面標高は114.10mを測る。**柱穴** 1基検出。P₁は長径40cm、短径37cm、深さ21cmの円形。**土坑** 1基検出。D₁は長径126cm、短径110cm、深さ29cmの円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**竈** 南東隅に検出。主軸方向N-110°-Eで、全長124cm、最大幅55cm、焚き口部幅45cmを測る。焚き口部はピット状に凹む。**遺物** 掲載したものは土師器羽釜(1)、須恵器高台付壇(2)である。**時期** 覆土や出土遺物から10世紀中葉～後半と推測。

H-9号住居跡〔第11・15図、図版4・6〕

位置 X246・247, Y180グリッド **重複** 北側はH-8号住居跡と重複のため西壁、南壁のみ残存。**形状** (長方形) **規模** 東西[2.60]m、南北[2.34]m、現壁高22cm。**面積** [2.37]㎡ **主軸方向** (N-86°-E) **床面** 地山面まで粗掘りした後、土を入れて平坦面を構築する。床面標高は114.90mを測る。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** 検出されなかった。**竈** 検出されなかった。**遺物** 掲載したものは平瓦(1)、丸瓦(2)、須恵器環(3)である。**時期** 覆土や出土遺物から10世紀前半～中葉と推測。

H-10号住居跡〔第11・16・17図、図版4・5・6・8〕

位置 X248・249, Y178・179グリッド **重複** H-12・15・16号住居跡と重複。北側は調査区外。**形状** (隅丸方形) **規模** 東西4.20m、南北[2.92]m、現壁高46cm。**面積** [10.76]㎡ **主軸方向** (N-92°-E) **床面** 地山面を掘り込んで平坦な床面を構築する。床面標高は114.20mを測る。**柱穴** 2基検出。南東隅のP₁は長径30cm、短径26cm、深さ11cmの円形。南東隅のP₂は長径30cm、短径25cm、深さ6cmの円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**竈** 東壁の北側に検出。北半分は調査区外。主軸方向[N-2°-W]、全長[135]cm、最大幅[40]cm、焚き口部幅[38]cmを測る。粘土で短い袖を構築する。H-16号住居跡竈が近接。**遺物** 掲載したものは平瓦(1)、須恵器環(2)・(7)、砥石(3)、須恵器羽釜(4)、黒色土器塊(5)・(6)、須恵器塊(8)、緑釉陶器高台付皿(9)、鉄鏝(10)、鉄製品(11)である。**時期** 重複状況より10世紀後半と推測。

H-11号住居跡〔第11・16・17・19図、図版5・7・8〕

位置 X249・250, Y179・180グリッド **重複** 南東側はH-13号住居跡と、北側はD-13・14号土坑、H-15・16号住居跡と重複。**形状** (隅丸長方形) **規模** 東西4.34m、南北3.30m、現壁高34cm。 **面積** [8.66]㎡ **主軸方向** (N-85°E) **床面** 地山を掘り込んで平坦な床を構築する。床面標高は114.60mを測る。 **柱穴** 2基検出。北東隅のP₁は長径54cm、短径46cm、深さ26cmの円形。北壁中央のP₂は長径[53]cm、短径[50]cm、深さ32cmの(円形)。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 検出されなかった。 **遺物** 掲載したものは須恵器高台付塊(1)、土師器土釜(2)である。 **時期** 出土遺物から10世紀中葉と推測。

H-12号住居跡〔第11・16・18図、図版5・6・7〕

位置 X247・248, Y178・179グリッド **重複** 東側はH-10号住居跡と、南東側はH-15号住居跡と重複。北側は調査区外。**形状** (長方形) **規模** 東西[3.00]m、南北[2.13]m、現壁高20cm。 **面積** [5.93]㎡ **主軸方向** N-88°E **床面** ほぼ地山面まで掘り込んで平坦に堅緻な床を構築する。床面標高は114.40mを測る。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 南東隅に検出。東半分はH-10号住居跡構築時に滅失。主軸方向N-148°E、全長[85]cm、最大幅 不明、焚き口幅[74]cmを測る。丸瓦、凝灰岩の切石を支脚とする。上部は攪乱されて底部のみ残存する。 **遺物** 掲載したものは黒色土器高台付塊(1)、須恵器塊(2)、須恵器高台付塊(3)・(6)、須恵器環(4)・(8)・(9)、丸瓦(5)、須恵器高脚高台付塊(7)である。 **時期** 覆土や出土遺物から10世紀中葉と考えられる。

H-13号住居跡〔第11・16・17・18・19図、図版5・7・8〕

位置 X249~251, Y180・181グリッド **重複** 北西側はH-11号住居跡と重複。本住居跡竈の南に並列する竈を1基検出しており、もう1軒(H-17号住居跡)重複していると考えたが、ほぼ並列しており、住居跡の東壁は共用に近い状況で新旧関係は不明である。南側は調査区外。 **形状** (隅丸方形) **規模** 東西4.87m、南北[4.70]m、現壁高40cm。 **面積** [21.04]㎡ **主軸方向** N-87°E **床面** 掘り方に炭化物を薄く散布した後、平坦な貼り床を施す。壁周溝有り。床面標高は114.50mを測る。 **柱穴** 6基検出。中央北東寄りのP₁は長径60cm、短径56cm、深さ27cmの円形。中央北西寄りのP₂は長径45cm、短径40cm、深さ24cmの円形。南側中央のP₃は長径54cm、短径[46]cm、深さ21cmの円形。東側中央の南(掘り方面)に検出したP₄は長径39cm、短径36cm、深さ50cmの円形。中央北西寄り(掘り方面)に検出したP₅は長径33cm、短径29cm、深さ24cmの円形。北西隅(掘り方面)に検出したP₆は長径25cm、短径24cm、深さ27cmの円形。 **土坑** 3基をいずれも掘り方から検出。北東隅のD₁は長径74cm、短径73cm、深さ35cmの円形。南側中央のD₂は長径[100]cm、短径[56]cm、深さ36cmの不整形円形。南西隅のD₃は長径114cm、短径[82]cm、深さ48cmの円形。 **貯蔵穴** 南東隅竈前に検出。長軸175cm、短軸[119]cm、深さ50cmの不整形方形。 **竈** 南東隅に検出。主軸方向N-96°E、全長192cm、最大幅71cm、焚き口幅42cmを測る。焚き口から煙道にかけて平瓦を立てて壁面を構築する。煙道入口には瓦片を立てて両壁を作った後に、凝灰岩の切石を天井に架構している。南のH-17号住居跡竈と本住居跡竈を焚き口部の掘り方で比べると本住居跡竈の方が17cm低い位置にある。 **遺物** 掲載したものは灰軸陶器高台付塊(1)・(13)、土師器鉢(2)、須恵器塊(3)、須恵器環(4)・(5)・(6)、須恵器高台付皿(7)、土師器土釜(8)・(9)、灰軸陶器壺(10)、鉄製紡錘車紡輪(11)、丸瓦(12)、平瓦(14)・(15)・(16)・(17)・(18)、土師器環(19)、砥石(20)、須恵器蓋(21)、鉄鏝(22)、和釘(23)である。 **時期** 覆土や出土遺物から10世紀後半~11世紀前半と考えられる。

H-14号住居跡〔第11・20図、図版8〕

位置 X252・253, Y179・180グリッド **重複** 無し。 **形状** (方形) **規模** 東西2.83m、南北3.45m、現壁高10cm。南壁は攪乱により南東側に部分的に残存。東側は床面は検出できたが礎は検出できなかった。 **面積** [8.60]m² **主軸方向** (N-73-E) **床面** 地山を掘り込んだ後、土を入れて平坦で堅質な床面を構築する。床面標高は114.60mを測る。 **柱穴** 4基検出した。北東のP₁は長径19cm、短径18cm、深さ22cmの円形。北西のP₂は長径24cm、短径17cm、深さ16cmの円形。南西のP₃は長径33cm、短径30cm、深さ18cmの円形。南東のP₄は長径50cm、短径47cm、深さ18cmの円形。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 東壁中央に位置する。主軸方向N-69-E、全長[84]cm、最大幅[53]cm、焚き口部幅[28]cmを測る。検出した段階で掘り方底部の残存を確認できたに止まる。焚き口部分に袖石状の凝灰岩を検出。 **遺物** 掲載できるものはなかった。 **時期** 覆土の状況から10世紀後半～11世紀代と考えられる。

H-15号住居跡〔第11・16図、図版6・8〕

位置 X248・249, Y179・180グリッド **重複** 東側はH-11号住居跡と、北西側はH-12号住居跡と、北側はH-10・16号住居跡と重複。 **形状** (長方形) **規模** 東西[4.05]m、南北[3.55]m、現壁高30cm。 **面積** [10.77]m² **主軸方向** (N-87-E) **床面** 地山を掘り込んで平坦な床を構築する。床面標高は114.40mを測る。 **柱穴** 1基検出。P₁は長径55cm、短径[30]cm、深さ12cmの円形。 **土坑** 1基検出。D₁は長径133cm、短径117cm、深さ15cmの楕円形。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 検出されなかった。 **遺物** 掲載したものは須恵器環(1)・(2)、土師器羽釜(3)、須恵器高台付罐(4)、灰陶陶器塊(5)である。 **時期** 覆土や出土遺物から10世紀中葉と考えられる。

H-16号住居跡〔第11・16・19図、図版5・6・8・9〕

位置 X249・250, Y179グリッド **重複** 西側はH-10号住居跡と、南西側はH-15号住居跡と、南側はH-11号住居跡、D-13・14号土坑と、東側でD-15号土坑と重複。 **形状** (長方形) **規模** 東西3.50m、南北[2.83]m、現壁高29cm。 **面積** [3.89]m² **主軸方向** (N-89-E) **床面** 地山面を掘り込んでいるか貼り床を施しているかはセクションを検討しても判然としない。掘り方は僅かにH-10号住居跡の方が深く掘り込む。床面標高は114.30mを測る。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 北東隅に検出。北側にH-10号住居跡竈が近接する。竈の掘り方下にD-15号土坑を検出。主軸方向N-93-E、全長90cm、最大幅55cm、焚き口部幅35cmを測る。焚き口部は左右に粘土で短い袖を作る。 **遺物** 掲載したものは須恵器塊(1)、須恵器環(2)・(3)、鉄製紡錘車紡茎(4)である。 **時期** 重複するH-10号住居跡との新旧関係や規模から10世紀中葉と考えられる。

H-17号住居跡〔第11・16・19図、図版5・9〕

位置 X250・251, Y181グリッド **重複** H-13号住居跡と重複。南側は調査区外。東壁はH-13号住居跡の東壁を共用している可能性がある。 **形状** 不明。 **規模** 不明。 **床面** 不明。 **竈** H-13号住居跡東壁に検出。北側にH-13号住居跡竈が並列する。焚き口部掘り方はH-13床面より17cm高い位置にある。主軸方向N-93-E、全長135cm、最大幅[28]cm、焚き口部幅[48]cmを測る。煙道入口部分に天井石を架構する。竈前面にH-13号住居跡貯蔵穴がある。 **遺物** 掲載したものは須恵器環(1)・(2)である。 **時期** 出土遺物と、重複するH-13号住居跡の推定時期より以前の構築と見られることから10世紀中葉と考えられる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡〔第11・12図、図版4・9〕

位置 X245, Y179~181グリッド **重複** 南側はH-4・6号住居跡と、中間でD-1号土坑と重複。方向はN-27°Wであるが、H-4号住居跡と接する位置からN-3°Wに変わり、ほぼH-3・4・5・7号住居跡の間を流下する。**形状** 試掘調査により掘り抜いおり南側が明確ではないが、調査区南壁セクションには上幅170cm、深さ36cm程の緩やかな凹みを見ることができ、そこから、平面形状が「く」の字状に蛇行している。断面形状は北側へ向かって緩やかな「U」字状を呈す。**規模** 全長[5.40]m、上幅1.70~2.05m、下幅1.18~1.22m、確認面からの深さ36~40cmを、底面標高は南側で115.28m、北側で115.05mを測り、南から北に流れたと思われる。**遺物** 北側の凹みに溜まった砂礫層中より流れ込み状態で出土した。掲載したものは須恵器環(1)・(2)・(3)・(4)・(5)・(6)である。**時期** 覆土や重複状況などから中世頃と思われる。

(3) 土坑

土坑の概要〔第11・14・16・17・21図、図版4・5・9・10〕

3区からはD-1~15号土坑までの15基の土坑を検出。そのうち遺物を出土したものはD-1・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・15号土坑の13基で、D-2・14号土坑からは出土していない。

時期別に分類すると、下記の通りである。

- ①覆土の様相や重複の関係から住居跡と同時期の平安時代と考えられるものは、D-5・6・7・8・9・15号土坑の6基で、D-9号土坑を除き、覆土に炭化物を多く含み、As-B軽石をほとんど含まない。
- ②中世と考えられるものはD-3・4・10・11・13・14号土坑の6基である。覆土にAs-B軽石を含み、締まりがないものがある。
- ③近世~近代と考えられるものはD-1・2・12号土坑の3基である。現地表下のI・II層を含み、覆土に粘性、締まりがない。

遺物 掲載したものは須恵器環D-3・10・11土坑である。

各土坑の計測値は第9表にまとめた。

なお、D-9号土坑については次に別記した。

第9表 3区土坑計測表

()は推定、[]は検出値を表す。

土坑No	遺構位置	長径・軸 (cm)	短径・軸 (cm)	深さ(cm)	形状	備 考
D-1	X245, Y180・181	80	78	90	円	土師器片 W-1と重複
D-2	X246, Y181	[125]	[34]	10	円	南側は調査区外
D-3	X246・247, Y180・181	150	132	24	不整形円	土師器片
D-4	X248, Y180・181	94	79	30	円	土師器・須恵器片 東側攪乱
D-5	X250・251, Y179	103	86	24	不整形円	土師器・須恵器・灰軸陶器片
D-6	X250・251, Y179	140	98	15	隅丸方形	須恵器片
D-7	X251, Y179	130	90	15	隅丸方形	土師器片
D-8	X251, Y179	115	102	46	円	土師器・灰軸陶器片
D-9	X244, Y180	138	124	85	方形	須恵器片 H-4・6掘り下方
D-10	X245・246, Y180	125	120	25	不整形円	須恵器片・砥石 H-7と重複
D-11	X247, Y180・181	194	169	30	不整形	須恵器・灰軸陶器片
D-12	X249, Y180・181	114	95	84	楕円	須恵器片
D-13	X249, Y179・180	155	[89]	39	隅丸方形	土師器・須恵器片 H-11・16と重複
D-14	X249, Y179	[80]	[74]	35	(円)	H-11・16と重複
D-15	X249・250, Y179	[235]	[93]	26	不整形	土師器・須恵器片 H-10・16掘下

D-9号土坑〔第11・14図、図版15〕

位置 X244, Y180グリッド 平面形状は方形。断面形状は、底部でオーバーハングし袋状を呈す。**規模** 上部長124×138cm、底部長182×186cm、深さ85cm。**重複** H-4・6号住居跡の掘り方下で検出。総社砂層凝灰岩質層から褐色土層まで掘り込む。土坑底部に噴砂の痕を検出。覆土に少量の炭化物を含む。北側と西側で高低差2～10cm程の方形の段が本遺構を囲むように検出されたが、本遺構に付帯するかは不明。**属性** ①地下式土壇、②土壇墓、③祭祀関係遺構などが推測されるが、本遺構は出土遺物から10世紀代以前の構築で、いわゆる中世の地下式土壇とすることはできない。付近の遺跡からは人骨を伴う土壇墓も検出されているが、本遺構からは焼土、人骨は出土しなかった。また、祭祀に関係する遺物も出土しなかった。本遺構の属性は現時点では不明である。遺物は須恵器高台付埴壇底部が1点出土したが掲載できなかった。

(4) 井戸跡

I-1号井戸跡〔第11・20図、図版4・9〕

位置 X247, Y179グリッド **重複** I-2号井戸跡と重複。**形状** 確認面では楕円形で、下部へ向かって円形に変わりロート状を呈す。**規模** 上端の長径174cm、短径154cm、下端の長径77cm、短径72cm、確認面からの深さ165cmを測る。**覆土** As-B軽石を含んで締まりがなく、短期間で埋没と推測。**遺物** 掲載したものは埴輪(1)、須恵器皿(2)、須恵器羽釜(3)である。**時期** 不明(平安時代～中世)。

I-2号井戸跡〔第11・20図、図版4・9〕

位置 X247, Y179グリッド **重複** I-1号井戸跡と重複。**形状** 確認面では楕円形で、上端から中段にかけて広く、北東側は方形状、北西から南西側はオーバーハングして緩やかに傾斜、下端に向かい狭くロート状を呈す。**規模** 上端の長径225cm、短径174cm、下端の長径74cm、短径70cm、確認面からの深さ223cmを測る。**覆土** As-B軽石や白色軽石などを含み、住居跡と同様の土層が見られる。**遺物** 掲載したものは底部から出土した土師器羽釜(1)・(2)である。**時期** 覆土や出土遺物などから10世紀後半頃と思われる。

6 4区の概要

4区は、発掘箇所が東西の2箇所に分かれる。西側調査区より作業に入り、表土から60cm程掘削した面で、灰黄褐色土層を検出し、これを確認面として順次、作業範囲を広げた。西側調査区からは平安時代のW-1号溝跡、竈構築材採掘坑跡、中世のW-2号溝跡(堀跡)、W-2号溝跡の底面からD-1号土坑を、東側調査区からは中世のW-3号溝跡(堀跡)を検出した。

(1) 竈構築材採掘坑跡(西)〔第22・24図、図版11〕

位置 X126・127, Y242・243グリッド。W-1号溝跡の壁面で、緩やかに傾斜し一部テラス状に平坦になる部位で採掘している。この部位は総社砂層中の凝灰岩質層では特に硬質な層である。規模は長径100～125cm程の採掘坑跡を数箇所検出した。形状は不整形に斜面を掘り、その中で良質な材料となる部分を面取り加工している。竈構築材採掘坑跡の内の1箇所を取り残された切石2個を検出した。その周囲には掘削時の痕跡と推測される筋が、段状または半月状の掘削痕として観察できた。取り残された切石2個は長辺36cm～39cm、短辺18cm～21cm、厚さ10cm程で両方も短辺が一部欠損しているが、面取り加工が施されている。時期は、As-B軽石の純層がW-1号溝跡の覆土中に存在しており、本遺構での採掘はW-1号溝跡の形成から埋没までの間に行われたと推測されることから平安時代以前と思われる。遺物で掲載できるものはなかった。

(2) 溝跡

W-1号溝跡(西)〔第22・23図、図版11〕

位置 X126~130, Y241~245グリッド **重複** 北壁面には電構築材採掘坑跡がある。北東側は東西方向に走行するW-2号溝跡(堀跡)と重複。**形状** 北東方向から南西方向に走行しN-49°-Eである。断面形状は逆台形状を呈す。**規模** 全長[21.60]m、上幅3.84m~7.45m、下幅2.75m~4.90m、確認面からの深さ1.27~1.65mを、底面標高は北東側で117.24m、南西側で116.71mを測り、北東方向から南西方向へ低くなる。**覆土** As-B軽石の純層が堆積する。**遺物** 掲載したものは土師器甕(1)、かわらけ杯(2)、皿(3)、軟質陶器甕(4)である。**時期** As-B軽石層の堆積状況や出土遺物から平安時代以前の遺構と思われる。

W-2号溝跡(西)(堀跡)〔第22・23図、図版11・12〕

位置 X126~132, Y239・241グリッド **重複** W-1号溝跡と重複。北壁は調査区外。**形状** 溝跡の南壁面を検出。方向は北東方向から南西方向に走行しN-73°-Eである。断面形状は、段を有して逆台形状と思われる。**規模** 全長は[22.60]m、上幅[2.95]m~[5.70]m、下幅[1.05]m~[3.30]m、確認面からの深さ[2.39]~[2.54]mを測る。底面標高は北東側で115.76m、南西側で115.59mを測る。**遺物** 掲載したものは軟質陶器焙烙(1)、軟質陶器火鉢(2)、陶器塊(3)、陶器徳利(4)である。**時期** W-1号溝跡よりも新しく、出土遺物に16世紀前後の資料を含んでおり、古代以前の遺物や軽石を含まないので、中世以降と推測される。

W-3号溝跡(東)(堀跡)〔第22・24図、図版11〕

位置 X137~139, Y232・234グリッド **重複** 無し。**形状** 溝跡の南北両壁面を検出。北東方向から南西方向に走行しN-53°-Eである。断面形状は壁面に段を有し、底部は逆台形状である。**規模** 全長は6.60m、上幅[6.60]m~[7.10]m、下幅0.90m~1.40m、確認面からの深さ2.22~2.42mを、底面標高は北東側で114.73m、南西側で114.71mを測る。**遺物** 掲載したものはかわらけ杯(1)、石臼(2)である。

時期 出土遺物に15世紀前後の資料を含んでおり、古代以前の遺物や軽石を含まないので、中世以降と推測される。

(3) 土坑

D-1号土坑(西)〔第22・24図、図版12〕

位置 X128・129, Y240グリッド **重複** W-2号溝跡(堀跡)の底部から検出。北側半分は調査区外。**形状** 平面形状は方形、断面形状は逆台形状を呈す。**規模** 長径[110]cm、短径[70]cm、深さ36cm、底面標高は115.98mを測る。**覆土** 細砂、白色軽石、灰白色土を含む。**遺物** 出土しなかった。**時期** W-2号溝跡(堀跡)より新しい別の遺構と考えられるが、植脚などの溝跡(堀跡)に伴う構造物の可能性も考えられ、いずれにしても中世以降と推測される。

7 5区の概要

5区は、発掘箇所が東西の2箇所に分かれる。東側調査区より作業を開始し、表土から80cm掘削した面でも、灰黄褐色土層を検出し、これを確認面とし順次、作業範囲を広げた。東側調査区からW-1号溝跡(堀跡)、西側調査区よりW-2号溝跡(堀跡)を検出した。

(1) 溝跡

W-1号溝跡(東)(堀跡)〔第25・26図、図版12〕

位置 X189～193, Y211・212グリッド 重複 無し。北壁は調査区外。形状 W-1号溝跡(堀跡)の南壁面を検出。東西方向に走行しN-80°-Eである。断面形状は逆台形状と推測。規模 全長[15.00]m、上幅[4.75]～[5.40]m、下幅[2.10]～[2.73]m、確認面からの深さ[2.45]～[2.61]mを、標高は東側底面112.81m、西側底面113.30mを測る。遺物 掲載したものはかわらけ杯(1)、軟質陶器内耳土鍋(2)、硯(3)、板碑(4)である。時期 出土遺物に15～16世紀の資料を含んでおり中世以降と推測。

W-2号溝跡(西)(堀跡)〔第25・26図、図版12〕

位置 X186, Y216～219グリッド 重複 無し。壁面は掘削範囲外にあり底部のみ検出。形状 W-2号溝跡(堀跡)底部に西壁の立ち上がり部分を検出。北方向から南方向に走行しN-0°である。断面形状は部分的な検出状況のため不明。規模 全長[10.90]m、上幅[2.82]～[2.90]m、下幅[1.63]～[2.40]m、確認面からの深さ[3.60]mを、標高は南側底面111.89m、北側底面112.80mを測る。なお、本調査区は湧水が著しく、崩落の危険性が増大し、段掘り状に掘削する調査を行ったため、限定的な検出に止まった。

遺物 掲載したものは かわらけ杯 (1)・(2)・(3)、灰軸陶器高台付皿(4)、椀瓦(5)、石臼(6)、軟質陶器内耳土鍋(7)である。時期 出土遺物に15世紀前後の資料を含んでおり中世以降と推測される。

VI ま と め

今回の調査では、古墳時代～平安時代・中近世の貴重な資料を得ることができた。各区の検出遺構の一部について若干の考察を述べてまとめとする。

1 1区1面As-B軽石層下水田跡について

1区1面において検出のAs-B軽石層下水田跡は道路範囲の調査のため部分的な検出ではあるが、畦畔や水田に伴う溝跡を検出した。畦畔はやや湾曲気味であるが東西方向または南北方向にとる遺構と、北西方向～南東方向にとる遺構を検出した。溝跡も検出した範囲と同様な状況であるが後者が多い。As-B軽石の堆積状況や標高差などから推測すると、水田跡は北西方向から南東方向へ広がる可能性が高い。

この時期の水田跡は条里制の地割りを残している可能性が考えられ、国府範囲を推定する説も条里制区画を基本として発表されており、周辺地割りもそれにならっていると推測される。本調査区で検出した畦畔も推定国府域に近接した水田跡であることから条里制区画を構成する地割りの中に位置付けられる可能性もあるが、条里制区画に伴う大畦畔は検出されなかった。

近年の発掘調査では前橋市内でも条里制水田跡が多数報告されており、市内東部に位置する中原遺跡群においては弘仁9年(西暦818年)の地震に起因する洪水層に覆われた9世紀代の水田跡が検出され、条里制区画が確認されている。また、市内南部に位置する南部拠点地区遺跡群からは大畦畔が検出され、条里制区画が確認されている。また、本遺跡群の南方に位置する日高遺跡をはじめとして、隣接する高崎市域にかけて多くの条里制水田跡が検出されており、今後、本遺跡群ならびにその周辺地域において、当該時期水田跡検出例が増加することを期待するとともに、古代には群馬郡に属していたと考えられることから、他市町村を含め、想定される古代群馬郡全域も視野に入れて理解してゆきたい。

2 1区2面 Hr-FA 層面の畝跡について

1区2面では Hr-FA 層で畝のサク跡を検出した。サク跡に Hr-FA 層が残るものと、Hr-FA 層を掘り込んでいるものの2種類がある。遺構の走行方向では東西方向～南北方向の遺構と北東方向～南西方向の遺構、北西方向～南東方向の遺構の3種類がある。これらは基本的にそれぞれまっすぐに検出された。全体の規模は、サク間幅は4～74cm、サク幅は上幅で8～54cmを測る。サク列幅は一定の長さを基本に耕作したと思われるが、計測値から見ると幅に乱れがあり一部には枝分かれするものや湾曲するものが見られる。さらにサク跡は「U」字状の掘り込みで深さ1～11cm程で浅いものが多い。また、サク跡は調査区全体の中で部分的に検出されたが、Hr-FA 層が薄くサク跡や畝跡が未検出の部分は休耕地等の可能性もあり、サク跡と同様に注意深く調査したが、良好な結果が得られなかった。

古墳時代の畝跡が検出された1区を俯瞰して見てみると、西に向かって緩やかに標高が高くなる傾向が見られ、西へ50m程に位置する総社甲稲荷塚大道西遺跡B区、総社甲稲荷塚大道西II遺跡の調査では、耕作跡は検出されず、古墳時代の住居跡、溝跡等が検出されている。1区周辺での畝跡の検出割合が少ないこともあり、断定はできないが、1区の東側に畝遺構が広がる可能性がある。付近では元総社牛池川遺跡（古墳一水田跡）、元総社北川遺跡（古墳一水田跡）、総社閑泉明神北遺跡（古墳一水田跡・畝跡）、大友宅地添遺跡（古墳一畝跡）などから古墳時代の水田跡や畝跡が検出されている。また、本遺跡群の北西の相馬が原扇状地に位置する、古墳時代豪族居館跡の北谷遺跡（標高145m）周辺に Hr-FA 層下の畝跡が検出されている。標高差で見ると本調査区と最高で27m程の差がある。木津博明氏は本遺跡群周辺の古墳時代後期の土地利用について概念図を発表されているが¹⁾、1区の位置には特殊域と生活域の境界を想定されている。そしてこの特殊域には上毛野君の居館を想定されているようである。今回の調査ではこれを肯定するような結果は得られなかったが、こうした周辺地域を含め、総合的に俯瞰して見ることで地域社会での本遺構の位置付けも明確になるだろう。

(1) 木津博明「古代群馬郡考(上)・(下)」『群馬文化』第219号・第220号 群馬県地域文化研究協議会 1989

3 2区・4区電機構材採掘坑跡について

2区・4区の凝灰岩質層から電機構材採掘坑跡を検出した。

2区では、形状が長方形の採掘坑跡が緩やかな斜面に段々に重なった状態で残されていた。採掘状況は、斜め上方から深く掘り込んでいるものと、平坦な面に垂直に採掘された長方形の2種類の遺構が見られる。採掘坑跡には上幅が下幅より広く残る遺構もある。採掘にはノミ状工具の使用が推測される。4区では、形状が不整形形状の採掘坑跡を数箇所検出した。その内の1箇所では採掘坑中に取り残された切石を検出した。また、一部の採掘坑跡に掘削時の工具痕と思われる痕跡が見られた。採掘範囲は斜面の上端から深さ70～100cm程で、採取に適した礫の少ない比較的硬質な層を選択し採掘している。

これらの状況を、検出規模の大きい鳥羽遺跡O区第1台地電機構材採掘坑跡、大屋敷遺跡C区電機構材採掘坑跡と比較すれば、本調査区の2区検出電機構材採掘坑跡に規模や形状、規格性などの類似点認められ、4区の採掘坑跡とは形態が異なる様相が見られた。これは、採掘時期や工具の使用法、工人などの違いによるものと推測される。

採掘場所については4区の採掘坑跡は覆土中にAs-B軽石層の純層が堆積する溝跡壁面から検出された。2区では、大屋敷遺跡と同様、傾斜面において採掘坑跡が検出されたが、鳥羽遺跡では、溝以外の採掘が容易な場所において大規模に採掘している。いずれも凝灰岩質層の露頭を選定して行うことは共通する。

採掘時期については、覆土にAs-B軽石層の純層が堆積する溝跡壁面に検出した4区電機構材採掘坑跡は下限を11世紀以前と推測する。2区については明確にできないので、他の事例にあたってみたい。前述の鳥

羽遺跡では奈良時代～平安時代にかけての住居跡竈構築材に切石を使用しており、消費地の側面から推定年代を導いている。また、大屋敷遺跡では、W-9・10号溝跡の覆土上部にAs-B軽石層が堆積する状況から、12世紀初頭以前を下限とし、同遺跡H-126・153・155・158号住居跡が凝灰岩質層の切石を用いた6世紀代の住居跡であることから6世紀を上限にしている。本調査区3区H-13号住居跡竈でも天井に架構にされており、10世紀後半～11世紀前半の住居跡と思われることから、鳥羽遺跡や大屋敷遺跡の推定年代の範囲内にあるといえる。このように4区での下限年代や類似遺構の検出された鳥羽遺跡、大屋敷遺跡例を勘案するならば、2区の竈構築材採掘坑跡の推定年代は、概ね6世紀～11世紀のいずれかの時期と推測しておきたい。

今後、検出事例が増えることにより採掘時期や方法など詳細な研究が進展することを期待したい。

4 4・5区の溝跡（堀跡）について

4区W-2・3号溝跡・5区W-1・2号溝跡について中世以降の構築と推測した。以下に所見を述べる。

山崎 一氏の研究によれば¹⁾、本遺跡群の位置に蒼海城という長尾氏の中世城館跡が記述されている。また、長尾一央氏蔵古図にも綱張りが描かれている。

相模国鎌倉郡長尾郷を本貫地とする長尾氏は上杉氏被官の武士で、系図上で5系統に分かれ、その内の2系統が総社長尾氏とされる。この総社長尾氏が蒼海城を築城した年代は明確ではないが、上杉憲定が応永10年(西暦1403年)、上野国衙職を幕府から宛がわれており、この頃には上野に進出したと考えられている。高崎市東国分町で発見された梵鐘銘には応永17年(西暦1410年)に長尾憲明らが妙見寺に梵鐘を寄進した旨が刻まれており、また『上毛伝説雑記』は永享元年(西暦1429年)の築城を記し、『白井長尾系略』では永享11年(西暦1439年)に長尾景行の蒼海城築城を記す。以上はいずれも15世紀前半の年代で収まるが、これ以外に貞治2年(西暦1363年)築城説がある。落城についても明確ではないが、永禄8年(西暦1565年)に武田信玄が諏訪大社上社に納めた願文中に箕輪城と共に惣社等も手中にしたい旨が記されており、この段階では落城していない。しかし、長年寺住持受連の覚書には箕輪城が永禄9年(西暦1556年)9月に落城したと記述され、以後、上野が武田氏の領国となることから、この前後には蒼海城も落城したのと考えられている。その後、諏訪氏、秋元氏の領有となるが、秋元氏は勝山城を築城し、落城後は荒廃していったとされている。

今回、中世の遺構と考えた溝跡（堀跡）は、山崎氏の研究を現在の地図と図復した図に示すと(第25図参照)、山崎氏が調査した堀跡と概ね一致する位置にあたり、以下に述べる年代観とも矛盾がなく、考古学的に山崎氏の研究の一端が理解できた。

出土遺物は15世紀代と考えられる陶器や16世紀代と考えられる内耳土鍋、焙烙など蒼海城が機能していたであろう年代と合致する遺物が検出された。これらの遺物は原位置ではなく、覆土中から一括して採取した遺物であって、直ちに遺構の年代に結び付けることはできないが、4区W-1号溝跡のようなAs-B軽石の堆積もなく、古代以前の遺物も検出されておらず、消極的ながら、溝を構築した年代の上限を少なくとも中世以降と考えざるを得ない。また、京都府室町殿跡など、時期の近い遺構に類似した様相を見ることができ、障子堀構造や石垣などの構造は検出されなかった。さらに、掘削の作業単位(小間割)のような痕跡も確認できなかった。

覆土中には近世の遺物も見られ、また、近代に盛り土して埋めている部分もある。埋没するまでの時間が長いことを看取した。

今回の出土資料は部分的な検出に止まったため言及できる範囲は限られるが、今後、本遺跡群の調査が進み、遺構・遺物等が集成される際に、その属性も明らかにされるであろう。

(1) 山崎 一 『群馬県古城址の研究』上巻 群馬県文化事業振興会 1971

5 住居跡の時期と分類

3区より住居跡17軒（竈のみの検出1軒を含む）が検出され、その他の調査区からは検出されなかった。今回検出した住居跡の時期は、平安時代の概ね10世紀前半～11世紀後半の範囲に取まるもので、平安時代でも後半の律令制が崩壊しはじめ、中世に向かおうとする時期に構築された住居跡が多かったと考えられる。

H-1～17号住居跡は、形状が、一部推定を含めて方形や長方形で、規模は最小で2.83×3.45m（H-14号住居跡）、最大で[4.70]×4.87m（H-13号住居跡）であった。本地域では当該時期の住居跡が小型化してゆく傾向性を看取できるが、一辺4mを越える住居跡が部分検出ではあるがH-11・13・15号住居跡に見られ、やや大型となっている。主軸方向はN-73°-E～(N-98°-E)の範囲に集中し画一化が進んでいる。

竈は、H-2・4・8・10・12～14・16・17号住居跡の合計9基を検出した。

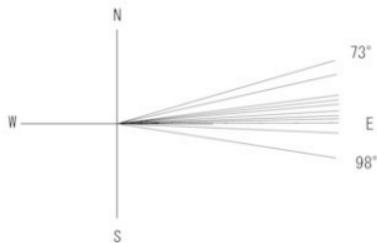
住居跡の重複が多く、後世の掘削等によって残存状態があまり良好でなく、出土物からは時期決定が困難で、新旧関係その他から時期を推定せざるを得なかった。重複が著しく、出土土器からは同時期と判断される例は本地域の他、武蔵国府地域の遺跡などでも見られ、建て替えが頻繁に行われた様子が看取される。

竈の主軸・位置・形態の特徴は、主軸方向はN-69°～148°-Eの範囲に7基（H-2・4・10・13・14・16・17号住居跡）が集中し、2基（H-8・12号住居跡）は東南隅に設ける竈である。燃焼部は東壁を掘り込んで構築し、両袖は住居内に突出しないものが多い。また、燃焼部と明確に区別された煙道を有し、煙道は長く延びるものが6基（H-4・8・10・12・13・17号住居跡）検出された。さらに構築材に瓦や切石・自然石を使用しているものが4基（H-10・12・13・17号住居跡）検出された。遺物は土師器環などが出土した。

H-3号住居跡の覆土より古墳時代の遺物と思われる須恵器大甕や調査区内グリッド一括で鬼高式土師器坏片などを検出しているが、古墳時代～奈良時代にかけての住居跡は検出されなかった。3区の西方では、古墳時代～奈良時代の住居跡を多数検出しており、3区において採取した古墳時代の遺物はこうしたところから持ち込んだり、流れ込んだりした遺物であろう。

また、今回、瓦類を多数検出した。その一部は電構築材に転用されていた。これらは上野国分僧寺跡、上野国分尼寺跡または、山王庵寺さらに推定上野国府跡などから持ちこまれた可能性もあるが、山王庵寺は牛池川の対岸にあり、推定上野国府跡は実態が明らかではなく、現時点では上野国分僧寺跡、上野国分尼寺跡のいずれか一方または両方の瓦を持ち込んでいる可能性が高いとみられる。

今後の資料の蓄積を待って、今回は解明できなかった諸課題に言及できるよう努力してゆきたい。



第4図 3区住居跡主軸方向グラフ

〈参考文献〉

- 前橋市 『前橋市史』第1巻 1971
- 前橋市文化協会 『うずもれた前橋の歴史』比刀雅双書6 1992
- 定藤義典 『図説 前橋の歴史』あか子出版 1989
- 群馬県 『群馬県史』通史編 第2巻 新編古代2 1991
- 群馬県 『群馬県史』通史編 第3巻 中世 1989
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『群馬県史内蔵遺跡C地点』1985
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『上野国分寺寺・居守中間地城(1)』1986
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『上野国分寺寺・居守中間地城(2)』1987
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『上野国分寺寺・居守中間地城(3)』1988
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『上野国分寺寺・居守中間地城(4)』1989
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『上野国分寺寺・居守中間地城(5)』1991
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『古河遺跡・L・M・N・O区』1990
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『国分塚遺跡』1990
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『白石大塚遺跡―藤巻を伴う中世寺院址の調査―』1991
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『下芝天神遺跡・下芝田原遺跡』1998
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『下芝五反田遺跡―古蹟時点編―』1998
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『和山山王塚前遺跡』1999
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『小八木志志江遺跡群2』2001
- 群馬県歴史文化財調査事業団 『総社岡部明神北遺跡・総社北川遺跡・総社北川小見内V遺跡』2007
- 前橋市歴史文化財発掘調査区 『総社岡部明神遺跡―X区』1986
- 前橋市歴史文化財発掘調査区 『大友塚遺跡群』1995
- 前橋市歴史文化財発掘調査区 『総社七郎遺跡・上野国分寺寺域調査遺跡目録』2000
- 前橋市歴史文化財発掘調査区 『総社小見内遺跡』2009
- 前橋市歴史文化財発掘調査区 『総社小見内V遺跡』2001
- 前橋市歴史文化財発掘調査区 『総社新海遺跡群・総社甲冑高塚大道西遺跡・総社岡部明神北遺跡・総社甲冑高塚大道西V遺跡』2001
- 前橋市歴史文化財発掘調査区 『総社小見内遺跡』2002
- 前橋市歴史文化財発掘調査区 『総社小見内遺跡・総社岡部寺V遺跡』2002
- 前橋市歴史文化財発掘調査区 『総社小見内遺跡』2005
- 前橋市歴史文化財発掘調査区 『総社新海遺跡群(17)』2008
- 愛知府教育委員会 『愛知府史跡群分布調査報告(IV) 瀬戸・瀬岡(瀬戸古宮跡群)』1985
- 富山県立歴史・観光を盛りあげた富山城―』2007
- 富山県立考古学文化財センター 『富山城と古河地方史料展』瀬山園 2010
- かみつひの発掘物誌 『編について考える―土佐への先史・縄文・縄間と関係する空室・縄間という時代―』2000
- かみつひの発掘物誌 『第12回特別展1188―縄間の時代―中世への形勢― 展示解説図録』2004
- かみつひの発掘物誌 『道の登場―平安時代の東武を語る―』2005
- かみつひの発掘物誌 『藤崎藩の考古学』2005
- かみつひの発掘物誌 『日々なる30年物語―縄間時代に暮らした人々の大冒険― 実話と真相がいっしょに、そして復興へ―』2006
- かみつひの発掘物誌 『かみつひの発掘物誌』『京都文化財プロジェクト2006』2006
- 群馬県 『群馬県史』通史編 上 2001
- 群馬県群馬県教育委員会 『北谷遺跡』2005
- 埼玉県立風山史跡の博物館 『板碑が語る中世の館と城―昔谷郡跡の理解のために―』2010
- 埼玉県立風山史跡の博物館 『遺物が語る中世の館と城―昔谷郡跡の理解のために―』2010
- 諏訪市 『諏訪市史』上巻 原始・古代・中世 1995
- 高崎市 『高崎高崎小史』源流編 2 中世 2000
- 高崎市 『高崎高崎小史』資料編 2 中世 1996
- 高崎市教育委員会 『史跡 高崎城跡』刊 2008
- 群馬県教育委員会 『秩父家の歴史と文化―総社城最後の城上―』1994
- 千代田区教育委員会 『千代田遺跡』1986
- 府中市立の森博物館 『古代武蔵国史』府中市立の森博物館ブックレット6 2005
- MiHO MUSEUM 『古河の館 中世のやまのり六古宮とその周辺』2010
- 横浜歴史博物館 『横浜開港と鎌倉のズンズンあふり』2011
- 宮城県教育委員会 『史跡 岩崎城跡 第1期発掘調査事業発掘調査報告』2008
- 林忠 武 『中世の石川氏史』同志社院 2005
- 池上 惣 『地下式塔礎発見』『文史春秋』第19号 立正大学史学会 1988
- 石田茂伸 監修 『新編 弘教寺考古学講座』3巻 塔・塼・礎 雄山閣 1976
- 堀村 繁 『群馬における高形埴輪の変遷―土器古墳出土品を中心として―』[MUSEUM] No.425 東京国立博物館 1986
- 上野京助 『編』法政大学出版局 1972
- 岩田茂伸 編 『塔と石段―古代から近代の塔と石段―』みよま文庫 2008
- 大塚博行 『古河開港と中世の館と城―昔谷郡跡について―』[群馬県考古学誌] 第16巻 群馬県考古学会 1994
- 太田博之 『「五十子跡」研究ノート』[群馬県考古学手帳] 第15号 群馬県版 2005
- 小澤国平 『板碑入門』同人社 1967
- 小野正徳 『出土陶器よりみた十五、十六世紀における前期の東鑑』[MUSEUM] No.416 東京国立博物館 1985
- 久保田新一 『上野武土館の中世史』みよま文庫 1996
- 定藤義典 『高崎城と長野町』上毛新聞社 1995
- 定藤義典 監修 『群馬県の史跡』中巻 上毛新聞社 1992
- 石川清治・藤野一之・三原雅彦 『群馬・赤田山遺跡群誌』群馬大学考古学研究所 2009
- 飯沼秀一・森 敏夫 編 『日本歴史考古学を学ぶ(7) 先史の図像 有楽園 1986
- 飯沼秀一 編 『歴史考古学の問答』近畿出版社 1990
- 飯沼 秀 監修 『図解 技術の考古学』改訂版 有楽園 2000
- 鈴木公彦監訳ミラー 編 『近世・近代考古学入門』鹿屋書林大出版会 2007
- 伊豆野 仁 監修 『北谷遺跡とその周辺』[考古学論叢] 第13号 池上 惣 監修 鹿屋書林 立正大学考古学会 2010
- 中村 哲 『古代・中世の食糧』『歴史文化』No.4 物質文化研究所 1990
- 新倉明雄 『出土土器の分類と編年』[筑前・築城雑誌] 群馬県歴史文化財調査事業団 1981
- 新倉明雄 『出土板碑より見る板碑の成立と変遷について』[群馬の考古学] 群馬県歴史文化財調査事業団 1988
- 藤巻 健 『弘仁九年板碑発見についての発見』[群馬県史研究] 第34号 群馬県史学委員会 1991
- 鎌倉典夫 監修 『平井城跡C区』上毛新聞社 1996
- 鎌倉典夫 監修 『内上川跡の研究(上)・(下)』[上野考古学] 第21・22号 上野考古学研究会 1997, 1998
- 鎌倉典夫・相模 における中世の食糧植物(5)―中世初期の稲作―』[神奈川考古学] 第34号 神奈川県考古学会 1998
- 『古河開港と中世の館と城』[群馬の古蹟を歩く』みよま文庫 2010
- 堀野 哲・小島敦子 編 『高崎における平安時代前期の上野郡―秩父内閣を中心として―』[群馬の考古学] 群馬県歴史文化財調査事業団 1988
- 堀野典夫 『三つ石の平野のなかの長閑な時代―群馬県立歴史博物館紀要』第10号 1999
- 森 敏夫 『筑と古代寺院』六興出版 1983
- 若狭 徹 『古蹟時代における地域首長の政治領域―首長居館3ヶ年V遺跡・北谷遺跡の検討から―』[考古学雑誌] 第90巻第2号 2006

第10表 3区住居跡一覧表

()は推定値、[]は検出値を表す。

遺構名	位置 グリッド	規模(m)			平面形状	主軸方向	電		周溝	貯 蔵 穴	重複	時 期
		東西	南北	壁高			位置・方向					
H-1	X243・244 Y180	[2.00]	[1.57]	0.20	(隅丸長方形)	(N-84°E)	不明	不明	有	無	10C後半～ 11C前半	
H-2	X243・244 Y180・181	[3.90]	[2.40]	[0.04]	(長方形)	(N-85°E)	東壁 方向不明	不明	不明	H-4< H-6<	10C代	
H-3	X244・245 Y179・180	2.35	[1.75]	0.13	(長方形)	(N-85°E)	不明	不明	不明	無	10C代	
H-4	X244・245 Y180・181	3.85	[3.50]	0.20	(長方形)	(N-87°E)	東南隅 方向不明	有	不明	H-2> H-6< W-1>	10C前半	
H-5	X245・246 Y179・180	2.95	[2.25]	0.13	(長方形)	(N-77°E)	不明	不明	不明	H-7<	11C代	
H-6	X244・245 Y180・181	3.85	[2.55]	[0.10]	(隅丸長方形)	(N-98°E)	不明	有	不明	H-2> H-4> W-1>	10C前半	
H-7	X245・246 Y180	3.20	[2.68]	0.16	(隅丸長方形)	(N-88°E)	不明	不明	不明	H-5> D-10>	11C代	
H-8	X246・247 Y179・180	3.67	[3.65]	0.31	(長方形)	(N-83°E)	東南隅 N-110°E	不明	不明	H-9<	10C中葉～ 10C後半	
H-9	X246・247 Y180	2.60	2.34	0.22	(長方形)	(N-86°E)	不明	不明	不明	H-8>	10C前半～ 10C中葉	
H-10	X248・249 Y178・179	4.20	[2.92]	0.46	(隅丸長方形)	(N-92°E)	東壁 [N-93°E]	不明	不明	H-12< H-15< H-16<	10C後半	
H-11	X249・250 Y179・180	4.34	3.30	0.34	(隅丸長方形)	(N-85°E)	不明	不明	不明	H-13> H-15< H-16< D-13< D-14<	10C中葉	
H-12	X247・248 Y178・179	[3.00]	[2.13]	0.20	(長方形)	(N-88°E)	東南隅 [N-148°E]	不明	不明	H-10> H-15<	10C中葉	
H-13	X249・251 Y180・181	4.87	[4.70]	0.40	(隅丸長方形)	(N-87°E)	東壁 N-96°E	有	有	H-11< H-17<	10C後半～ 11C前半	
H-14	X252・253 Y179・180	2.83	3.45	[0.10]	方形	N-73°E	東壁中央 N-69°E	不明	不明	無	10C後半～ 11C代	
H-15	X248・249 Y179・180	[4.05]	[3.55]	0.30	(長方形)	(N-87°E)	不明	不明	不明	H-10> H-11> H-12> H-16>	10C中葉	
H-16	X249・250 Y179	3.50	[2.83]	0.29	(長方形)	(N-89°E)	東北隅 N-93°E	不明	不明	H-10> H-11< H-15< D-13> D-14>	10C中葉	
H-17	X250・251 Y181	不明	不明	不明	不明	不明	東壁 N-93°E	不明	不明	H-13> 鑑のみ検出	10C中葉	

第11表 出土遺物観察表

法器は①口徑②底径③胴部最大径④部高を表し、単位はcmである。また〔 〕は測定値、[] は現存値を表す。

遺物番号 出土位置	台帳番号	部種	法量	①素材 ②成形 ③土質 ④残存	器形の特徴、成・整方法	備 考
3区H-1-1	3区H-1 No.2	須恵器 環	①(11.8) ② 4.8 ③ 3.4	①細粒(白色粘含む) ②良好(酸化) ③焼7.5YR6/6④底部完存	体部は内湾し、口径は丸い。ロクロ整形。底部回転未切り。	内底面に輪状の跡がある。内底面中央は僅かに盛り上がる。
3区H-3-1	3区H-3 No.1,2	須恵器 大壺	①(90.0) ②(84.0) ③頸部径(35.1)	①中粒(白色粘・砂粒・小礫含む)②良好(酸化)③鈍い黄2.5Y6/4④胴部から割部の一部	輪積み成形。外面は朝毛目状調整。内面は青濁状の当て目がある。頸部は外反し、表状文を施す。	
3区H-3-2	3区H-3	須恵器 高台付環	①(11.4) ②(6.5) ③[3.7]	①細粒(白色粘・小礫含む) ②平(黄赤)10YR5/3③1/5焼	体部は内湾し、口径は外反する。内面に磨き、内面に黒色処理を施す。ロクロ整形。	内黒土質。黒面がある。
3区H-3-3 掘り方	3区H-3 掘り方 一括	須恵器 羽釜	①(18.0) ②[7.2]	①細粒(白色粘・小礫含む) ②良好(還元)③R5Y6/1 ④口縁破片	輪積み成形。胴部は下向きで三角形状。口径は内湾し角張る。胴で調整を全面に施す。	
3区H-3-4	3区H-3 一括	須恵器 環	①(9.0) ②(5.0) ③ 2.0	①細粒(褐色粘含む) ②良好(酸化) ③淡黄赤2.5YR7/3④1/4焼	体部は横を持って外反する。口径は丸く鋭い。ロクロ整形。底部回転未切り。	白い器体の環。内底面中央が深い。
3区H-4-1	3区H-4 No.21	須恵器 環	①(8.7) ② 3.0 ③ 1.8	①細粒(砂粘含む) ②良好(酸化)③鈍い黄7.5YR5/4④胴1/2焼	体部は横を付け直線的に開き、口径が肥厚。内面に黒色調整。ロクロ整形。底部回転未切り。	部分的に還元状態の焼きが見られる。
3区H-4-2	3区H-4 No.1	須恵器 環	①(14.0) ② 7.6 ③ 4.0	①細粒(白色粘含む)②良好(酸化)③鈍い黄7.5YR5/3 ④底部完存・口縁部1/3焼	体部は内湾し、口縁部で外反する。外面は調整で調整より焼を付ける。内面に調整で調整。ロクロ整形。底部回転未切り。	内底面に螺旋状の沈線がある。
3区H-4-3	3区H-4 No.13	須恵器 環	①(13.4) ② 5.7 ③ 4.4	①細粒(砂粘・小礫・白色粘含む)②良好(酸化)③赤5YR6/8④底部完存・口縁部1/3焼	体部は外湾から内湾して口縁部で外反して立ち上る。ロクロ整形。底部回転未切りで、切る位置が高い。	口縁部に僅が付着する。
3区H-4-4	3区H-4 No.16	須恵器 環	①(14.8) ②(8.0) ③ 4.1	①細粒(白色粘含む) ②良好(酸化)③黒あり ③赤5YR6/6④1/3焼	体部は2段に外反して立ち上る。外面下部に横で調整。口径は尖り気味。ロクロ整形。	黒面がある。内底面に僅が付着。螺旋状の沈線がある。
3区H-5-1	3区H-5 No.1	須恵器 環	①(8.2) ② 4.9 ③ 1.7	①細粒(白色粘含む) ②良好(酸化) ③焼7.5YR6/4④底部完存	体部は厚やかに内湾し、縁が付く。口径は丸い。全体に内湾。ロクロ整形。底部回転未切り。	
3区H-8-1	3区H-8 No.1	土師器 羽釜	①(21.0) ②[8.6]	①中粒(白色粘・砂粘含む) ②良好(酸化)③黒7.5YR2/2④口縁部から割部の一部	輪積み成形。外面調整は調整で調整。口縁部は無調整。内面は指調で調整。胴部はやや下向きの三角形状。口径は丸い。	
3区H-8-2	3区H-8 No.10	須恵器 高台付環	① 6.1 ②[2.3]	①細粒(小礫・砂粘含む) ②良好(酸化)③鈍い黄7.5YR6/4④底部完存	底部に「ハ」の字状に内湾して開く丸い高台を付する。内底面に黄赤さし黒色処理を施す。	内黒土質。
3区H-9-1	3区H-9 No.1,2	瓦 平瓦	長さ18.7 幅 27.8 厚さ 2.6	①中粒(小礫・砂粘含む) ②良好(還元)③灰7.5Y6/1 ④部完存	型成形。内面は布目正焼。凸面は朝毛目調整。頸部は調整で調整。底部は調整で調整。	袷部部に中央に釘押えの凹がある。
3区H-9-2	3区H-9 No.4	瓦 丸瓦	長さ20.0 幅 10.0 厚さ1.4~1.9	①中粒(砂粘・小礫含む) ②良好(還元) ③灰赤7.5Y7/1④1/4焼	型成形。内面は布目正焼の残り。凸面は朝毛目調整を施す。側面は調整を施す。	円筒平截か?布目の縁合がある。
3区H-9-3	3区H-9 No.6	須恵器 環	① 9.2 ② 6.0 ③ 2.6	①細粒(砂粘含む)②良好(酸化)③明黄赤10YR8/4 ④ほぼ完形	体部は外反気味から内湾して、口縁部は外反し口径は丸い。ロクロ整形。底部回転未切り。	
3区H-10-1	3区H-10 No.73	瓦 平瓦	長さ16.6 幅 10.9 厚さ 2.1	①中粒(砂粘・小礫含む) ②良好(還元)③灰 N5/ ④側部の一部	型成形。内面は布目正焼の残り。凸面は朝毛目調整を施す。側面は調整で調整。	
3区H-10-2	3区H-10 No.14	須恵器 環	①(9.0) ② 5.4 ③ 2.6	①細粒(砂粘・小礫含む) ②良好(酸化) ③焼灰 N3/④1/4焼	体部は微かに内湾して開く。口縁部は口径に丸みを付ける。ロクロ整形。底部回転未切り。	
3区H-10-3	3区H-10 No.52	石製品 砥石	長さ5.4 幅 2.6~3.4 厚さ1.2~2.1	①粗粒(山崩) ②焼灰10YR4/1,10YR6/1 ③完形	平面形状は不定形の短く厚薄。全面に研ぎがある。袷部部に直径6mmの穿孔を施す。	一面だけ黒い。重さは64.74g。
3区H-10-4	3区H-10 No.82	須恵器 羽釜	①(20.3) ②[6.4]	①中粒(砂粘・白色粘含む) ②良好(酸化) ③鈍い黄7.5YR7/4 ④口縁部の一部	ロクロ整形。胴部は内湾し、一部調整で調整。胴部は下向きで三角形状。口縁部は内湾気味で薄く、口径は角張って平直。	
3区H-10-5	3区H-10 No.59	黒色土器 環	①(10.5) ②(6.0) ③ 3.6	①細粒(白色粘・砂粘含む) ②良好(酸化) ③焼灰 N3/④1/4焼	体部は内湾し、口径は外反し丸く肥厚。外面に調整を施す。ロクロ整形。底部回転未切り。	
3区H-10-6	3区H-10 No.57	黒色土器 環	①(11.8) ②[7.7]	①細粒(白色粘・砂粘含む) ②良好(酸化) ③焼灰 N3/④1/4焼	体部は内湾し、口径は外反し丸く肥厚する。外面に調整を施す。ロクロ整形。	周文のような磨き目がある。
3区H-10-7	3区H-10 No.79	須恵器 環	① 8.4 ② 5.6 ③ 1.9	①細粒(砂粘含む) ②良好(酸化)③にやや焼7.5YR7/6④ほぼ完形	体部は内湾し、口径は外反し丸く肥厚。上下に調整を施す。ロクロ整形。底部回転未切り。	内黒土質だが黒色処理が不完全。内底面に螺旋状の沈線がある。
3区H-10-8	3区H-10 No.76 一括3点	須恵器 環	①(14.0) ②[4.0]	①細粒(良好(酸化) ③鈍い黄7.5YR5/4 ④口縁部1/3焼	体部は内湾し、口径は外反して角張る。内外面に黒色調整で調整。内面に黒色処理。ロクロ整形。	高台部分は接合部が一部に見られる。
3区H-10-9	3区H-10 No.23	緑釉陶器 高台付壺	①(11.8) ②(5.5) ③[1.4]	①細粒(良好(還元) ③オリーブ灰10Y4/2 ④口縁部から底部の一部	体部はやや内湾し、口径は丸い。断面形状は体部が厚く口縁部が薄い。ロクロ整形。	

諸物番号 出土位置	台帳番号	部類	質量	①出土 ②構成 ③色調 ④残存	器形の特徴、成・整形方法	備 考
3区H-10-10	3区H-10 №45	鉄製品 鉄鍋	全長 [11.0] 釜長 [2.4] 腕部長 2.0 刀部長 36.6 刃部幅 2.1	①鉄 ②柄 5YR4/6, 7.5YR5/8 ③ほぼ完全に近い	刀部は断面が菱形に近く厚い。腕部は柄が着いたの形で明確である。基部の一部欠損している。	基部に有機物の酸化したような付着物がある。重さは29.29g。
3区H-10-11	3区H10 一帯2点	鉄製品 不明	長[5.2±5.2] 幅 0.5-0.7	①鉄②明褐色 5YR5/8 ③不明	酸化が著しく割裂としない。断面がほぼ正方形に近い。	重さは14.33g。
3区H-11-1	3区H-11 №3	須置器 高台付罐	①[14.4] ② [6.2] ③ [4.6]	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③黄褐色7.5YR5/6④1/2残	体部は内湾し、口唇は丸く外反し、外面に産膜で調整。内面に黒色産膜と磨き。ロクロ整形。	内湾土器。
3区H-11-2 P ₂	3区H-11P ₂ №1	土器器 土釜	①[19.2] ②[18.0] ③[10.8]	①中粒(砂粒含む)②良好(酸化)③黄褐色7.5YR5/6④口縁部破片	輪積み成形。外面は直立気味に開き、指押え調整を施す。口縁部は外反し、腹で調整を施す。	
3区H-12-1	3区H-12 №29	黒色土器 高台付罐	② [7.0] ④ [2.5]	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③黒2.5Y2/1④底部1/4残	外面は高台部分を含め磨き調整を施す。内面は調整を施す。ロクロ整形。内外面黒色産膜。	口縁部に煤が付着する。
3区H-12-2	3区H-12 №22	須置器 罐	①[10.8] ④ [3.9]	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③赤い④5YR6/4④1/2残	体部は内湾し、口唇は外反して薄く、外面に産膜で調整を施す。ロクロ整形。	口縁部に煤が付着する。
3区H-12-3	3区H-12 №11	須置器 高台付罐	② [7.0] ③[10.5] ④ [2.2]	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化)③赤黄褐色7.5YR8/4④底部2/3残	体部は内湾し、縁を付けて開く。外底面に「ハ」の字状の高台を貼付。ロクロ整形。	内外底面に産膜状態で調整があり、内底面は突起状に盛り上がる。
3区H-12-4 電	3区H-12 №1, 8 3区H-12 №24	須置器 罐	①[12.8] ② 6.2 ④ 4.0	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化)③黄褐色7.5YR7/4④底部完存	体部は内湾し口縁部は外反し、口唇は角張る。外面に産膜で調整。ロクロ整形。底部凹凸あり。	
3区H-12-5 電	3区H-12 №13	瓦 瓦丸	長さ[21.0] 幅 14.5 厚さ1.5-1.7	①中粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化) ③灰白2.5Y8/1④1/2残	成形。凹面は角目正。凸面は跳目調整。産膜、指押え調整。狭・側面部は産膜調整。	電の支脚石の後に埋設されていた。円筒半截か？布目の積重ねがある。
3区H-12-6 電	3区H-12 №4, 5	須置器 高台付罐	①[16.6] ② [7.5] ④ [6.0]	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化)③灰白10YR8/5④体部1/2残	体部は内湾し、外面に産膜調整あり。口唇は丸く外反する。ロクロ整形。	高台付付板がある。
3区H-12-7 電	3区H-12 №6	須置器？ 高脚高台付罐？	② [9.9] ④ [3.0]	①細粒②良好(酸化) ③暗黄褐色10YR8/3 ④高台部一部	高台を分離成形。口唇は丸く、外面に産膜で調整。ロクロ整形。接合部は「M」字状。	
3区H-12-8 電	3区H-12 №3	須置器 罐	① [8.0] ② [6.0] ④ 1.5	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(酸化)③灰白10YR7/1④底部1/2・口縁部1/8残	体部は内湾し、口唇は尖り気味。ロクロ整形。底部凹面切り。	内底面は中央が窪む。
3区H-12-9 電	3区H-12 №9, 10	須置器 罐	① 9.4 ② 7.0 ④ 2.0	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(酸化) ③灰白2.5Y7/1④3/4残	体部は内湾して立ち上げ、口唇は丸みを付けるが尖り気味。ロクロ整形。底部凹面切り。	
3区H-13-1	3区H-13 №29, 42 一括	灰輪器 高台付罐	①[15.0] ② 7.6 ④ 5.9	①細粒(小礫含む) ②良好(酸化) ③灰白2.5Y7/1④底部完存	体部は内湾し、口縁部は直線的で、口唇は丸く外反して磨かれている。ロクロ整形。	内面は柄の筋状で底面にはないたぬね焼きか？
3区H-13-2	3区H-13 №22, 25 一括	土器器？ 鉢？	①[18.2] ② 10.8 ④ 6.5	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化)③黄褐色10YR7/3④底部完存	底部成形後、輪積み成形。外面は指押え調整を施す。ロクロ使用。	
3区H-13-3	3区H-13 №11, 29 一括	須置器 罐	① 12.8 ② 6.0 ④ 4.5	①細粒(砂粒・白色粒含む) ②良好(酸化)③暗灰黄2.5YR5/2④底部完存・口縁部1/2残	体部は外面は内湾して、内面は直線的に立ち上げ調整をさせる。口縁部は外反させる。ロクロ整形。底部凹面切り。	部分的に還元状態の焼きが見られる。
3区H-13-4	3区H-13 №23	須置器 罐	① 8.3 ② 5.0 ④ 2.1	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化) ③明褐色 3YR5/6④完形	体部は直線的に開き、口唇は丸い。ロクロ整形。底部凹面切り。	
3区H-13-5	3区H-13 №14	須置器 罐	①[10.8] ② [5.8] ④ 2.4	①中粒 ②不良(還元) ③灰白10YR7/1④1/2残	体部は内湾し口唇は丸い。ロクロ整形。底部凹面切り。	黒面がある。内底面は指押え調整を施す。
3区H-13-6	3区H-13 №62	須置器 罐	① [8.7] ② 4.3 ④ 2.1	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化) ③黄褐色2.5YR3/3④底部完存	体部は内湾し、口縁部は外側に丸い。ロクロ整形。一部産膜で調整を施す。底部凹面切り。	
3区H-13-7	3区H-13 №80	須置器 高台付 罐？	② [5.2] ③[10.0] ④ [2.0]	①細粒(白色粒・砂粒・小礫含む)②良好(還元) ③灰白N7/④底部残	内底面は平坦に作るが、高台直接に対して大きい。ロクロ整形。	
3区H-13-8	3区H-13 №43	土器器 土釜	①[20.4] ②[20.8] ③ [9.2]	①中粒(砂粒含む) ②良好(酸化)③10YR8/3 ④口縁部一部	輪積み成形。外面は側面部で調整。一部指押え調整。内面は指押え調整。口唇は外反し丸い。	外面に煤が付着する。
3区H-13-9	3区H-13 №18	土器器 土釜	①[23.2] ②[23.1] ③[19.8]	①中粒②良好(酸化) ③暗褐色10YR2/2 ④口縁部一部	輪積み成形。外面は側面部指押え調整。腹指押え調整。内面は指押え調整。口唇は外反し丸い。	外面に煤が付着する。
3区H-13-10	3区H-13 №2	灰輪器 皿？	②[13.8] ③[16.0] ④ [3.9]	①細粒(砂粒含む)②良好(還元)③灰白10YR8/4④底部一部	体部は厚く、底部は薄い。輪が凹に内外面に掛かる。高台は厚く低い。ロクロ整形。	
3区H-13-11	3区H-13 №77	鉄製品 鉄線車 (前輪)	直径 6.0 厚さ 0.3	①鉄 ③灰黄褐色10YR6/2 ④完形	鉄製円盤に直径0.3cmの穿孔を施す。酸化が著しいが、微かに凸面と凹面が認められる。	H-16-4と一具の可能性あり。重さは28.76g。
3区H-13-12	3区H-13 №61	瓦 瓦丸	長さ[15.4] 幅 [15.1] 厚さ 2.0	①中粒(小礫含む)②良好(還元)③灰白2.5Y8/1④口縁部内湾	成形。凹面は角目正。凸面は跳目調整。産膜、指押え調整。狭・側面部は産膜調整。	円筒半截か？

諸物番号 出土位置	台帳番号	部類	質量	①出土 ②構成 ③色調 ④残存	器形の特徴、成・整形方法	備 考
3区H-13-13 甕	3区H-13 No.1	灰釉陶器 高台付埴	① 9.8 ② 4.8 ④ 3.0	①細粒(小磯含む) ②良好(還元) ③灰白10YR8/3④完形	体部は横を付け、外反する。口唇は肥厚し丸い。口縁外面と内面に僅かに輪がある。ロクロ整形。底面未切り痕は無さず。	内底面に輪がないため重ね輪さか?
3区H-13-14 甕	3区H-13 No.8	瓦 平瓦	長さ[23.0] 幅 26.7 厚さ 2.1	①中粒(砂粒・白色粒・小磯含む)②良好(還元) ③焼7.5YR7/6④1/2残	形成形。凹面は布目圧痕を露出させ、凸面は磨面調整。外面は刷毛目状工具や歯面押圧で粗く滑す。端部は反折り調整。	
3区H-13-15 甕	3区H-13 No.9	瓦 平瓦	長さ[48.7] 幅 [17.7] 厚さ 3.2	①中粒(砂粒・小磯含む) ②良好(還元) ③焼7.5YR7/6④1/4残	形成形。凹面は布目圧痕。凸面は刷毛目調整。外面は歯面調整。挟・側部部は反折り調整。	
3区H-13-16 甕	3区H-13 No.11,12	瓦 平瓦	長さ[31.3] 幅 [18.1] 厚さ 2.0	①中粒(砂粒・小磯含む)②良好(還元)③明焼灰7.5YR7/1④1/2残	形成形。凹面は布目圧痕。凸面は刷毛目調整。外面は反折り調整。挟・側部部は反折り調整。	
3区H-13-17 甕	3区H-13 No.5, 6, 10	瓦 平瓦	長さ[31.3] 幅 [18.1] 厚さ 2.0	①中粒(白色粒・小磯・砂粒含む)②良好(還元) ③灰 N5-6④ほぼ完形	形成形。凹面は布目圧痕を刷毛目状工具で粗く滑す。凸面と端部は反折り調整を施す。	
3区H-13-18 貯蔵穴	3区H-13 貯蔵穴No.2	瓦 平瓦	長さ[27.6] 幅 [22.5] 厚さ 3.0	①中粒(砂粒・小磯含む) ②良好(還元)③焼5YR6/6 ④挟・側部部残	形成形。凹面は布目圧痕が残る。凸面は板押し調整。挟・側部部は反折り調整を施す。	
3区H-13-19 割り方	3区H-13 割り方D2No.1	土師器 埴	① 10.0 ② 4.7 ④ 3.2	①細粒(砂粒含む) ②良好(還元) ③灰白10YR8/2④完形	手捏成形。体部は内筒筒味に伸び口唇は丸い。内外面に曲線調整。底面磨面調整。	黒煎がある。
3区H-13-20	3区H-13 一括	石製品 砥石	長さ[12.7] 幅 4.4-6.0 厚さ2.2-4.0	①洗灰岩 ②灰白2.5Y8/1 ④一面破損	不定形の直方体体を呈す。6面のうち5面に研ぎの痕跡がある。	重さは470g。
3区H-13-21	3区H-13 一括	須恵器 蓋	①[10.0] ④[1.7]	①細粒(白色粒含む) ②良好(還元)③灰 N5/ ④ほぼ完形	高面に盛りがあり、三角形の外側に丸み。口唇は薄く外側に丸み。一部は磨面調整。	
3区H-13-22	3区H-13 一括	鉄製品 鉄鏝	長さ [5.5] 刃部長さ 3.4 刃部幅 1.8 刃部厚 0.3 茎部長さ [2.0] 茎部幅 0.7 茎部厚 0.6	①鉄 ②焼7.5YR4/6・7.5YR5/8 ④刃部完形、茎部の一部	刃部は薄く縁平で端部が丸い。茎部は断面形が正方形に近い。	重さは18.49g。
3区H-13-23	3区H-13 一括	鉄製品 和釘?	長さ[14.4] 幅 1.2 厚さ 0.8	①鉄 ②焼灰③0YR6/2 ④不明	平面形は断面が大きく、端部が細い。断面はやや歪みのある方角。先端は刃部状になる。	釘で覆われ前後部自体は欠損していることによる。重さは57.13g。
3区H-15-1	3区H-15 No.1	須恵器 埴	① 8.8 ② 5.2 ④ 2.2	①細粒(砂粒・白色粒含む) ②良好(還元) ③洗灰焼7.5YR8/6④完形	体部は直線的に開き、口唇は外反し肥厚する。ロクロ整形。底面回転未切り。	
3区H-15-2	3区H-15 No.27	須恵器 埴	① 8.8 ② 5.0 ④ 2.1	①細粒(砂粒含む)②良好(還元)③洗灰2.5Y8/4 ④完形	体部は直線的に立ち上げる。口唇は丸い。ロクロ整形。底面回転未切り。	
3区H-15-3	3区H-15 No.15	土師器 羽釜	①[18.6] ④[8.8]	①中粒(白色粒・砂粒・小磯含む)②良好(還元) ③焼4.5YR5/4 ④口縁部破片	輪積み成形。体部は内筒し、指押入調整と反折り調整。口縁部と内面は磨面調整を施す。器部は外向きに二角状で、口唇は内筒筒味でやや角張る。	胴部に傷が付着する。
3区H-15-4	3区H-15 No.17	須恵器 高台付埴	①[14.0] ②[8.2] ④[6.0]	①細粒(砂粒含む) ②良好(還元) ③洗灰2.5Y7/3④1/2残	体部は内筒。口唇は丸く、外面に磨面調整。内面は黒色処理と磨面。口唇はロクロ整形。	内土黒土。器壁内面に沈線がある。
3区H-15-5	3区H-15 No.14	灰釉陶器 埴	①[14.0] ④[4.5]	①細粒②良好(還元) ③灰白7.5Y7/1 ④口縁部1/4残	体部は内筒し、口唇は丸く外反し灰釉を掛け掛けている。内面は輪が切縁状。ロクロ整形。	
3区H-16-1	3区H-16 No.3	須恵器 埴	① 9.3 ④[2.8]	①細粒(砂粒含む)②良好(還元)③焼7.5YR7/6 ④ほぼ完形	体部は内筒筒味に立ち上げる。外面に無調整を施す。ロクロ整形。底面回転未切り。	
3区H-16-2	3区H-16 No.2	須恵器 埴	① 8.8 ② 5.5 ④ 1.2	①細粒(砂粒・小磯含む) ②良好(還元)③明焼灰7.5YR5/6④ほぼ完形	体部は内筒筒味で口唇は丸い。外面は磨面調整を施す。ロクロ整形。底面回転未切り。	内底面中央を窪ませ縦線状の調整がある。
3区H-16-3	3区H-16 No.1	須恵器 埴	①[8.7] ②[5.0] ④[2.0]	①細粒(砂粒含む)②良好(還元)③明焼10YR5/1④1/4残	体部は内筒し、口唇は丸く外反する。ロクロ整形。底面回転未切り。	外底面は黒く、口縁付近は両面白色に塗料。器体は白い。
3区H-16-4	3区H-16 No.1	鉄製品 紡錘車(紡車)	長さ9.2 厚さ0.2-0.3	①鉄 ②焼灰10YR6/1 ④完形?	磨面が著しく判然としないが、断面形が正方形に近い。両端は一方が大きくもう一方が細い。	H-13-11と一具の可能性がある。重さ147.08g。
3区H-17-1 甕	3区H-17 No.1	須恵器 埴	① 7.8 ② 4.7 ④ 2.0	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元) ③洗灰2.5Y7/3④完形	体部は直線的に開き、口唇は肥厚し丸い。外底面に無調整。ロクロ整形。底面回転未切り。	傷が付着する。内底面は突起状に盛り上がる。
3区H-17-2 甕	3区H-17 No.2	須恵器 埴	① 9.2 ② 5.9 ④ 1.4	①細粒(砂粒・小磯含む) ②良好(還元) ③焼2.5YR8/6④1/2残	体部は外反し、口唇は丸く、外面に磨面調整が見られる。ロクロ整形。底面回転未切り。	内底面に輪状の沈線がある。
3区W-1-1	3区W-1 No.3	須恵器 埴	① 8.4 ② 4.6 ④ 2.2	①細粒②良好(還元) ③焼7.5YR6/6④ほぼ完形	体部は外反直線的に開き、口唇が丸い。外面は磨面調整。ロクロ整形。底面回転未切り。	内底面中央は縦線状に無調整で突起状を呈す。

諸物番号 出入口位置	台帳番号	部材	流量	①粘土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴、成・整形方法	備 考
3区W-1-2	3区W-1 一括2点	須恵器 坏	①(15.4) ②(6.6) ③ 4.9 ④ 5.0	①細粒②良好(酸化) ③焼5YR6/8④口縁部から 底部の一部	体部は外反し、腹部下部で横を 作り内湾、口唇は外反し丸い。 ロクロ整形。底部回転未切り。	
3区W-1-3	3区W-1 一括	須恵器 坏	①(15.1) ②(7.3) ③ 4.9	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③焼5YR6/8 ④1/2残	体部は内湾し、口唇は外反し尖る。 外面に縦溝で調整。ロクロ 整形。底部回転未切り。	内面に段が多い。
3区W-1-4	3区W-1 一括2点	須恵器 坏	①(14.7) ②(6.8) ③ 4.1	①細粒(白色粒含む)②良好 (酸化)③黄粒10YR6/6 ④1/2残	体部は内湾し、口唇は外反し丸い。 内面に段が多い。ロクロ整形。 底部回転未切り。	内底部中央は窪む。
3区W-1-5	3区W-1 一括	須恵器 坏	① 8.8 ② 5.8 ③ 1.9 ④ 2.1	①細粒(白色粒含む)②良好 (酸化)③洗成2.5YR7/3 ④口縁部一部欠損	体部は内湾し、口唇は外反する。 外面に縦溝を付ける。ロクロ 整形。底部回転未切り。	内底部中央は窪む。
3区W-1-6	3区W-1 一括	須恵器 坏	① 8.0 ② 3.6 ③ 2.0 ④ 1.9	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③焼7.5YR6/6 ④ほぼ完形	体部は外反湾内湾し、口唇は尖る。 外面に縦溝で調整を施す。 ロクロ整形。底部回転未切り。	
3区D-3-1	3区D-3 一括	須恵器 坏	①(9.8) ②(6.1) ③ 4.9	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化)③洗黄粒7.5 YR6/3④1/2残	体部は外反し、口唇は尖り気味 で薄い。ロクロ整形。底部回転 未切り。	内底部中央は窪む。
3区D-10-1	3区D-10 No.1	須恵器 坏	① 9.0 ② 4.4 ③ 2.1	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化) ③洗成2.5YR7/3④完形	体部は内湾し、口唇は尖り気味。 ロクロ整形。底部回転未切り。	内底部中央は僅かに窪む。
3区D-11-1	3区D-11 No.1	須恵器 坏	① 14.4 ② 6.2 ③ 4.6	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化) ③洗成2.5YR7/3④1/2残	体部は緩やかに内湾し、口縁部 は内湾で外反し口唇は丸い。ロ クロ整形。底部未切り。	
3区I-1-1	3区I-1 一括	埴輪 馬形埴輪 胴部?	①(12.6) ②(10.9)	①中粒(砂粒・白色粒・小礫 含む)②良好(酸化) ③焼5YR7/6 ④脚状部残?	底部は約7cmの高土部を粘土 板鬥化技法で成形か?内面を 刷毛目状工具で撫で、外面は 内面を指押入して刷毛目状工具で 撫で整形。	付近に古墳は確認できない。 馬形埴輪の胴部か?円筒状埴 輪の底部で歪む。
3区I-1-2	3区I-1 一括	須恵器 皿	①(8.8) ②(7.3) ③ 1.0 ④ 1.2	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③焼7.5YR7/6 ④1/2残	体部は直線的で薄い。口唇は尖る。 裏面調整を施す。ロクロ 整形。底部未切り。	
3区I-1-3	3区I-1 一括	須恵器 羽釜	①(21.1) ②(4.1)	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい焼 7.5YR5/3④口縁部破片	口縁部は直立的に立ち上がる。 比較的短い。口唇は内湾して角 鋭い。胴部は上向きで尖る。 ロクロ整形。	
3区I-2-1	3区I-2 No.10	土師器 羽釜	①(23.4) ②(12.8)	①体部(砂粒・白色粒・小礫 含む)②良好(酸化)③無灰5 YR2/1④口縁部から胴部 全欠	輪桶み成形。体部は内湾、口縁 部は直立的で長い。口唇は外傾 し長い。胴部は向きで尖る。 体部は撫で調整や指押入調整。	
3区I-2-2	3区I-2 No.11	土師器 羽釜	①(12.4) ②(5.1)	①体部(白色粒・砂粒小礫含 む)②良好(酸化)③焼灰5 YR4/1④口縁部破片	体部は内湾し、口唇は尖り内傾。 胴部は上向きで尖る。口縁部、 胴部は撫で調整、体部は指押入 調整や指押入調整を施す。	
3区 X251-252、 Y180-181 グリッド-1	3区 X251-252、 Y180-181 グリッド一括	土師器 坏	①(10.2) ②(3.5)	①細粒②良好(酸化) ③焼2.5YR6/8④1/6残	体部は内湾し、口唇は外反する。 体部は撫用り調整。口唇部は撫 調整後撫で調整を施す。内面は 撫で調整を施す。	
3区 X251-252、 Y180-181 グリッド-2	3区 X251-252、 Y180-181 グリッド一括	須恵器 高台付埴 輪	② 8.0 ③(4.7)	①細粒(小礫・白色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい焼 7.5YR6/4④口縁部欠損。 体部、底部3/4残	体部は内湾気味に立ち上げる。 高台は高く「ハ」の字状に傾き、 脚壁が薄い。	内底部中央は窪く窪む。
4区W-1-1	4区W-1(西) 一括	土師器 罌	②(22.5) ③(4.2)	①中粒(白色粒含む)②良好 (酸化)③にぶい焼7.5YR5/3 ④口縁部破片	胴部は「コ」の字状をし、段 が明確である。口縁部は外反し 開く。口唇は肥厚して丸める。	「コ」の字状口縁部から胴 部。僅か付着する。
4区W-1-2	4区W-1(西) 一括	かわかけ 坏	①(12.8) ②(6.0) ③ 4.4	①細粒(白色粒含む)②良好 (酸化)③洗成2.5YR7/4 ④口縁部1/4体部3/4残	体部は内湾し、胴部は薄く、底 部は厚い。未切り位置が高い。	保が付着する。
4区W-1-3	4区W-1(西) 一括	陶器? 皿	①(21.9) ②(18.6) ③(2.8) ④(10.7)	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元)③灰白10 YR8/2④口縁部から胴部 の一部	体部は内湾させて立ち上げ、口 唇は内湾させて、外側へ尖る。 大きな調整部。ロクロ成形。	
4区W-1-4	4区W-1(西) 一括	軟質陶器 罌	② 6.6 ③(13.9) ④(9.8)	①中粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化)③灰白12.5 YR8/2④底部完形	体部は斜めに関り胴部で直立。 外面は指調整、撫で調整。内 面は指押入調整、撫で調整。	
4区W-2-1	4区W-2(西) 一括	軟質陶器 壺形	①(29.3) ②(25.9) ③ 2.8 ④ 5.6	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元)③焼7.5YR2/1 ④口縁部から底部の一部	体部はやや内湾して立ち上げる。 口唇は内湾し外側へ尖る。 全体に撫で調整を施す。	内耳は未検出。保が付着する。
4区W-2-2	4区W-2(西) 一括	軟質陶器 水鉢?	①(20.6) ②(21.1) ③(10.6)	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(酸化)③灰白10 YR8/2④口縁部から胴部 の一部	体部は内湾し、口唇は並「J」字 状。内面と外面部より上は横 で調整。胴部は撫用り調整。胴 部は円筒方形形を作る。	黒點がある。口唇に突起が丁字 状に生ずる。
4区W-2-3	4区W-2(西) 一括	陶器 中壺	①(11.6) ②(5.0) ③ 2.0	①細粒②良好③オリーブ灰 10YR6/5④口縁部から底 部の一部	体部は内湾させて立ち上げ気味 に立ち上げ、口唇は肥厚して丸 まり気味。高台は直立し短い。	瀬戸焼(赤石門部)の出土品 に似た器形。外面に黒點がある。 貫孔が入る。
4区W-2-4	4区W-2(西) 一括	陶器 徳利	① 7.6 ② 7.4 ③(19.6) 胴部径2.6	①細粒(砂粒含む)②良好 ③オリーブ灰5GY7/1 ④底部欠損	ロクロ成形。体部は直立。胴部 は内湾し、口縁部で外反する。 口唇は肥厚し丸い。	黒青色の硬変状態が口縁部から 胴部に掛かる。

遺物番号 出土位置	台帳番号	器種	量	①胎土 ②構成 ③色調 ④残存	器形の特徴、成・整形方法	備 考
4 KW-3-1	4 KW-3(東) 一括	かわらけ 坏	① 10.6 ② 6.1 ③ 3.4	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③成黄7.5YR8/4 ④口縁部から底部の一部欠損	体部は外反し、調整により段状を呈す。口縁は丸い。内面は内湾気味で直線的に開く。	
4 KW-3-2	4 KW-3(東) 一括	石製品 石臼 (上臼)	径 [01.2] 高さ [15.0] ふくみ高 [2.8] くぼみ径 [24.5] くぼみ高 [3.5] 上縁幅 3.4 芯穴径 (4.0) 供給口径 (4.0)	①粗粒安山岩 ②青灰SP/B5/1 ③L/2塊	直径約1尺の筒状で、盛り合わせの面は3回り5分間の焼き目で6条1単位が確認できるが、供給口付近では芯穴に対し放射状になり異なる。くぼみは丸みを付けて直立気味に立ち上がる。	焼き手穴は未検出。重きは7900g。
5 KW-1-1	5 KW-1(東) 一括	かわらけ 坏	① 8.0 ② 4.7 ③ 1.9	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③成2.5YR8/3 ④口縁部L/3、底部3/4残	体部は底部から丸みを持って立ち上げる。口縁は丸みを付ける。外面に覆削り調整がある。ロケロ整形。底部回転未切り。	
5 KW-1-2	5 KW-1(東) 一括	軟質陶器 内耳土鍋	①(27.8) ④(12.0)	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元)③成 N6/ ④口縁部①/2残	輪積成形。体部は直立。口縁部は内湾。胴部は覆削り調整。内面と口縁部は敷で調整。	外側全体に煤が付着する。胴部に沈殿がある。口縁部と胴部の境の段が明瞭。
5 KW-1-3	5 KW-1(東) 一括	石製品 硯	長さ[9.7] 幅 6.7 高さ 3.0	①粘板状(暗青灰SB4/1) ④黒色。同の下部半分。粗粒一部	硯面は長方形である。磨面は「V」字状に削り込み、粗粒は同が強く感じ。	重きは240g。
5 KW-1-4	5 KW-1(東) 一括	石製品 灰磚	長さ[34.1] 幅 [21.1] 厚さ [2.8]	①緑泥片岩 ③緑灰10G6/1 ④部位不明破片	紙文等なし。今回の出土資料中では大型の破片。胴内へ空塔破片などと共に集積されていた。	重き2700g。今回4.5調査区で合計6点の灰磚が出土。全て破片で厚み1cm-3cm。
5 KW-1-5	5 KW-1(東) 一括	石製品 灰磚	長さ[16.0] 幅 [10.5] 厚さ	①緑泥片岩 ③明青灰3KG4/1 ④破片	阿努陀三尊像の「ナ」観音菩薩の一部かと思われるが、削りが強く詳細不明。	拓本のみ提示。重きは1980g。
5 KW-2-1	5 KW-2(西) 一括	かわらけ 坏	①(10.6) ②(7.1) ③ 3.6	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③成黄2.5YR8/3 ④L/2残	体部は直線的に開く。口縁は外反し厚。内面は調整で調整。ロケロ整形。底部回転未切り。	
5 KW-2-2	5 KW-2(西) 一括	かわらけ 坏	①(11.8) ② 7.6 ③ 2.7	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化) ③成2.5YR6/6 ④口縁部L/3、底部3/5残	体部は直線的に開く。僅かに段を付け、口縁部を各向きに口縁は丸い。ロケロ整形。底部回転未切り。	内底面中央が窪む。
5 KW-2-3	5 KW-2(西) 一括	かわらけ 坏	① 10.6 ② 5.6 ③ 3.3	①細粒(砂粒・小礫・白色粒含む)②良好(酸化) ③ 鈍い粉7.5YR7/3(4)/2塊	体部は直線的に開く。口縁は丸い。ロケロ整形。底部回転未切り後、蓋状工具を挿入して起こす。	内底面は中央が窪み椀状に強く窪む。
5 KW-2-4	5 KW-2(西) 一括	灰釉陶器 高台付皿	①(12.0) ②(7.0) ③ 2.4	①細粒②良好(還元) ③オリーブ黄7.5Y6/3 ④L/2残	体部は内湾し、口縁で外反し薄。黄緑色を呈す。貫乳が全体に入る。ロケロ整形。	瀬戸焼(吉田型)の出土品に似た器形。内底面に菊花文の遺りがある。
5 KW-2-5	5 KW-2(西) 一括	瓦 枕瓦	長さ[11.2] 幅 [11.0] 厚さ [1.7]	①細粒(砂粒・白色粒含む) ②良好(酸化) ③成2.5YR6/6④小破片	壱形。短冊で調整。蓋削り調整。切り込み部の破片と思われる。	
5 KW-2-6	5 KW-2(西) 一括	石製品 石臼 (上臼)	径 [00.0] 高さ [10.7] ふくみ高 [1.2] くぼみ径 [23.0] くぼみ高 [5.1] 上縁幅 3.0 芯穴径 4.5 供給口径4.0	①粗粒安山岩 ②青灰SP/B5/1 ③L/2塊	直径約1尺の筒状。盛り合わせの面は焼き目が検出。くぼみは立ち上がり、丸みを付けて直立気味の部分と、やや角張って鈍い部分がある。全体に摩耗が著しい。	焼き手穴は未検出。重きは4200g。
5 KW-2-7	5 KW-2(西) 一括	軟質陶器 内耳土鍋	①(28.4) ④(12.6)	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元)③成K5/ ④口縁部一部	輪積成形。体部は直立。口縁部は内湾。胴部は覆削り調整。口縁部と内面は敷で調整。	外側全体に煤が付着する。口縁部と胴部の境の段が明瞭。

任意の範囲内出土は「籠」、盛り方出土は「盛り方」、貯藏穴内出土は「貯藏穴」、ビント内出土は「P番号」と記載した。

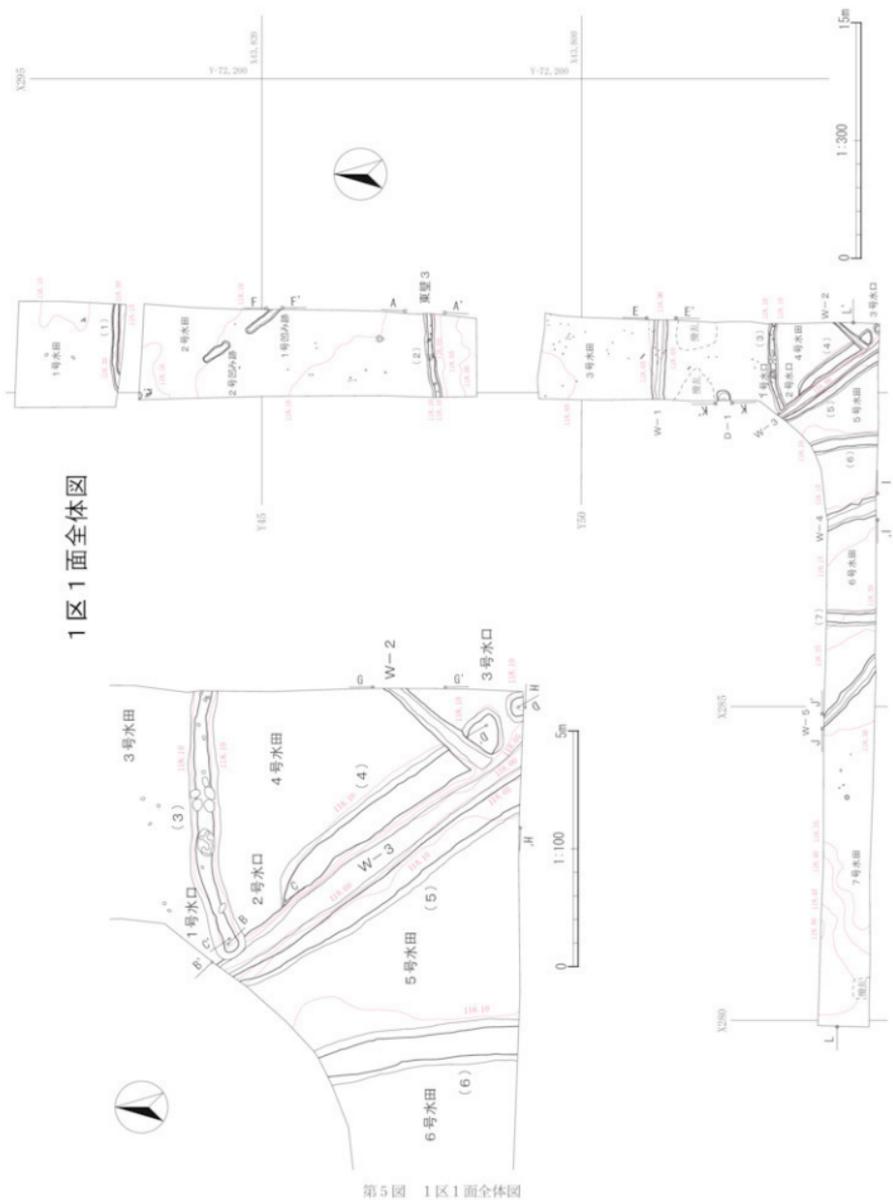
台帳番号は調査時の付番で、遺物の台帳番号と一致する。

胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0-1.9mm)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な鉱物がある場合には鉱物名等に記載した。

焼成は、極良、良好、不良の3段階とした。

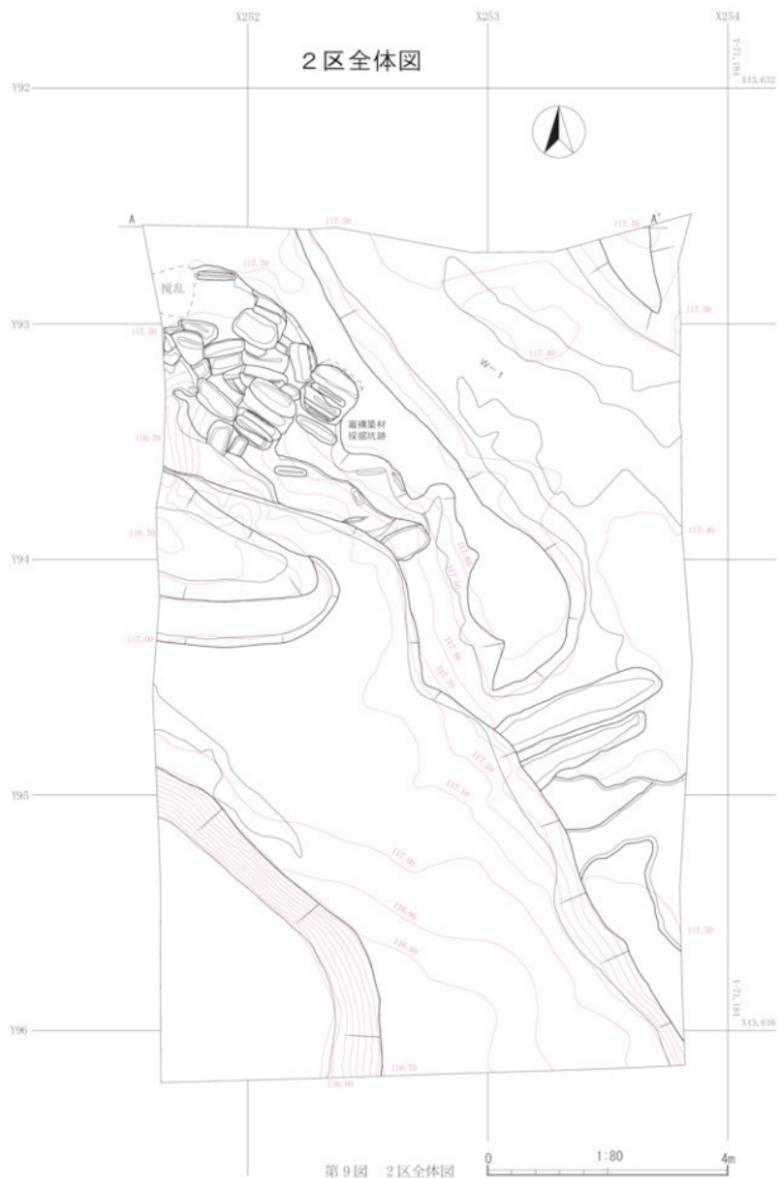
色調は外面で観察し、色名は「新設標準土色録」(農林水産省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人日本色研研究所 色票第2000)によった。

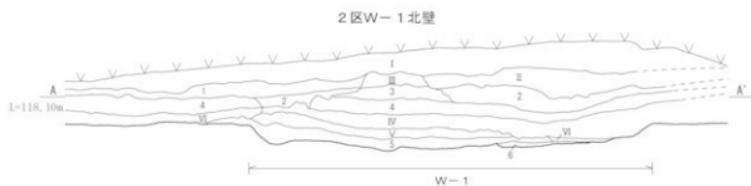
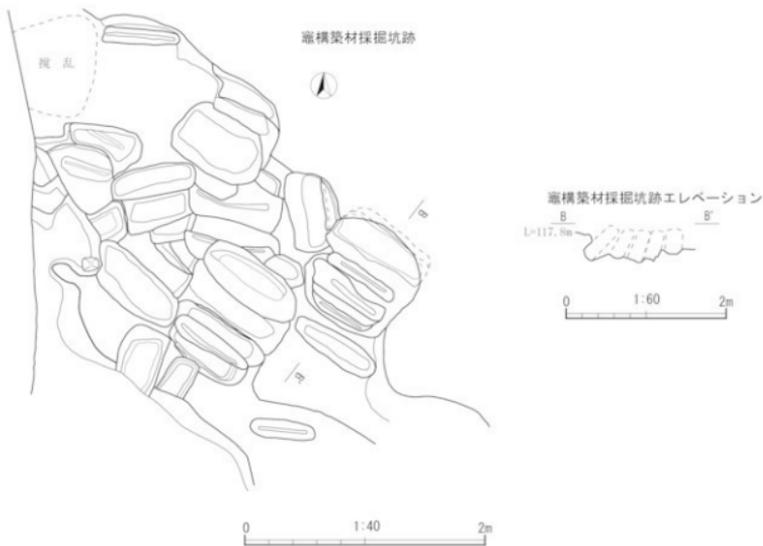
1区1面全体图



第5图 1区1面全体图







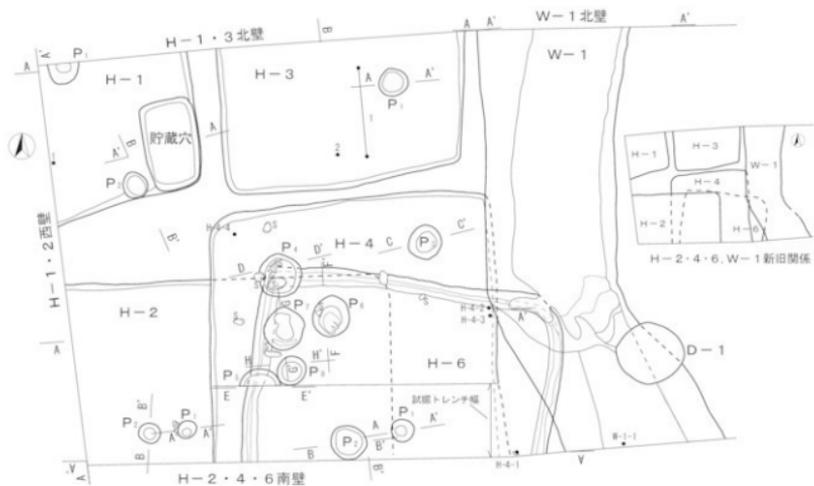
- 2区W-1北壁セクション土層目録 (A-A')
- 1 灰黄褐色土100R4.2粘性、締まりややあり、細砂と軽石粒をわずかに含む。
 - 2 同上(灰褐色土100R5.3粘性、締まりややあり、黒砂を多く含む。
 - 3 層より締まりあり。
 - 4 同上(灰褐色土100R5.2粘性、締まりややあり、As-軽石を含む。
 - 5 灰黄褐色土100R3.2粘性、締まりあり、砂層ブロックを含む。
 - 6 砂層層 砂と小礫1~3cmを含む。



第10図 2区竈構築材採掘坑跡、W-1号溝跡実測図



第11图 3区全体图



3区H-1・3北壁、H-1・2西壁セクション土層注記(A-A')

- 1 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりあり。H-1軒石 (4.2mm~5mm) を1%と細砂を含む。に灰黄褐色砂質土ブロックを含む。(図-2層上)
- 2 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。細砂、明黄褐色砂質土ブロックを含む。
- 3 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。灰化物と明黄褐色砂質土ブロックを含む。
- 4 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。明黄褐色砂質土ブロックを含む。
- 5 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。明黄褐色砂質土と細砂を含む。
- 6 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。明黄褐色砂質土ブロックと細砂を含む。
- 7 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりあり。H-1軒石 (4.2mm~5mm) を2%と細砂を含む。
- 8 明黄褐色砂質土。
- 9 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。H-1軒石 (4.2mm~5mm) を1%と細砂を含む。
- 10 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。9層よりH-1軒石が多く。細砂、明黄褐色砂質土ブロックを含む。
- 11 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりあり。H-1軒石 (4.2mm~5mm) を1%と灰化物、細砂を含む。
- 12 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりあり。明黄褐色砂質土を含む。
- 13 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。細砂、軒石、明黄褐色砂質土を含む。
- 14 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。細砂、明黄褐色砂質土ブロックを含む。
- 15 明黄褐色砂質土(地山)
- 16 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。に灰黄褐色土を含む。(図-1F1)

3区H-1貯蔵穴セクション土層注記(A-A')

- 1 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まりなし。灰化物を多く含む。に灰黄褐色砂質土ブロックを含む。

3区H-1P₁セクション土層注記(B-B')

- 1 灰黄褐色土10R4/2粘性。締まりなし。細砂を多く含む。

3区H-2P₁セクション土層注記(A-A')

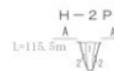
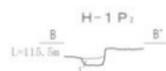
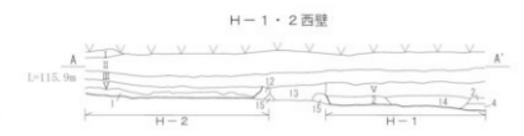
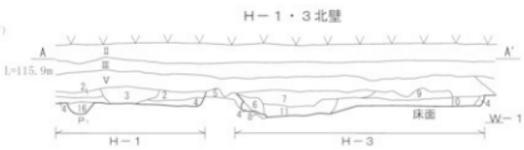
- 1 灰黄褐色土10R5/2粘性。締まり中であり。に灰黄褐色土を多く含む。
- 2 灰黄褐色土10R4/2粘性。締まりややあり。に灰黄褐色土ブロックをわずら含む。

3区H-2P₂セクション土層注記(B-B')

- 1 灰黄褐色土10R4/2粘性。締まりややあり。白色軽石を含む。
- 2 灰黄褐色土10R4/2粘性。締まりややあり。白色軽石に灰黄褐色砂質土ブロックを含む。

3区H-3P₁セクション土層注記(A-A')

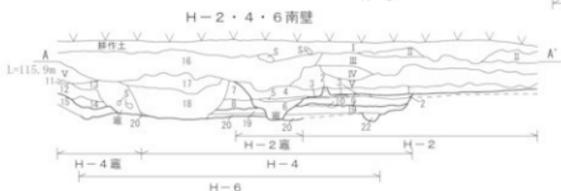
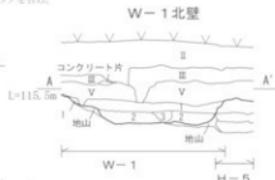
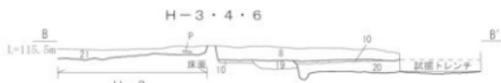
- 1 灰黄褐色土10R4/2粘性。締まりあり。細砂と軽石を含む。に灰黄褐色土を含む。



第12図 3区H-1~4・6号住居跡、W-1号溝跡表測図

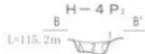
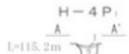
3区W-1北壁セクション土層注記(3-A')

- 1 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりなし。As-砂礫石と軽石 (φ2mm~3mm) を1%と小礫を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりなし。As-砂礫石と軽石 (φ2mm~3mm) を1%と多い黄褐色砂質土ブロックを含む。
- 3 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりなし。As-軽石と小礫。を含む。

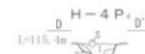
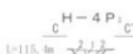


3区H-2・4・6南壁(3-A'), H-3・4・6南壁セクション土層注記(3-B')

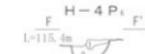
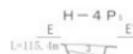
- 1 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりあり。H-砂礫石 (φ2mm~3mm) を1%とAs-軽石、に多い黄褐色砂質土ブロックを含む。(H-2層)
- 2 に多い黄褐色砂質土。(H-2層)
- 3 炭化物層。(H-2層)
- 4 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりあり。炭化物を多く含む。軽石を含む。(H-2層)
- 5 炭化物層。灰黄褐色土10YR4/2ブロックを含む。(H-2層)
- 6 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりあり。炭化物ブロック。に多い黄褐色砂質土ブロックを含む。(H-2層)
- 7 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりあり。H-砂礫石 (φ2mm~3mm) を1%と炭化物、に多い黄褐色砂質土ブロックを含む。
- 8 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりあり。軽石。に多い黄褐色砂質土ブロックとわずかに炭化物を含む。(H-4層)
- 9 に多い黄褐色砂質土。明黄褐色土砂質土ブロックを含む。(H-4)
- 10 明黄褐色土砂質土。(H-4層)
- 11 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりやや中あり。堆土。炭化物。軽石を含む。(H-4層)
- 12 に多い黄褐色砂質土。堆土。炭化物を含む。(H-4層)
- 13 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりあり。炭化物ブロック。に多い黄褐色砂質土ブロック。軽石を含む。(土層、砂質ブロック含む。H-4層)
- 14 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりやや中あり。に多い黄褐色土砂質土を含む。堆土。炭化物を含む。(H-4層)
- 15 明黄褐色土砂質土。
- 16 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりあり。H-軽石を含む。小礫。堆土ブロックとわずかに含む。
- 17 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりあり。堆土ブロック。炭化物を含む。
- 18 灰黄褐色土10YR5/2粘石粒。に多い黄褐色砂質土ブロックを含む。
- 19 に多い黄褐色土。明黄褐色土砂質土ブロックを含む。
- 20 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりあり。に多い黄褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 21 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりあり。H-砂礫石 (φ2mm~3mm) を1%と炭化物。細砂を含む。(H-3)
- 22 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりなし。に多い黄褐色土ブロックを多く含む。



- 3区H-4 Pセクション土層注記(3-A')
- 1 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりやや中あり。に多い黄褐色土ブロックを含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりやや中あり。に多い黄褐色土を含む。



- 3区H-4 Pセクション土層注記(3-B')
- 1 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりやや中あり。に多い黄褐色土ブロックとわずかに含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりやや中あり。に多い黄褐色土と明黄褐色土砂質土ブロックを含む。
- 3区H-4 P~Pセクション土層注記(3-C'~3-E')
- 1 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりやや中あり。砂礫石 (φ1mm~2mm) を1%とに多い黄褐色土を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりやや中あり。砂礫石 (φ1mm~2mm) を1%とに多い黄褐色土ブロックを含む。
 - 3 黄褐色土層。わずかに。に多い黄褐色土砂質土ブロックを含む。
 - 4 黄褐色土層とに多い黄褐色土の混土層。



- 3区H-4 Pセクション土層注記(3-F')
- 1 に多い黄褐色土10YR5/2粘性。締まりあり。細砂とわずかに炭化物を含む。
 - 2 炭化物とに多い黄褐色土の混土層。

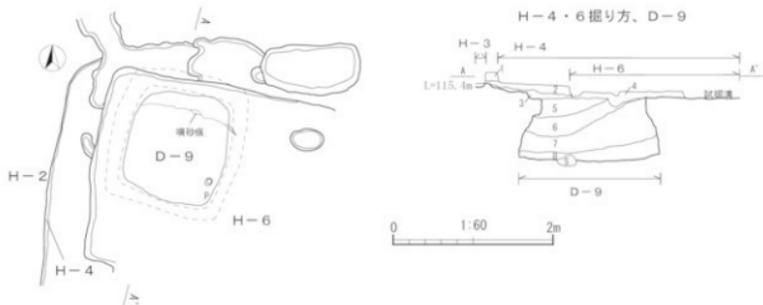


- 3区H-4 Pセクション土層注記(3-G')
- 1 に多い黄褐色土10YR5/2粘性やや中あり。締まりあり。細砂。軽石を含む。
 - 2 に多い黄褐色土10YR5/2粘性。締まりやや中あり。に多い黄褐色土砂質土ブロックを含む。
 - 3 に多い黄褐色土10YR5/2粘性。締まりやや中あり。細砂。炭化物。小礫を含む。

- 3区H-4 Pセクション土層注記(3-H')
- 1 に多い黄褐色土10YR5/2粘性。締まりなし。に多い黄褐色砂質土ブロックと小礫を多く含む。

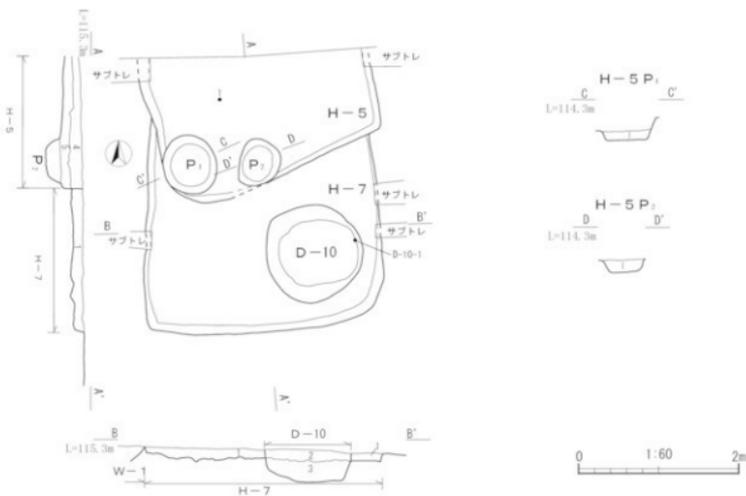


第13図 3区H-2~4・6号住居跡、W-1号跡跡表測図



3区H-4・6掘り方、3区D-9セクション土層図記(A-A')

- 1 灰黄褐色土10YR5-2粘性なく、締まりあり、細砂、軽石を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4-2粘性、締まりややあり、軽石と共に灰黄褐色砂質土ブロックを含む。(D-4)
- 3 灰黄褐色土10YR4-2粘性、締まりややあり、に灰黄褐色砂質土ブロックを多く含む。(D-4)
- 4 灰黄褐色土10YR4-2粘性、締まりややあり、に灰黄褐色砂質土ブロックを多く含む。(D-6)
- 5 に灰黄褐色土10YR5-4粘性なく、締まりややあり、に灰黄褐色砂質土ブロック、小礫を含む。(D-9)
- 6 に灰黄褐色土10YR5-4粘性なく、締まりややあり、に灰黄褐色砂質土ブロック、小礫、炭化物をわずかに含む。(D-9)
- 7 に灰黄褐色土10YR5-4粘性、締まりなし、に灰黄褐色砂質土ブロックを含む。(D-9)
- 8 に灰黄褐色土10YR5-4粘性、締まりなし、灰褐色土粘質土ブロックをわずかに含む。(D-9)



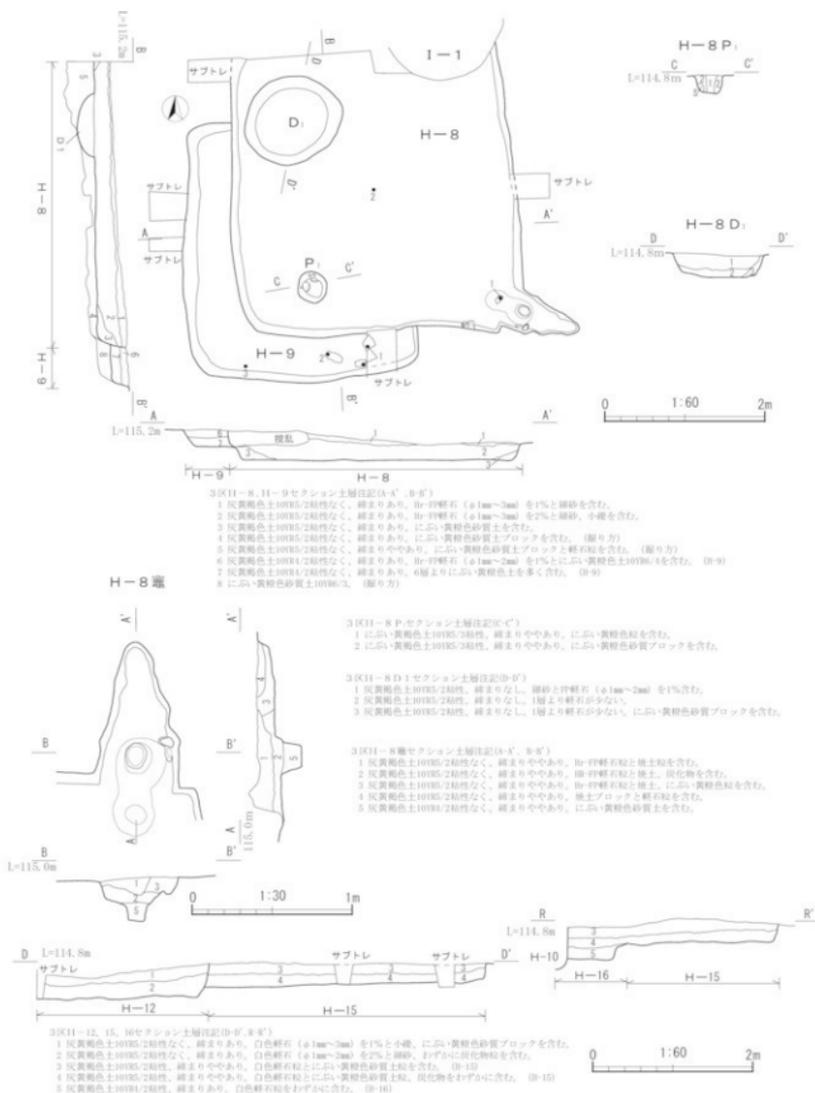
3区H-5、H-7、D-10セクション土層図記(A-A', B-B')

- 1 灰黄褐色土10YR4-2粘性、締まりややあり、軽石(φ2mm~3mm)を1%と共に灰黄褐色土ブロック、炭化物を含む。(D-7)
- 2 に灰黄褐色土10YR5-4粘性、締まりややあり、炭化物、に灰黄褐色土を含む。(D-10)
- 3 に灰黄褐色土10YR5-4粘性、締まりややあり、炭化物と小礫をわずかに含む。(D-10)
- 4 灰黄褐色土10YR5-2粘性なく、締まりあり、白色軽石と炭化物、小礫を含む。(D-10)
- 5 灰黄褐色土10YR5-2粘性なく、締まりあり、軽石より炭化物が多い。(D-10)

3区H-5、Pセクション土層図記(C-C', D-D')

- 1 灰黄褐色土10YR4-2粘性なく、締まりややあり、細砂、軽石(φ1mm~2mm)を1%と共に灰黄褐色砂質土ブロックを含む。

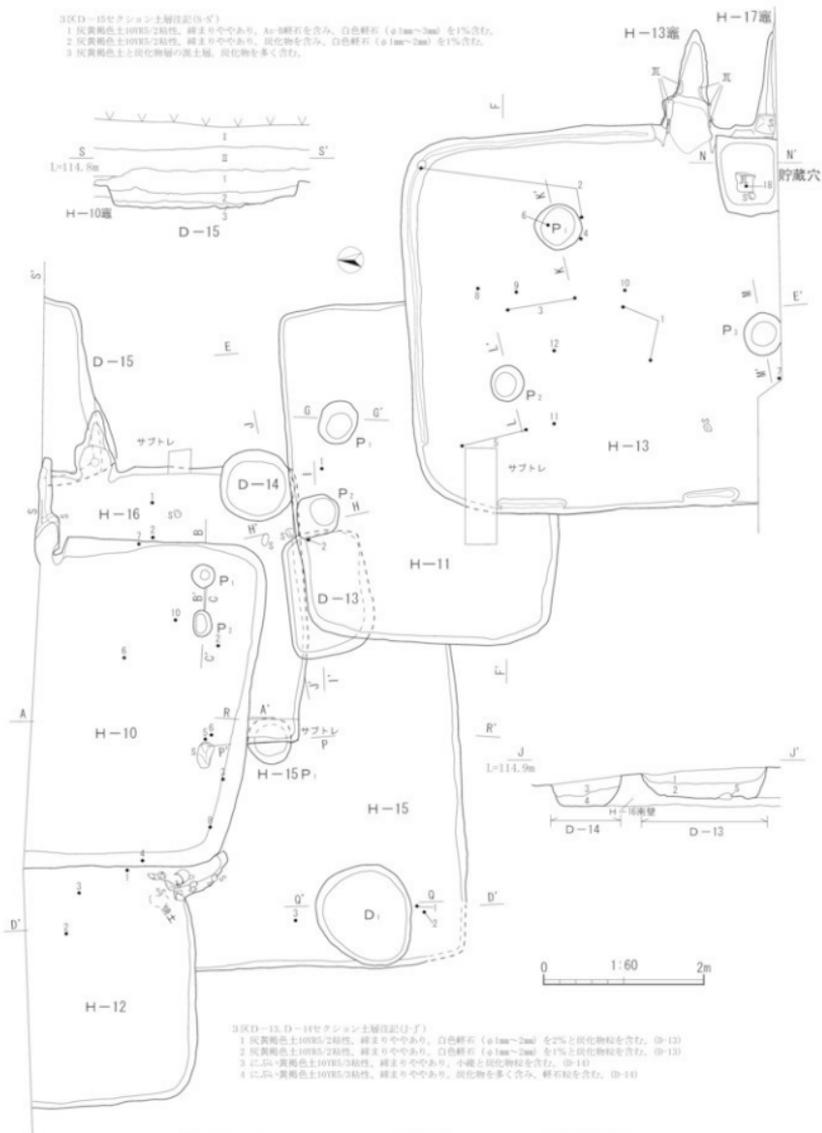
第14図 3区H-4~7号住居跡、D-9・10号土坑実測図



第15図 3区H-8~10・12・15・16号住居跡実測図

3区D-13セクション土層図(5-5')

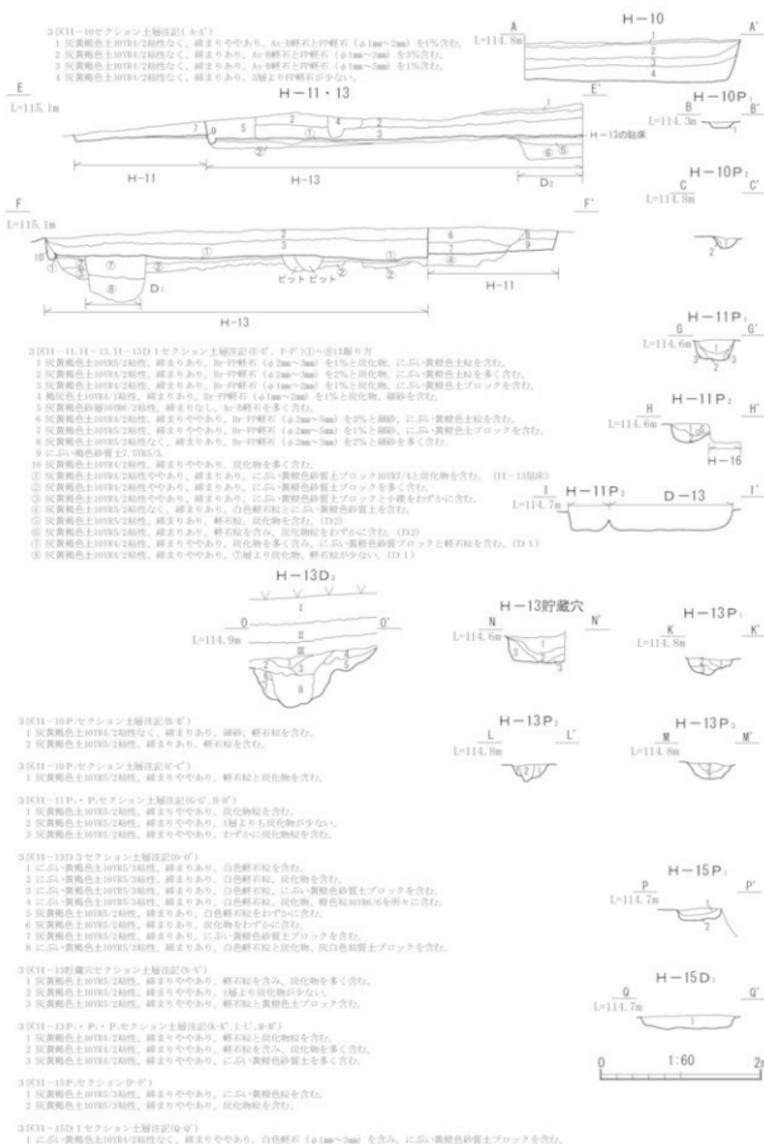
- 1 灰黄褐色土10R5/2粘性、締まりややあり、白色軽石(φ1mm~2mm)を1%含む。
- 2 灰黄褐色土10R5/2粘性、締まりややあり、炭化物を含む、白色軽石(φ1mm~2mm)を1%含む。
- 3 灰黄褐色土と炭化物層の混土層、炭化物を多く含む。



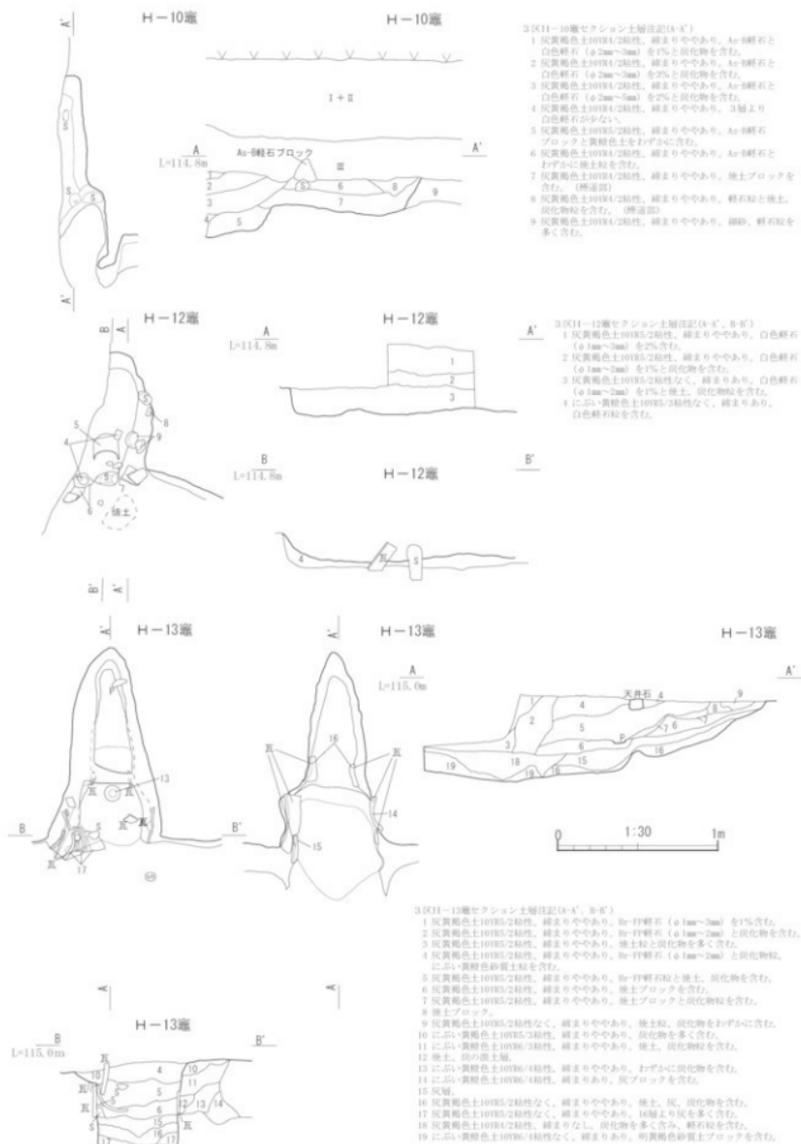
3区D-13, D-14セクション土層図(1-1')

- 1 灰黄褐色土10R5/2粘性、締まりややあり、白色軽石(φ1mm~2mm)を2%と炭化物を含む。(D-13)
- 2 灰黄褐色土10R5/2粘性、締まりややあり、白色軽石(φ1mm~2mm)を1%と炭化物を含む。(D-13)
- 3 2.5:1-黄褐色土10R5/3粘性、締まりややあり、小礫と炭化物を含む。(D-13)
- 4 2.5:1-黄褐色土10R5/3粘性、締まりややあり、炭化物を多く含む、軽石を含む。(D-13)

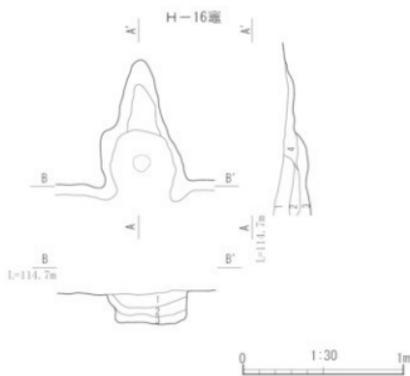
第16図 3区H-10~13・15~17号住居跡、D-13~15号土坑実測図



第17図 3区H-10・11・13・15号住居跡、D-13号土坑実測図

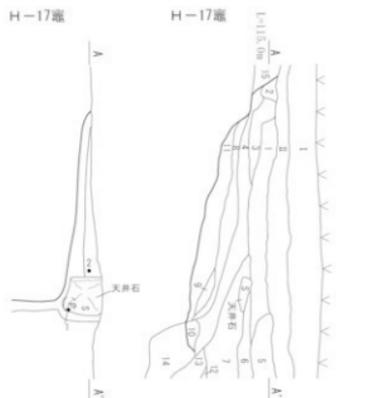


第18図 3区H-10・12・13号住居跡電測図



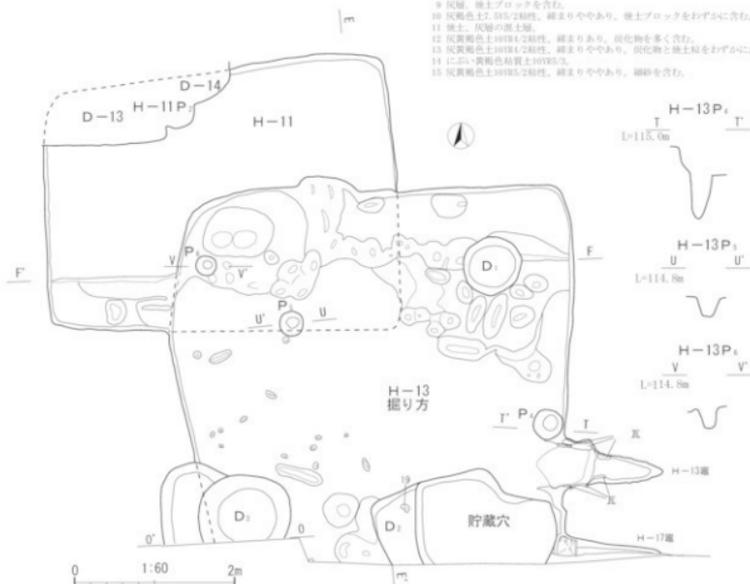
3区H-16断セクション土層図記(A-A', B-B')

- 1 灰黄褐色土100R5-2粘性ややあり、締まりあり、白色軽石(φ2mm~3mm)を1%と炭化物粒を含む。
- 2 灰黄褐色土100R5-2粘性ややあり、締まりあり、炭化物、焼土粒をわずかに含む。
- 3 灰黄褐色土100R5-2粘性ややあり、締まりあり、炭化物をわずかに含む。
- 4 灰黄褐色土100R5-2粘性ややあり、締まりあり、炭化物を多く含む、焼土粒を含む。

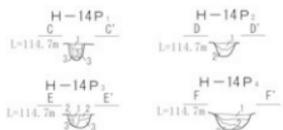
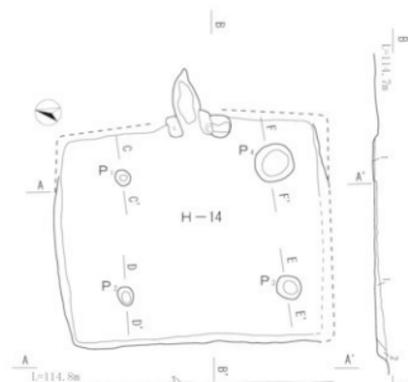


3区H-17断セクション土層図記(A-A')

- 1 灰黄褐色土100R5-2粘性、締まりややあり、炭化物、焼土粒を含む。
- 2 灰黄褐色土100R5-2粘性、締まりあり、炭を含む。
- 3 灰黄褐色土100R5-2粘性、締まりややあり、焼土、炭化物粒と焼石を含む。
- 4 灰黄褐色土100R5-2粘性、締まりややあり、焼土、炭化物土灰を含む。
- 5 灰黄褐色土100R5-2粘性、締まりややあり、細砂を含む、焼土粒をわずかに含む。
- 6 灰黄褐色土100R5-2粘性、締まりややあり、焼土粒が多く、炭化物粒をわずかに含む。
- 7 灰黄褐色土100R5-2粘性、締まりややあり、軽石粒、炭化物、焼土粒、にぶい黄褐色粒を含む。
- 8 にぶい黄褐色土517-3。
- 9 細砂、焼土ブロックを含む。
- 10 灰褐色土2, 335-2粘性、締まりややあり、焼土ブロックをわずかに含む。
- 11 焼土、灰層の厚土層。
- 12 灰黄褐色土100R4-2粘性、締まりあり、炭化物を多く含む。
- 13 灰黄褐色土100R4-2粘性、締まりややあり、炭化物と焼土粒をわずかに含む。
- 14 にぶい黄褐色粘質土100R5-3。
- 15 灰黄褐色土100R5-2粘性、締まりややあり、細砂を含む。



第19図 3区H-11・13・16・17号住居跡実測図



3区H-14P.セクション土層記述(定C)

- 1 濃い黄褐色土10R8(2)粘性、締まりややあり、にがい-褐色粒を含む。
- 2 濃い黄褐色土10R8(3)粘性、締まりややあり、1層より濃い-褐色土を多く含む。
- 3 濃い黄褐色土10R8(4)粘性、締まりややあり、炭化物をわずかに含む。

3区H-14P.セクション土層記述(定D)

- 1 灰黄褐色土10R4(2)粘性なく、締まりややあり、軽石粒、炭化物を含む。
- 2 灰黄褐色土10R4(3)粘性なく、締まりややあり、軽石粒を含む。
- 3 灰黄褐色土10R4(4)粘性なく、締まりややあり、軽石粒をわずかに含む。

3区H-14P.セクション土層記述(定E)

- 1 灰黄褐色土10R4(2)粘性なく、締まりややあり、にがい-褐色粒を含む。
- 2 灰黄褐色土10R4(3)粘性なく、締まりややあり、炭化物と軽石粒を含む。
- 3 灰黄褐色土10R4(4)粘性なく、締まりややあり、軽石粒を含む。

3区H-14P.セクション土層記述(定F)

- 1 灰黄褐色土10R4(2)粘性、締まりあり、炭化物と灰をわずかに含む。
- 2 灰黄褐色土10R4(3)粘性、締まりあり、炭化物と軽石粒を含む。
- 3 灰黄褐色土10R4(4)粘性、締まりあり、にがい-黄褐色土質ブロックを含む。

3区H-14P.セクション土層記述(定G)

- 1 灰黄褐色土10R4(2)粘性、締まりややあり、軽石粒を含む。
- 2 濃い黄褐色砂質土10R8(4) (ブロッコ)
- 3 灰黄褐色土10R4(2)粘性なく、締まりなし、軽石粒と炭化物を含む。
- 4 灰黄褐色土10R5(2)粘性、締まりなし、軽石とにがい-褐色土質ブロックを含む。
- 5 灰黄褐色土10R5(3)粘性、締まりなし、炭化物を多く含む。

3区H-14P.セクション土層記述(定H)

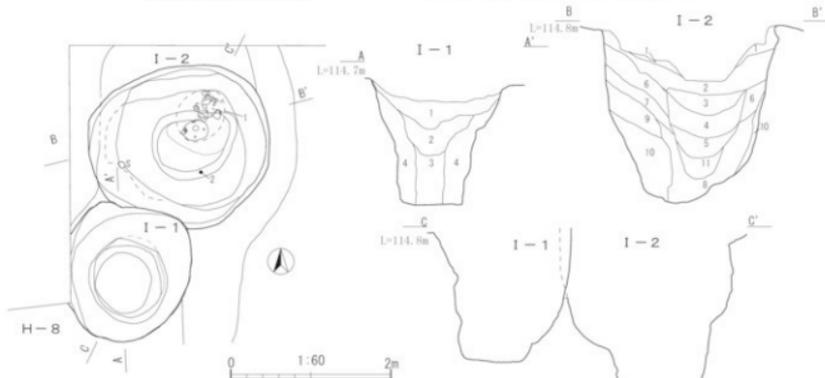
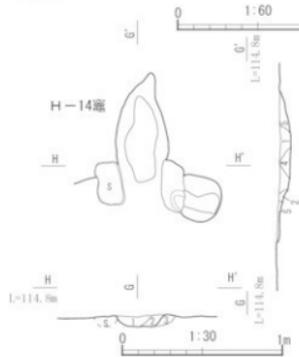
- 1 灰黄褐色土10R4(2)粘性、締まりややあり、白色軽石(φ1mm-2mm)と炭化物を含む。
- 2 濃い黄褐色土10R5(3)粘性、締まりややあり、白色軽石をわずかに含む。

3区I-1セクション土層記述(定A')

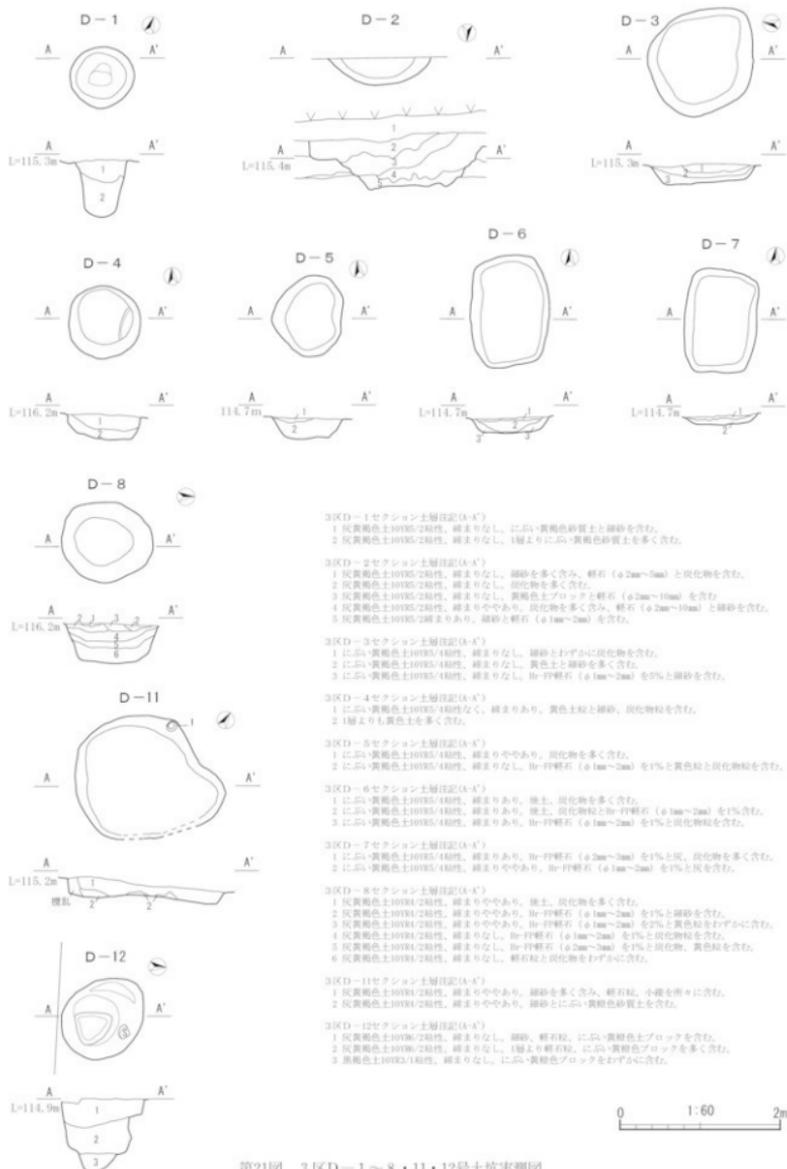
- 1 褐色土10R8(1)粘性、締まりなし、Ae-3軽石と土器片・粒を含む。
- 2 褐色土10R8(1)粘性、締まりなし、Ae-3軽石と土器片・粒を多く含む。
- 3 褐色土10R8(1)粘性、締まりなし、Ae-3軽石とにがい-褐色土をわずかに含む。
- 4 褐色土とにがい-褐色土質ブロックの埋土層、粘性、締まりなし。

3区I-2セクション土層記述(定B')

- 1 灰黄褐色土10R5(2)粘性、締まりややあり、Ae-3軽石と軽石(φ2mm-3mm)を1%含む。
- 2 灰黄褐色土10R5(2)粘性、締まりややあり、Ae-3軽石と軽石・小礫を含む。
- 3 灰黄褐色土10R5(2)粘性、締まりややあり、Ae-3軽石と軽石粒、炭化物をわずかに含む。
- 4 灰黄褐色土10R5(2)粘性ややあり、締まりあり、Ae-3軽石と小石、土器片を含む。
- 5 灰黄褐色土10R5(2)粘性ややあり、締まりあり、Ae-3軽石と小礫を含む。
- 6 灰黄褐色土10R5(2)粘性ややあり、締まりあり、Ae-3軽石と炭化物、砂質ブロックを含む。
- 7 灰黄褐色土10R5(2)粘性ややあり、締まりあり、Ae-3軽石と砂粒ブロックを多く含む。
- 8 灰黄褐色土10R5(2)粘性なく、締まりややあり、Ae-3軽石と砂粒ブロック、炭化物を含む。
- 9 灰黄褐色土10R8(1)
- 10 褐色土10R8(1)
- 11 灰黄褐色土10R4(2)粘性、締まりなし、磁石、小礫を含む。



第20図 3区H-14号住居跡、I-1・2号井戸跡実測図



3KD-1セクション土層注記(A-A')

- 1 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりなし。に高い黄褐色砂質土と細砂を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりなし。1層より高い黄褐色砂質土を多く含む。

3KD-2セクション土層注記(A-A')

- 1 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりなし。細砂を多く含む。軽石 (φ 2mm~5mm) と炭化物を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりなし。炭化物を多く含む。
- 3 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりなし。黄褐色土ブロックと軽石 (φ 2mm~10mm) を含む。
- 4 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりや中あり。炭化物を多く含む。軽石 (φ 2mm~10mm) と細砂を含む。
- 5 灰黄褐色土10YR5/2粘性。締まりあり。細砂と軽石 (φ 1mm~2mm) を含む。

3KD-3セクション土層注記(A-A')

- 1 に高い黄褐色土10YR5/4粘性。締まりなし。細砂とわずかに炭化物を含む。
- 2 に高い黄褐色土10YR5/4粘性。締まりなし。黄色土と細砂を多く含む。
- 3 に高い黄褐色土10YR5/4粘性。締まりなし。Hr-PP軽石 (φ 1mm~2mm) を0%と細砂を含む。

3KD-4セクション土層注記(A-A')

- 1 に高い黄褐色土10YR5/4粘性なく。締まりあり。黄色土と細砂。炭化物を含む。
- 2 1層よりも黄色土を多く含む。

3KD-5セクション土層注記(A-A')

- 1 に高い黄褐色土10YR5/4粘性。締まりや中あり。炭化物を多く含む。
- 2 に高い黄褐色土10YR5/4粘性。締まりなし。Hr-PP軽石 (φ 1mm~2mm) を1%と黄色土と炭化物を含む。

3KD-6セクション土層注記(A-A')

- 1 に高い黄褐色土10YR5/4粘性。締まりあり。粘土。炭化物を多く含む。
- 2 に高い黄褐色土10YR5/4粘性。締まりあり。粘土。炭化物とHr-PP軽石 (φ 1mm~2mm) を4%を含む。
- 3 に高い黄褐色土10YR5/4粘性。締まりあり。Hr-PP軽石 (φ 1mm~2mm) を1%と炭化物を含む。

3KD-7セクション土層注記(A-A')

- 1 に高い黄褐色土10YR5/4粘性。締まりあり。Hr-PP軽石 (φ 2mm~3mm) を1%と炭化物を多く含む。
- 2 に高い黄褐色土10YR5/4粘性。締まりや中あり。Hr-PP軽石 (φ 1mm~2mm) を1%と灰を含む。

3KD-8セクション土層注記(A-A')

- 1 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりや中あり。粘土。炭化物を多く含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりや中あり。Hr-PP軽石 (φ 1mm~2mm) を1%と細砂を含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりや中あり。Hr-PP軽石 (φ 1mm~2mm) を2%と黄色土をわずかに含む。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりなし。Hr-PP軽石 (φ 1mm~2mm) を1%と炭化物を含む。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりなし。Hr-PP軽石 (φ 2mm~3mm) を1%と炭化物。黄色土を含む。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりなし。軽石と炭化物をわずかに含む。

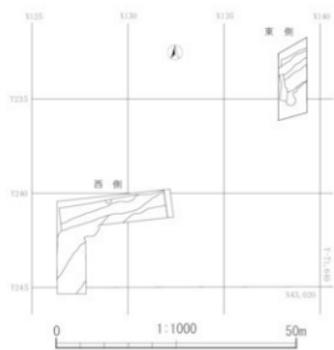
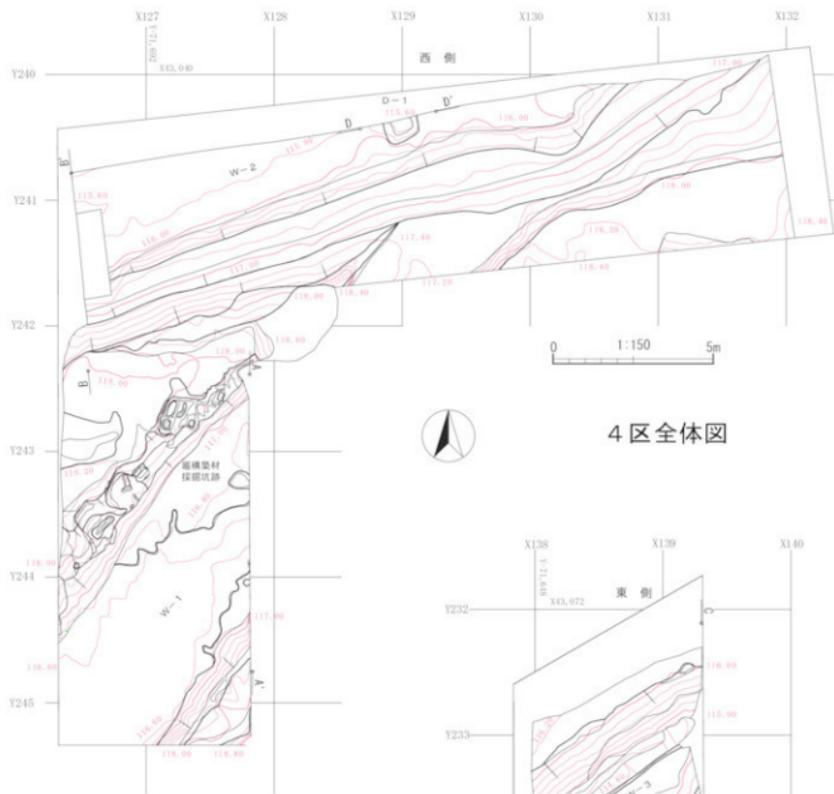
3KD-11セクション土層注記(A-A')

- 1 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりや中あり。細砂を多く含む。軽石。小礫を所々に含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2粘性。締まりや中あり。細砂とに高い黄褐色砂質土を含む。

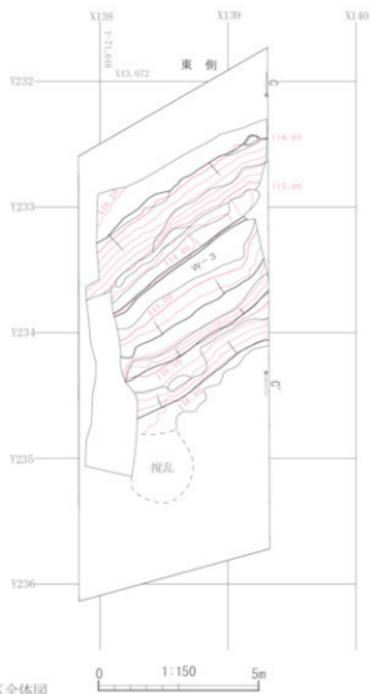
3KD-12セクション土層注記(A-A')

- 1 灰黄褐色土10YR6/2粘性。締まりなし。細砂。軽石。に高い黄褐色土ブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土10YR6/2粘性。締まりなし。1層より軽石。に高い黄褐色ブロックを多く含む。
- 3 黄褐色土10YR3/1粘性。締まりなし。に高い黄褐色ブロックをわずかに含む。

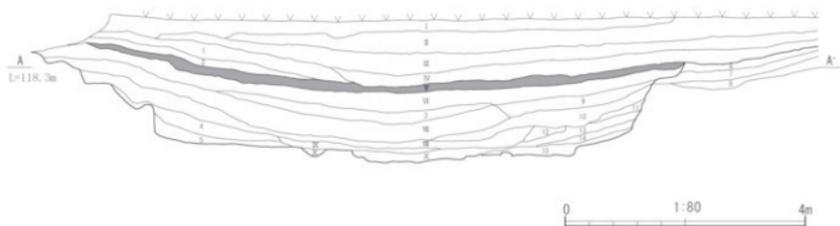
第21図 3KD-1～8・11・12号土坑実測図



第22図 4区全体図



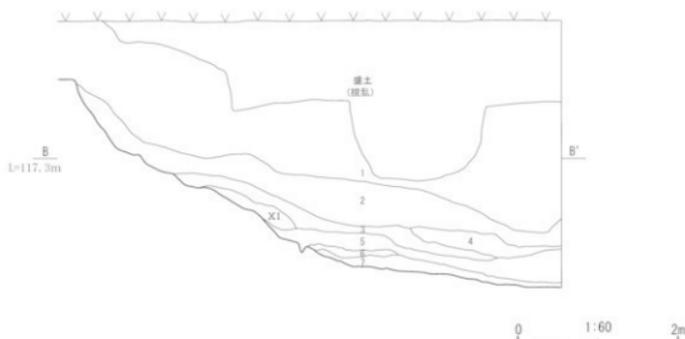
4区W-1東壁



4区W-1(西壁)東壁セクション(A-A')

- 1 灰黄褐色土10YR5/2 粘性なく、締まりややあり、Aa-B 軽石と軽石 (φ2mm~5mm) を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし。1層とAa-B 軽石の混土层、Aa-B 軽石を多く含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 粘性、締まりあり、白色軽石 (φ2mm~10mm) を伴った小礫を含む。
- 4 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりあり、白色軽石 (φ2mm~3mm) をわずかに含む。
- 5 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりあり、に高い黄褐色アロクをわずかに含む。
- 6 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりややあり、Aa-B 軽石アロクを伴った小礫を含む。
- 7 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりややあり、白色軽石 (φ1mm~2mm) を1%と砂質アロクを含む。
- 8 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりややあり、2層より砂質アロクを多く含む。
- 9 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし、細砂を多く含む、白色軽石 (φ2mm~5mm) と小礫を含む。
- 10 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし、2層より白色軽石 (φ2mm~5mm) と小礫を多く含む。
- 11 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし、明黄褐色砂質アロクを含む。
- 12 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし、明黄褐色砂質アロクと小礫を含む。
- 13 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし、明黄褐色砂質アロクを多く含む。
- 14 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし、明黄褐色砂質アロクをわずかに含む、小礫を含む。
- 15 灰黄褐色土、に高い黄褐色砂質土の混土层。

4区W-2西壁

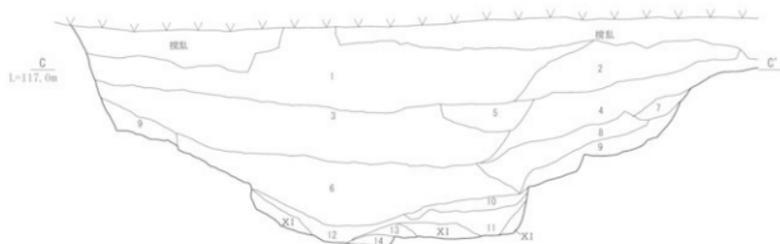


4区W-2西壁セクション土層注記(B-B')

- 1 灰黄褐色土10YR4/2粘性、締まりややあり、細砂、軽石混、小礫を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2粘性、締まりややあり、細砂、軽石を含む、礫 (φ5mm~30mm) を多く含む。
- 3 灰黄褐色土10YR5/2粘性なく、締まりややあり、細砂、小礫、に高い黄褐色砂質アロクを含む。
- 4 灰黄褐色土10YR5/2粘性なく、締まりややあり、2層より礫が少ない。
- 5 灰黄褐色土10YR5/2粘性なく、締まりややあり、細砂、軽石を含む、に高い黄褐色砂質アロクを多く含む。
- 6 明黄褐色土砂質アロク10YR7/6。
- 7 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりあり、白色軽石 (φ2mm~3mm) を1%と、に高い黄褐色砂質アロクを含む。

第23図 4区W-1号溝跡、W-2号溝跡(堀跡)実測図

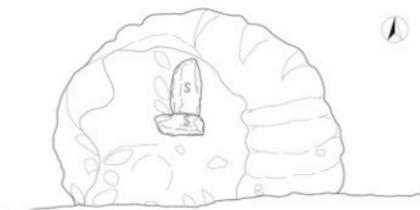
4区W-3東壁セクション



4区D-1北壁



竈構築材採掘坑跡 (W-1北壁側)



4区W-3東壁セクション (C-C')

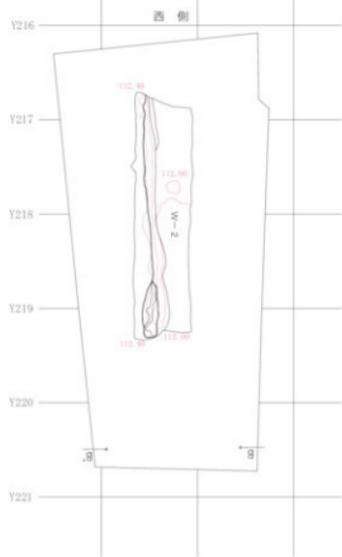
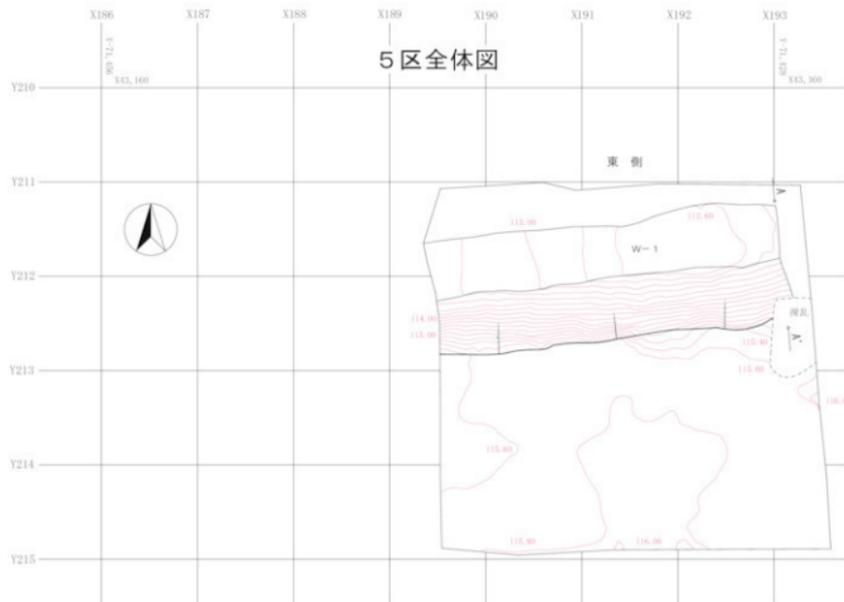
- 1 灰黄褐色土10193/2砂質。結まりややあり。細砂を含む。
- 2 灰黄褐色土10193/2粘質。結まりややあり。細砂、軽石。明黄褐色砂岩質ブロックを含む。
- 3 灰黄褐色土10193/2粘質。結まりややあり。細砂。明黄褐色砂岩質ブロック。小礫を含む。
- 4 灰黄褐色土10191/2粘質。結まりややあり。細砂。明黄褐色砂岩質ブロックを多く含む。
- 5 灰黄褐色土10193/2砂質土。軽石。小礫と砂岩質ブロック。細砂を多く含む。
- 6 灰黄褐色土10195/2粘質。結まりややあり。細砂。明黄褐色砂岩質ブロック。小石。灰化物を含む。
- 7 灰黄褐色土10191/1粘質。結まりややあり。白色軽石。5%と黒褐色ブロック10193/1を含む。
- 8 灰黄褐色土10191/1粘質。結まりややあり。にぶい黄褐色砂岩質ブロックを含み。黒褐色土と白色軽石を含む。
- 9 灰黄褐色土10195/2粘質。結まりややあり。にぶい黄褐色砂岩質ブロックを多く含む。
- 10 灰黄褐色土10195/2粘質。結まりややあり。にぶい黄褐色砂岩質ブロックを含む。
- 11 にぶい黄褐色砂質土と黒褐色土の混層。
- 12 黒褐色土ブロック。
- 13 にぶい黄褐色砂質土。黒褐色土ブロックをわずかに含む。

4区D-1北壁セクション土層目録 (D-D')

- 1 灰黄褐色土10196/2粘質。結まりややあり。細砂。白色軽石。灰白色土ブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土10196/2粘質。結まりややあり。細砂。白色軽石。灰白色土ブロック。黒褐色土ブロックを含む。
- 3 灰黄褐色土10196/2粘質。結まりややあり。細砂。白色軽石。灰白色土ブロックをわずかに含む。
- 4 灰黄褐色土10196/2粘質。結まりややあり。細砂。灰白色土ブロック。10-15%軽石 (φ3mm-20mm) をわずかに含む。
- 5 灰黄褐色土10191/2粘質。結まりあり。白色軽石をわずかに含む。
- 6 灰黄褐色土10196/2粘質。結まりあり。細砂。灰白色土ブロックを1%含む。
- 7 灰黄褐色土10196/2粘質。結まりあり。灰白色土ブロックを多く含む。

第24図 4区W-3号溝跡 (廻廊)、D-1号土坑、電構築材採掘坑跡実測図

5区全体図



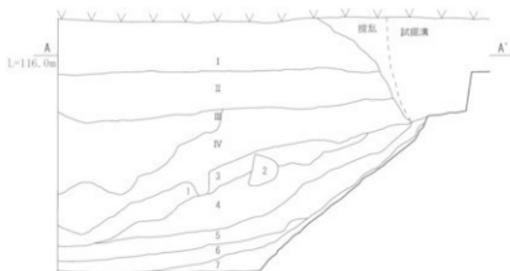
舊海城旧伏想定図

出典 新島県環境文化財調査事業「江戸時代分替寺・尼寺中興地蔵」(1) 1987
 『1984年度地籍図(旧伏想定図)』(一部改変)



第25図 5区全体図及び舊海城旧伏想定図

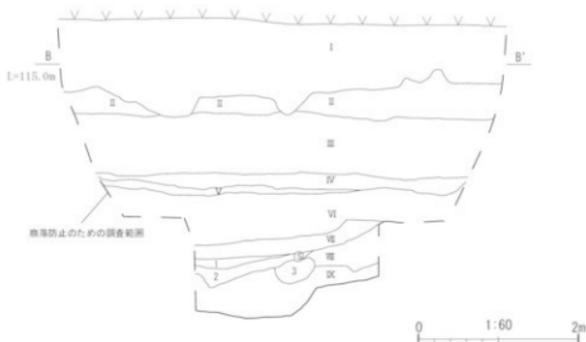
5区W-1東壁



5区W-1東壁セクション土層注記 (A-A')

- 1 灰黄褐色土10186/2粘性や中あり。締まりあり。西層より黒褐色粘質土ブロックが少ない。
- 2 灰黄褐色土10185/1粘性。締まりあり。黒砂を多く含む。灰白色粘質土ブロックを含む。
- 3 褐色土10185/1粘性。締まりあり。黒砂を多く含む。灰褐色粘質土ブロックを多く含む。
- 4 濃い黄褐色土10187/3粘性。締まりあり。黒砂を多く含む。灰褐色粘質土ブロック。濃い黄褐色砂質土ブロック、小礫を含む。
- 5 濃い黄褐色土10187/3粘性。締まりあり。4層に石を含む。小礫を多く含む。
- 6 褐色粘砂層10185/1。砂を多く含む。
- 7 褐色粘砂層10185/1。石・小礫を多く含む。

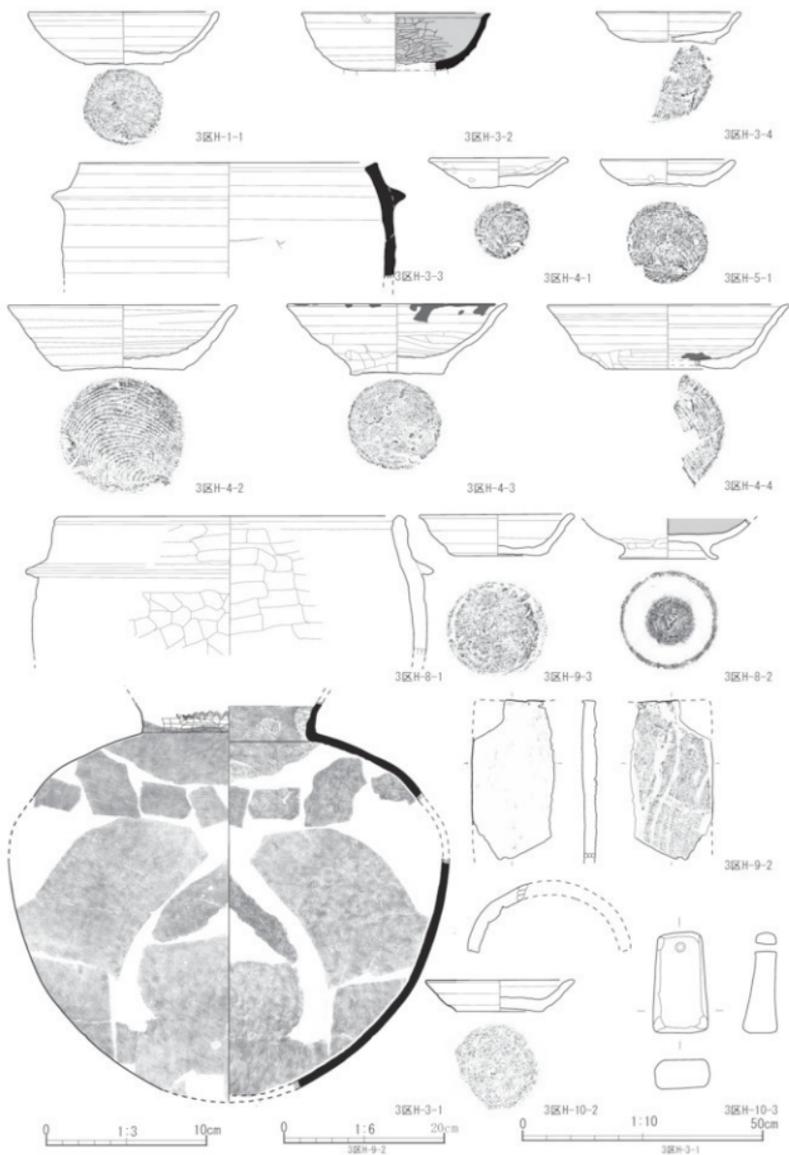
5区W-2南壁



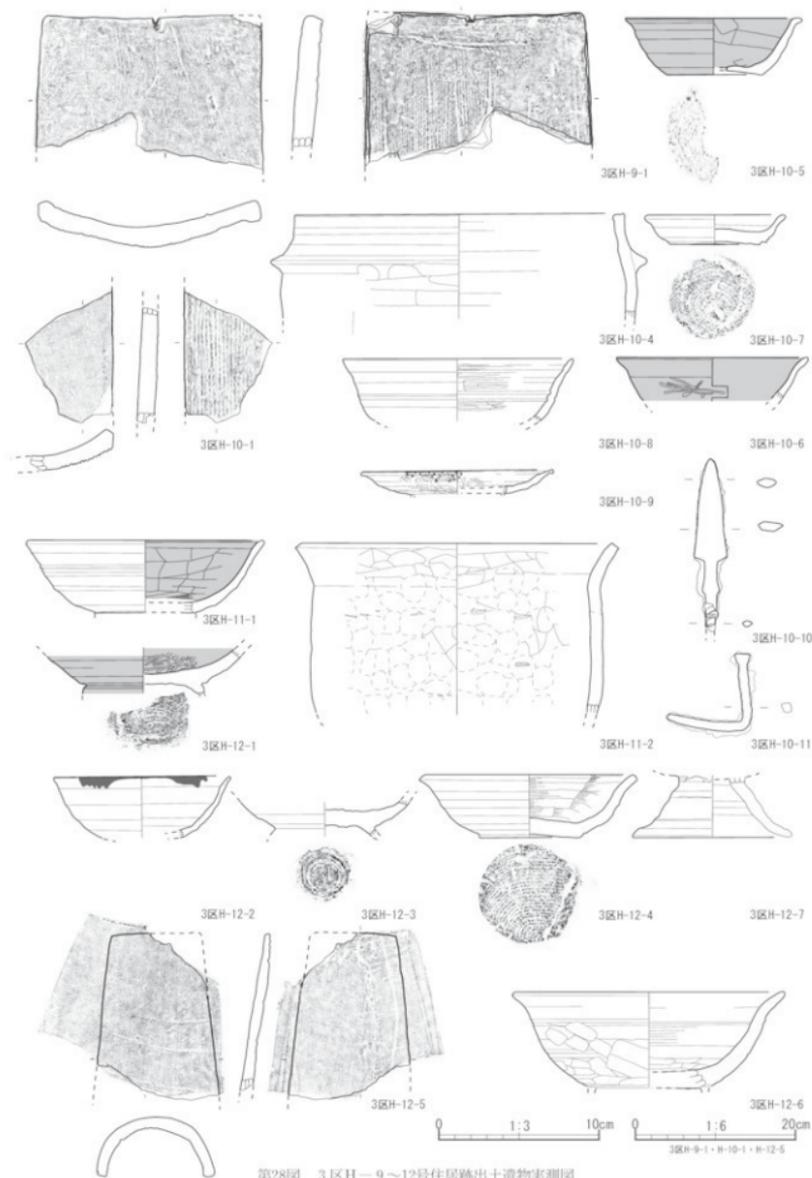
5区W-2南壁セクション土層注記 (B-B')

- 1 灰黄褐色土10184/2砂礫を含む。
- 2 灰黄褐色粘質土。
- 3 灰黄褐色土。砂礫ブロック、石を含む。

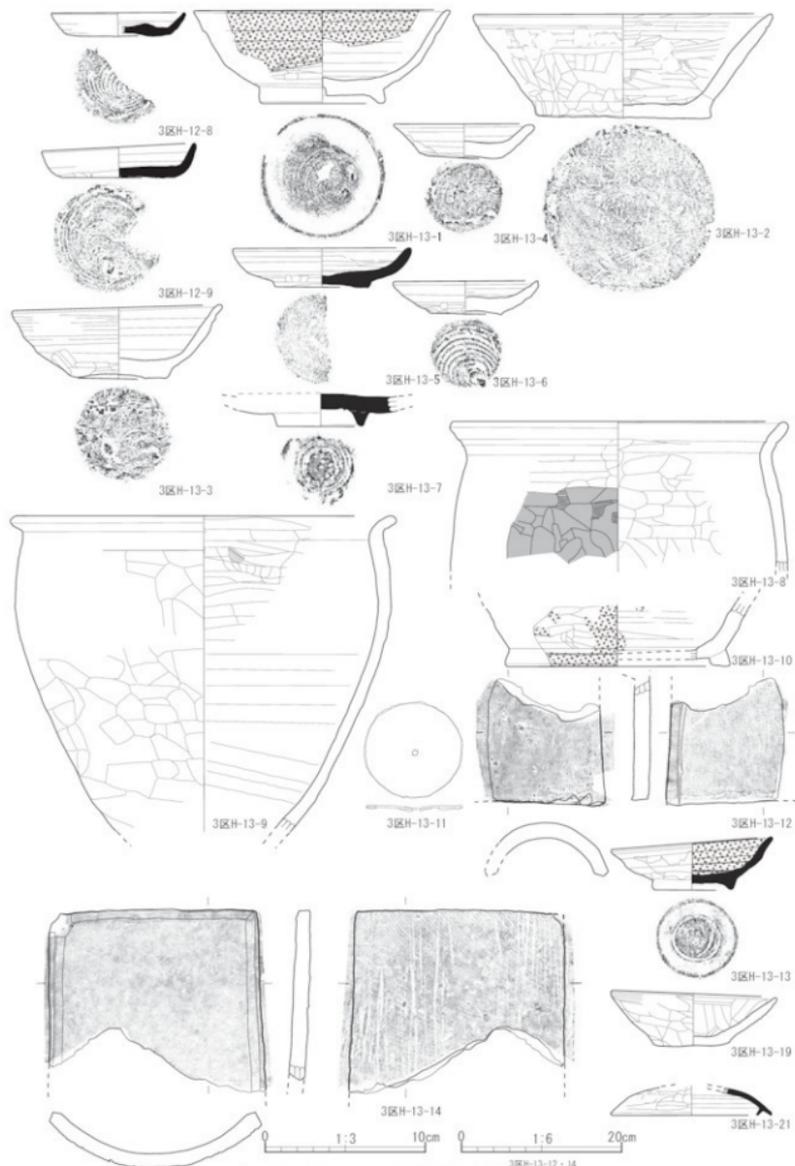
第26図 5区W-1・2号溝跡(細跡)実測図



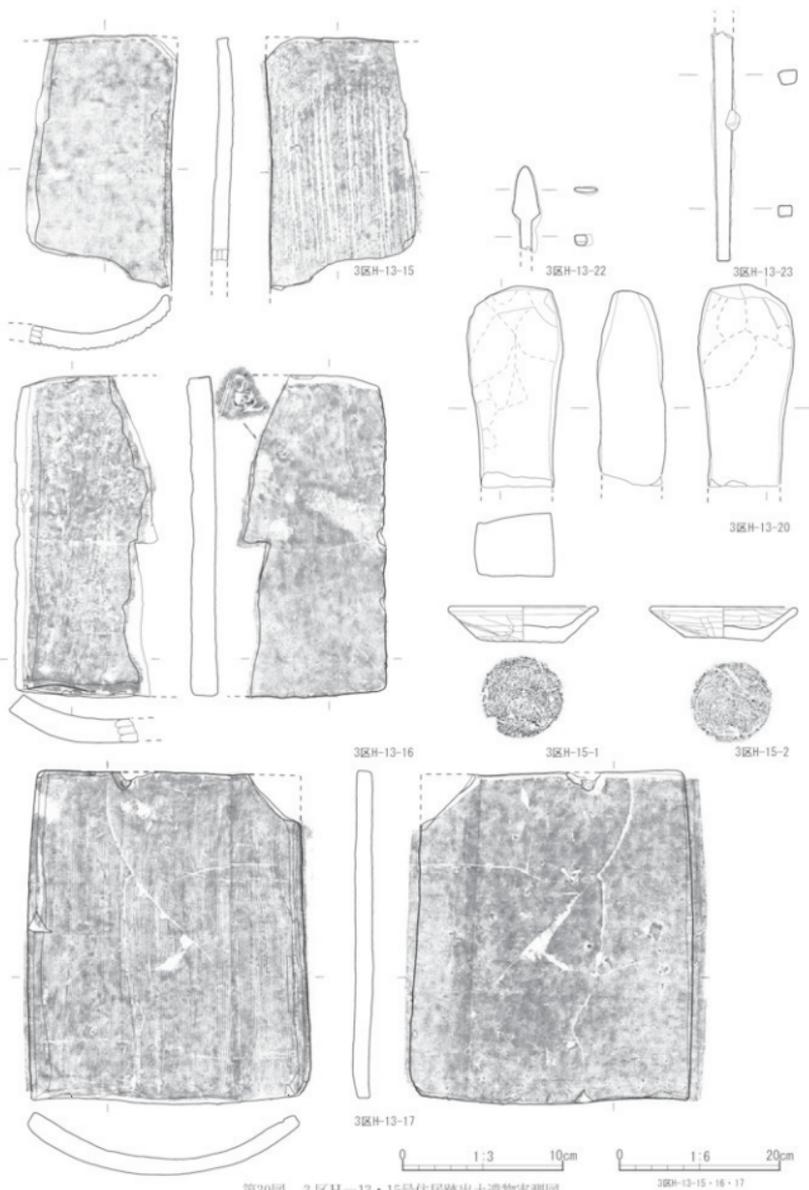
第27图 3区H-1·3~5·8~10号住居跡出土物実測図



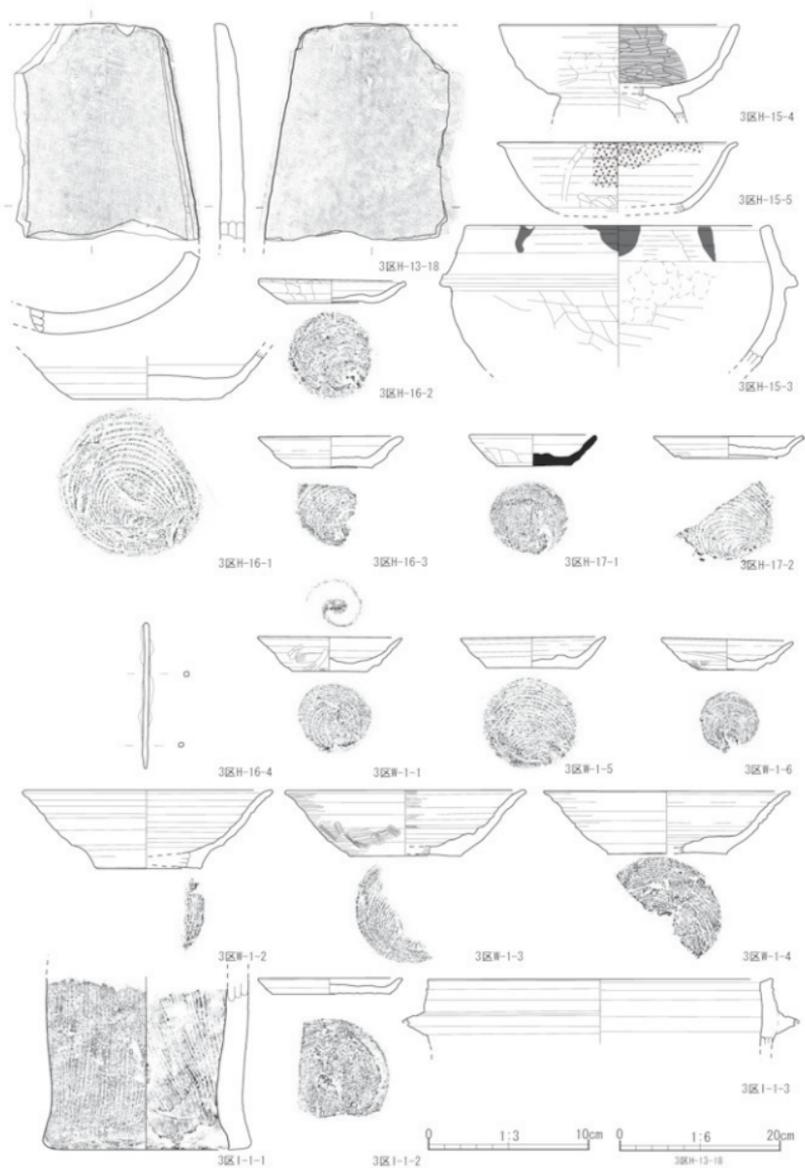
第28图 3区H—9~12号住居跡出土遺物実測図



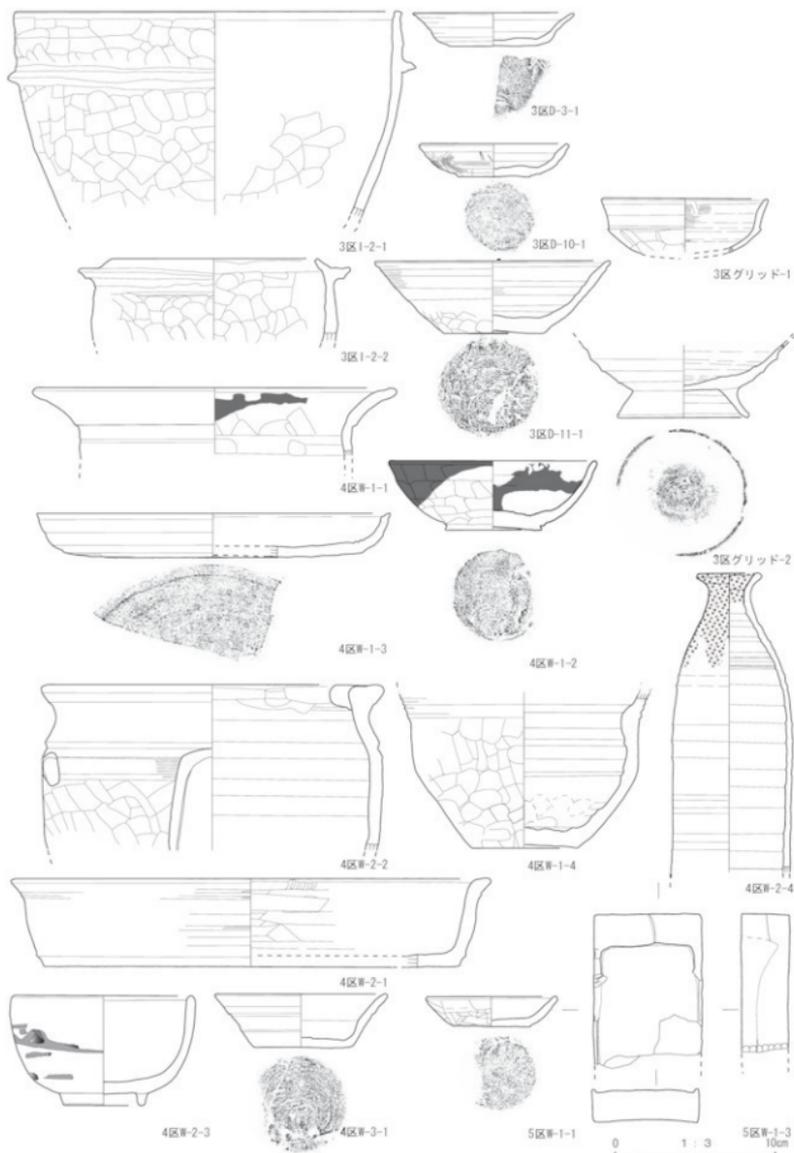
第29图 3区H-12·13号住居跡出土遺物実測図



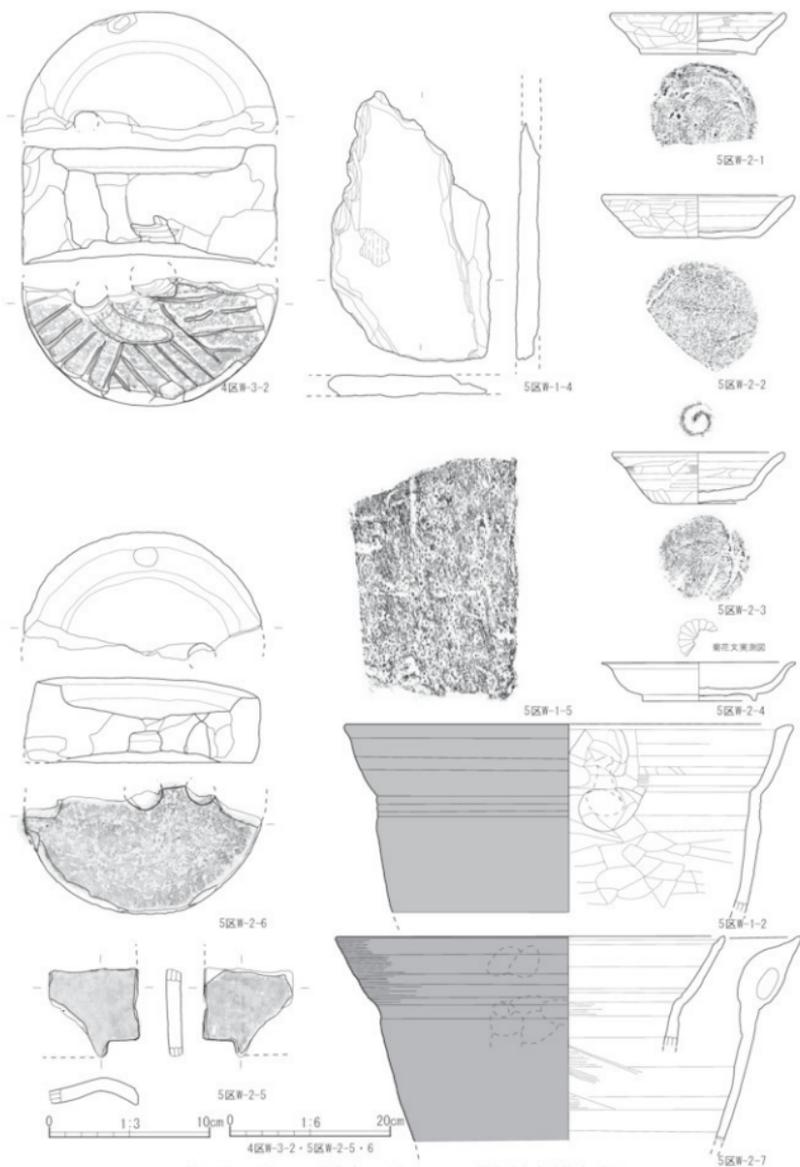
第30图 3区H-13·15号住居跡出土遺物実測図



第31图 3区H-13·15~17号住居跡、I-1·2号井戸跡、W-1号溝跡出土遺物実測図



第32図 3区D-3・10・11号土坑、1-2号井戸跡、グリッド、4区W-1～3号溝跡、5区W-1号溝跡出土遺物実測図



第33图 4区W-3号清跡、5区W-1・2号清跡出土遺物実測図



1区1面調査区全景（南西から）



1区1面A s-B軽石層下水田跡全景（北から）



1区1面A s-B軽石層下水田跡全景（西から）



1区1面A s-B軽石層下水田跡全景（南から）



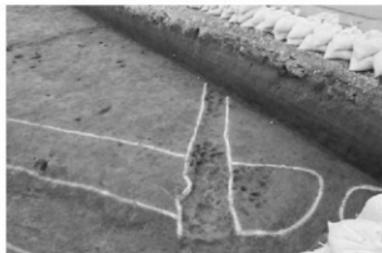
1区1面W-3号溝跡4・5号畦畔全景（東から）



1区1面1・2号水口全景（南から）

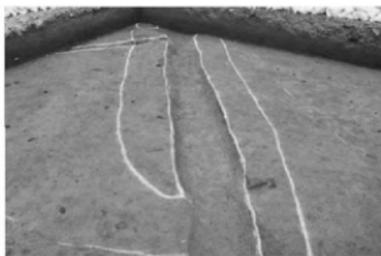


1区1面W-1号溝跡全景（東から）

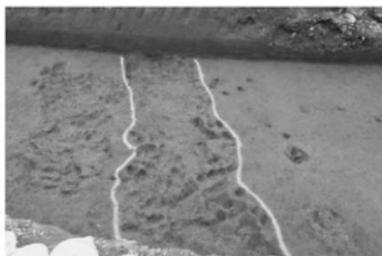


1区1面W-2号溝跡、3号水口全景（南から）

図版 2



1区1面W-3号溝跡4・5号畦畔全景(北から)



1区1面W-4号溝跡全景(南から)



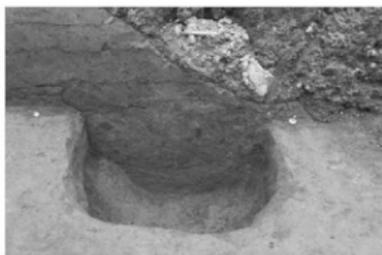
1区1面W-5号溝跡全景(南から)



1区1面東壁畦畔セクション(西から)



1区1面1・2号凹み跡全景(南から)



1区1面D-1号土坑全景(東から)



1区2面調査区全景(南西から)



1区2面畠跡、W-1号溝跡全景(南から)



1区2面畠跡確認面（北東から）



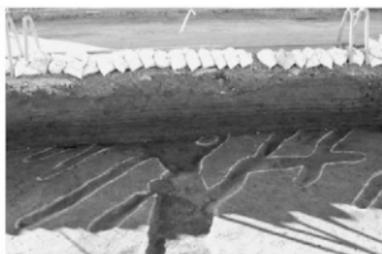
1区2面畠跡全景（西から）



1区2面畠跡全景（南西から）



1区2面畠跡セクション（東から）



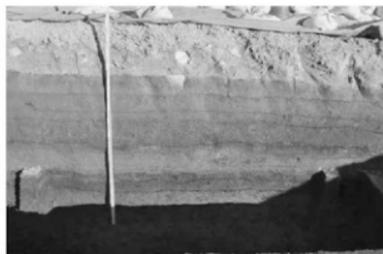
1区2面畠跡、W-3号溝跡全景（北から）



1区2面畠跡、W-1号溝跡全景（北西から）



1区2面W-2号溝跡全景（北から）



1区1・2面東壁セクション（西から）



2区調査区全景（南から）



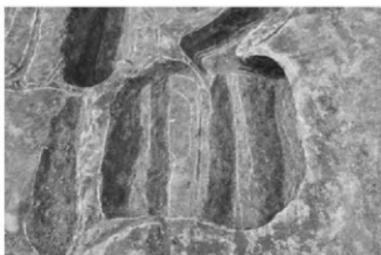
2区W-1号溝跡全景（北から）



2区竈構築材採掘坑跡全景（北西から）



2区竈構築材採掘坑跡全景（南西から）



2区竈構築材採掘坑跡（南東から）



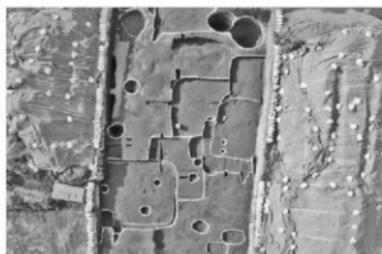
2区東壁セクション（西から）



3区調査区全景（上が北）



3区調査区西側（上が西）



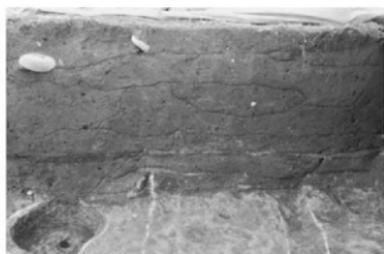
3区調査区中央 (上が西)



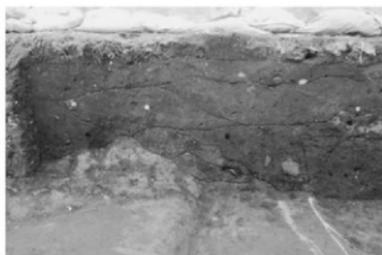
3区H-1号住居跡全景 (西から)



3区H-1～4・6号住居跡全景 (南から)



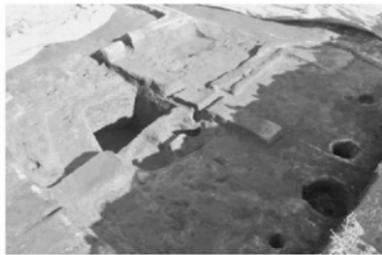
3区H-2号住居跡・貼り床南壁セクション (北から)



3区H-4号住居跡南壁セクション (北から)



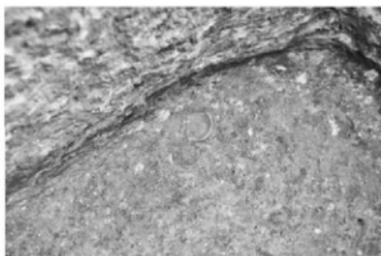
3区H-4号住居跡南壁遺物出土状況 (北から)



3区H-4・6号住居跡掘り方・D-9号土坑全景



3区D-9号土坑全景 (西から)



3区D-9号土坑遺物出土状況(西から)



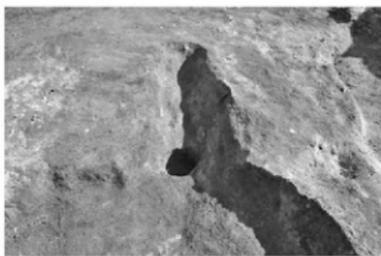
3区H-5・7号住居跡全景(南から)



3区H-8・9号住居跡全景(西から)



3区H-8号住居跡全景(西から)



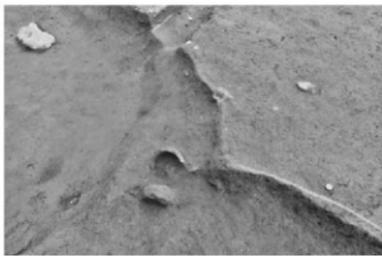
3区H-8号住居跡掘り方全景(西から)



3区H-10・12・15・16号住居跡全景(西から)



3区H-10号住居跡全景(南から)



3区H-12号住居跡全景(北西から)



3区H-12号住居跡電掘り方全景（北西から）



3区H-12号住居跡遺物出土状況（北西から）



3区H-11・13号住居跡全景（西から）



3区H-13号住居跡全景（西から）



3区H-13号住居跡遺物出土状況全景（西から）



3区H-13号住居跡電掘り方全景（西から）



3区H-13号住居跡遺物出土状況（北から）



3区H-13号住居跡電掘り方セクション（西から）



3区H-13号住居跡貯蔵穴遺物出土状況(西から)



3区H-11・13号住居跡掘り方全景(北から)



3区H-14号住居跡全景(東から)



3区H-14号住居跡竈全景(西から)



3区H-10・15・16号住居跡全景(西から)



3区H-15号住居跡遺物出土状況(西から)



3区H-10・16号住居跡全景(西から)



3区H-16号住居跡遺物出土状況(西から)



3区H-16号住居跡竈全景（西から）



3区H-17号住居跡竈全景（西から）



3区H-17号住居跡竈掘り方全景（西から）



3区I-1・2号井戸跡全景（北から）



3区I-2号井戸跡遺物出土状況（東から）



3区W-1号溝跡全景（南から）



3区W-1号溝跡遺物出土状況（東から）



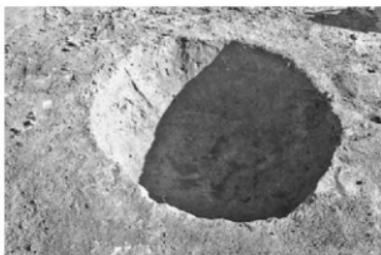
3区D-1号土坑全景（南から）



3区D-3号土坑全景 (西から)



3区D-5~8号土坑全景 (東から)



3区D-8号土坑全景 (北から)



3区D-10号土坑全景 (南から)



3区D-13号土坑全景 (北から)



3区D-14号土坑全景 (西から)



3区D-15号土坑全景 (西から)



3区南壁セクション (北から)



4区東側調査区全景（南から）



4区東側調査区W-3号溝跡（堀跡）全景（東から）



4区東側調査区W-3号溝跡（堀跡）全景（西から）



4区西側調査区全景（西から）



4区西側調査区W-1号溝跡セクション（西から）



4区西側調査区遺物出土状況（東から）



4区西側調査区竈構築材採掘坑跡全景（南から）



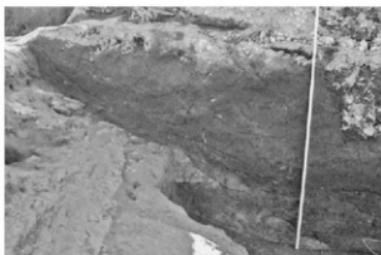
4区西側調査区竈構築材採掘坑跡近景（東から）



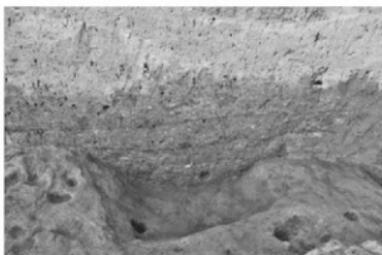
4区西側調査区W-2号溝跡(堀跡)全景(西から)



4区西側調査区W-2号溝跡(堀跡)全景(東から)



4区西側調査区W-2号溝跡(堀跡)西壁セクション



4区西側調査区D-1号土坑全景(南から)



5区東側調査区W-1号溝跡(堀跡)全景(西から)



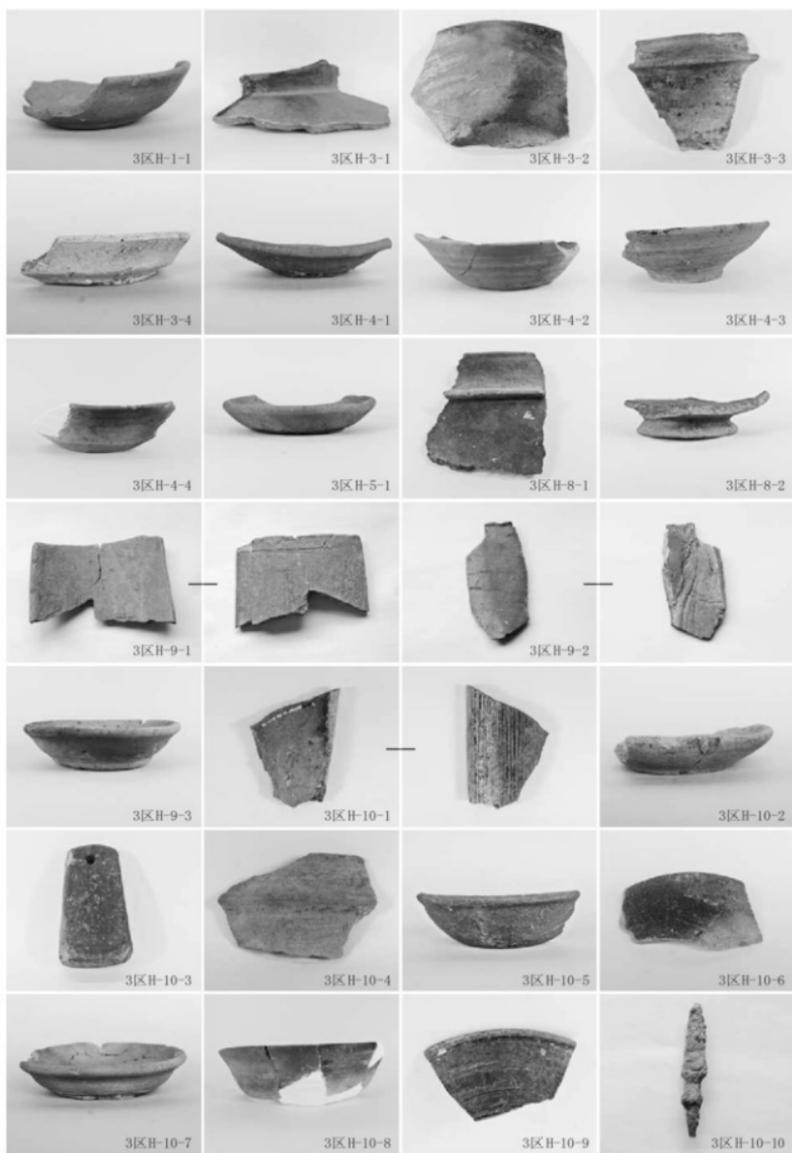
5区東側W-1号溝跡(堀跡)東壁セクション(西から)

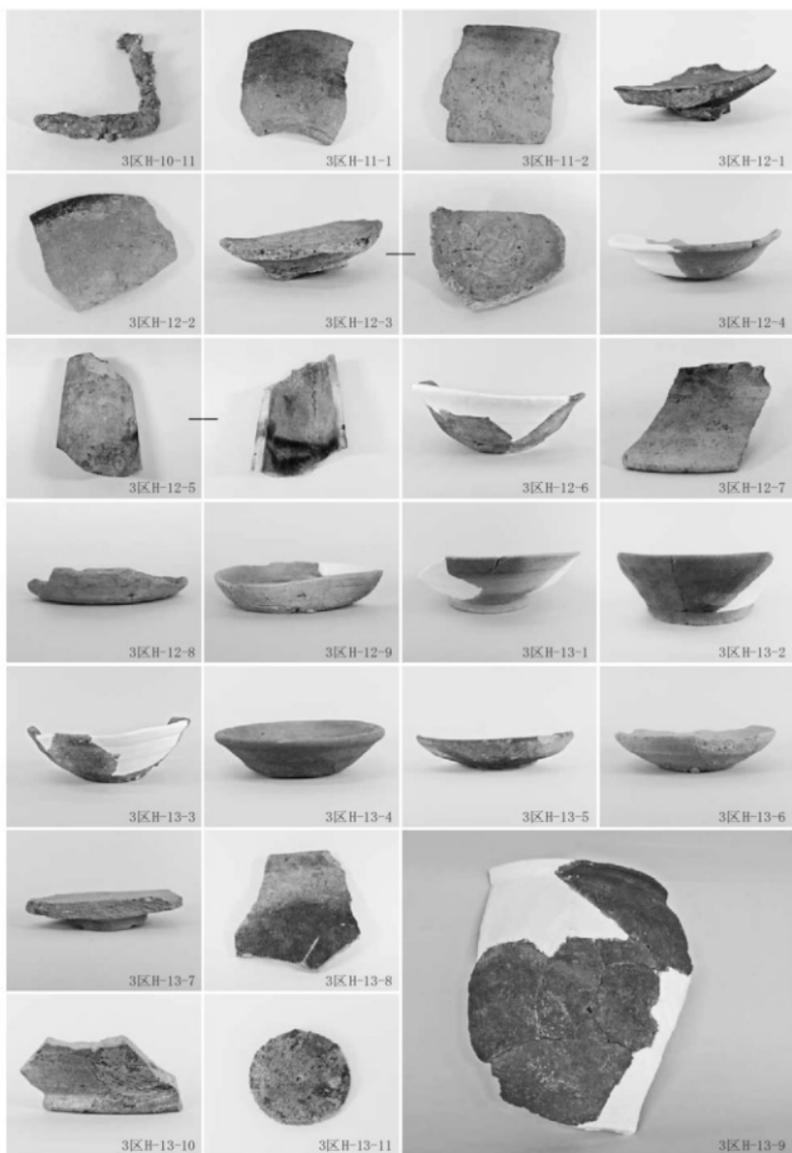


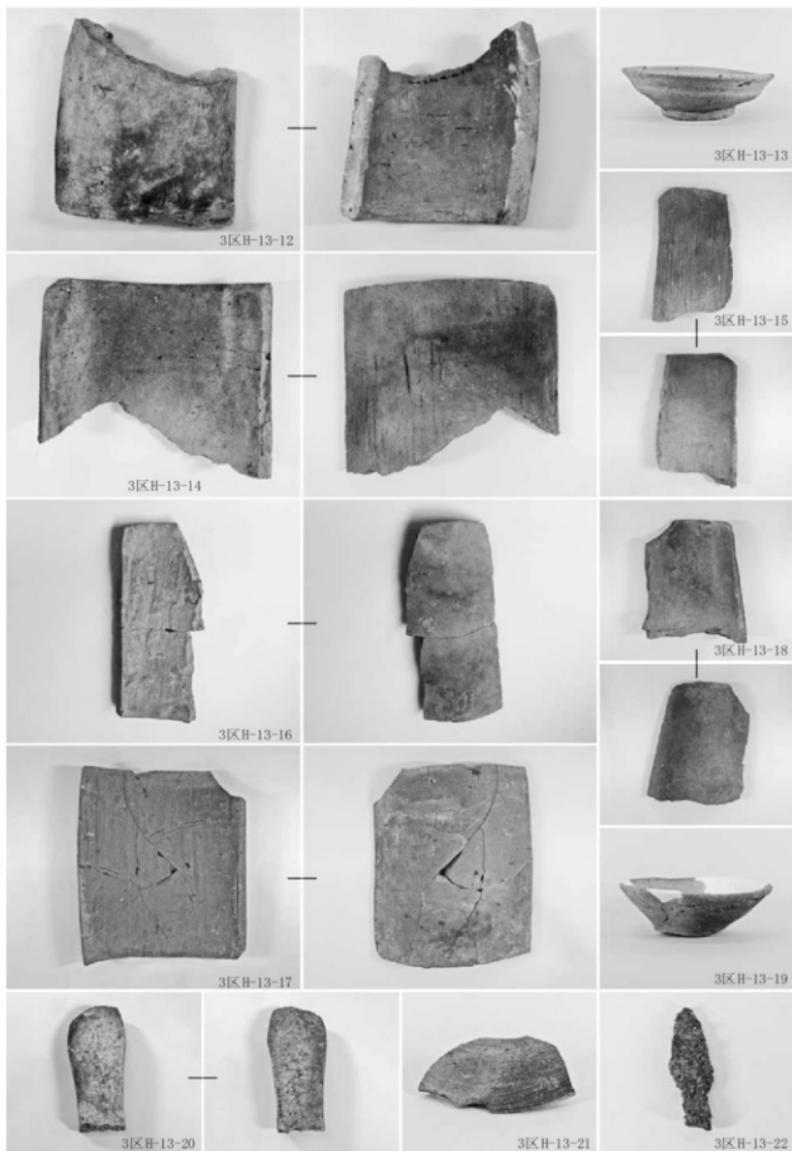
5区西側調査区W-2号溝跡(堀跡)全景(北から)



5区西側調査区W-2号溝跡(堀跡)全景(南から)











抄 録

フリガナ	モトソウジャ オウミ イセキグン
書名	元総社蒼海遺跡群 (36)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	神宮 聡 (前橋市教育委員会) 荻野博巳・金子正人 (スナガ環境調設株式会社)
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発行年月日	西暦2011年3月11日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
元総社蒼海遺跡群 (36)	前橋市元総社町 1914.1916.1917. 2039.2044.2177. 2185ほか 元総社町総社3106. 3108.3136ほか	10201	22A130 -36	36°22'13"	139°04'37"	20100909 ～ 20110311	1,640m ²	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (36)	溝跡	古墳時代	溝跡3条	土師器・須恵器・砥石・ 鉄製品・施釉陶器・瓦・ 土師器・須恵器	鉄製紡錘車、鉄鎌が出土
	畠跡	古墳時代	サク列跡51列		
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡17軒	土師器・須恵器	畦畔7本検出 2箇所検出
	水田跡	平安時代	水田跡7区画	土師器・須恵器	地下式土壌状の土坑1基
	探掘跡	平安時代	電構築材探掘坑跡	土師器・須恵器	
	溝跡	平安～中近世	溝跡8条	土師器・須恵器	
	土坑	平安～中近世	土坑17基	土師器・須恵器	
井戸跡	平安～中世	井戸跡2基	土師器・埴輪		
堀跡	中世	堀跡4箇所	かわらけ・石臼・板碁・ 内耳土鍋・陶器・焙烙	蒼海城の堀跡	

元総社蒼海遺跡群 (36)

2011年3月3日 印刷
2011年3月11日 発行

発行 前橋市教育委員会
前橋市三保町二丁目10-2
編集 スナガ環境調設株式会社
前橋市青柳町211番地の1
印刷 朝日印刷工業株式会社

